165
854

判事樋山廣業著述

頭書

字解 刑事訴訟法註解

版權所有

岡島寶文館藏

特 4/445/5/28

判事樋山廣業著述

判事語法詳解

版權所有

岡島寶文館藏

朕刑事訴訟法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治二十三年十月六日

内閣總理大臣伯爵山縣有朋

内務大臣伯爵西郷從道

司法大臣伯爵山田顯義

大藏大臣伯爵松方正義

陸軍大臣伯爵大山巖

遞信大臣伯爵後藤象二郎

外務大臣子爵青木周藏

海軍大臣子爵樺山資紀

文部大臣芳川顯正

農商務大臣陸奥宗光

凡例

一本書ハ刑事訴訟法及ヒ之ニ屬セル各法律規則ニ註解ヲ加ヘタルモノナリ

一本書ハ何人ニテモ了解シ易カランカ爲メニ極メテ平易ニ俗言例示ヲ加ヘ且ツ假名ヲ施シ以テ解ス然シテ常ニ法理ヲ解クニ怠ラサルヲ以テ一讀ノ下ニ研究ノ材料トナランコトヲ欲ス

一本書ヲ讀ムニ先ツ下欄本文ノミヲ讀ミ次ニ上欄ノ字解ヲ讀ミ終ニ下欄ノ註解ヲ讀ムヘシ蓋了解スルニ近キ法タリ

一本書ノ假名ハ或ハ綴字ノ誤リアリテ本字ニ適セサルコトアリ之レ別ニ假名ヲ主トセサルニアリ故ニ讀者之ヲ咎ムル勿レ

頒書字解 刑事訴訟法俗解目次

緒言……一丁
第一編 總則……仝丁
第二編 裁判所……十八丁
第一章 裁判所ノ管轄……仝丁
第二章 裁判所職員ノ除斥及ヒ忌避、回避……二十六丁
第三編 犯罪ノ搜査、起訴及ヒ豫審……三十丁
第一章 搜査……仝丁
第一節 告訴及ヒ告發……三十三丁
第二節 現行犯罪……三十八丁
第二章 起訴……四十二丁

第三章　豫審……四十六丁
第一節　令狀……四十七丁
第二節　密室監禁……六十二丁
第三節　證據……六十四丁
第四節　被告人ノ訊問及ヒ對質……六十七丁
第五節　檢證、搜索及ヒ物件差押……七十三丁
第六節　證人訊問……八十一丁
第七節　鑑定……九十七丁
第八節　現行犯ノ豫審……百二丁
第九節　保釋……百十丁
第十節　豫審終結……百十七丁
第四編　公判……百三十丁
第一章　通則……仝丁

第二章　區裁判所公判……百五十八丁
第三章　地方裁判所公判……百七十三丁
第五編　上訴……百七十九丁
第一章　通則……仝丁
第二章　控訴……百八十五丁
第三章　上告……百九十七丁
第四章　抗告……二百十九丁
第六編　再審……二百二十四丁
第七編　大審院ノ特別權限ニ屬スル訴訟
手續……二百三十三丁
第八編　裁判執行、復權及ヒ特赦……二百三十八丁
第一章　裁判執行……仝丁
第二章　復權……二百四十三丁

第三章　特赦……二百四十七丁
附則……二百五十丁
逆警罪即決例……二百五十二丁
重罪控訴豫納金規則……二百五十八丁
輕罪控訴豫納金規則……二百六十二丁

刑事訴訟法俗解

樋山廣業著述

第一編　總則

刑事訴訟法

○刑事訴訟法ハ刑法ヲ運用シ効用ヲ收ムルニ在リ蓋シ刑法ハ罪ト刑トヲ規定シナレハ之レカ運用ノ方法ヲ設ケサレハ刑罰ヲ科スルヿヲ得サルヘシ又執行ノ方法ナケレハ其効用ヲ見サルヘシ又無辜ノ寃枉ニ陷ルヲ防キ且利ヲ侵リニ害セサルニ在リ蓋シ刑事訴訟法ハ刑法ト異ナリ良民ニ於テルルモノトス故ニ其規定ノ不當ナルトキハ爲メニ害ヲ被リ寃枉ヲ濺ク能家宅搜索財産差押ノ如キ實ニ人民ニ害ヲ與フルモノナレハ其規定ヲシ法官等ノ隨意ニ濫用爲ササラシメ手續制限ヲ立テ決シテ不當ノ處置ラシム以上刑事訴訟法ノ目的大主眼ニ在リトス故ニ一方ヨリ見レハ公益タル刑法ノ運用法タリ一方ヨリ觀レハ私益タル洗寃ノ法及ヒ權利保護法タリ

○字解

○無罪　罪ナキヲ昭ラカニスル

○無實　實ナキヲ

○科罪　罪ヲ科スル

○民權　人民ノ權利

○害　害ヲ

○法官　法官ハ裁判官ヲ云フ

○洗寃　寃ヲ洗ヒ除クヲ云フ

○無實ノ難ヲ除ク云フ

○總則

○公訴トハ犯人ニ對シ犯罪アリシカ犯人ハ此者ナルカ否ノ審按科罰ハ求ムル訴ナリ○法律ニ定メタル區別ハ裁判所構成法ニアル區裁判所檢事地方裁判所檢事ト云フ區別ナリ○公訴提起ト實行トハ事件ノ受理ノ前後ヲ以テ區別ス可シ提起ノ方法ハ第六十二條第百四十三條ナリ其三ハ公廷内ノ犯罪トス以上三箇アリ

○私訴ハ民事

第一條　公訴ハ犯罪ヲ證明シ刑ヲ適用スルコトヲ目的トスルモノニシテ法律ニ定メタル區別ニ從ヒ檢事之ヲ行フ

○公訴ノ目的ニアリ犯罪ノ證明ト刑ノ適用ト是ナリ然レトモ決シテ二アルコ非ス公訴ノ目的ハ只刑ノ適用ヲ望ムニアリ其犯罪ノ證明ハ刑ヲ適用スル必要手段ニ過キス犯罪ノ證明ナケレハ刑ヲ適用スルコヲ得ス例ヘハ此者ニ盜罪アリト云フモ單ニ盜罪アリト云フヲ以テ重禁錮ニ處スルコヲ得ス必スヤ斯ノ々々ノ證據ニ依リテ罪アリト云フヘキ證左ヲ擧ケサルヘカラサルカ如シ○檢事ノ公訴ヲ行フハ公訴權ハ社會ニアルモ各人行フトキハ弊害アレハ檢事ヲ置キ公衆ニ代リテ爲スナリ其行フトハ實行ニシテ事件ヲ公判ニ付シタルヨリ以降裁判ノ確定マテノ手續ヲ爲スヲ云フ其實行ヲ爲スニ付テハ公訴ノ提起ヲ必要トス提起トハ公訴ヲ受理セシムル手續ナリ共ニ檢事ノ權内ニアリ又檢事ニ依ラスシテ提起セラル、場合アリ第百四十二條第百四十三條第百八十四條ノ如シ

第二條　私訴ハ犯罪ニ因リ生シタル損害ノ賠償、贓物ノ返還ヲ目的トスルモノニシテ民法ニ從ヒ被害者ニ屬ス

○私訴ハ損害ノ賠償ト贓物ノ返還トヲ目的トス凡ソ何人ニテモ人ニ損害ヲ加フルトキハ之ヲ償ハサル可カラサルハ民法上原則タリ況ンヤ犯罪ニ因リテ加ヘタル損害ニ於テヲヤ之レ本條ノ規定アル所以ナリ○民法ニ從フトハ損害ノ算定方又ハ所有權ノ證明方法拋棄私和等ノ事ヲ云フ○被害者ニ屬ストハ必テス公訴ノ如ク訴ヲ爲スヘシト令令スルニアラス之ヲ訴フルト否トハ被害者ノ了簡次第ナリ之レ私益ニ關スルノミニシテ自己ニ於テ利益ヲ拋棄セハ別ニ訴フルノ要ナシ公訴ト異ナル之レ一点トス

上ノ損害ヲ求ムル訴ナリ○損害ノ賠償トハ詐欺セラレタル金圓ニ對シ又ハ跡越セラレタル爲メ垣ヲ破ラレタルキ償ヒ求ムルカ如キヲ云フ○贓物ノ返還トハ盜取又ハ詐取シタル物件現在スルヲ取戻スヲ云フ

○拋棄トハ告訴又ハ私訴ヲ爲サス訴ノ權ヲ棄ツルヲ云フ○法律ニ定メタル場合ハ刑法三二六以下三四一以下三四六以下三

第三條　公訴ハ被害者ノ告訴ヲ待テ起ルモノニ非ス又告訴、私訴ノ拋棄ニ因テ消滅スルモノニ非ス但法律ニ於テ特ニ定メタル場合ハ此限ニ在ラス

○公訴ハ犯罪ニ依リ社會公衆カ有スル權利ナレハ決シテ一私人ノ能ク左右シ得ヘキモノニ非ス故ニ公訴ハ不羈獨立ハ假令被害者ノ棄權スルモ和解スルモ消滅スヘ

五三、三五八以下四二二、四二六ノ一二等ナリ其他單行律多シ寫眞版權商標等ノ權ヲ侵ス類ナリ

○金額ノ多寡トハ金額ニ依リテ裁判所管轄ヲ異ニスルヲ以テ之カ多寡ニ拘ハラス刑事裁判ヲ爲スト云フニアリ

○第二審トハ控訴ヲ云フ第二審ハ事實ヲ審問スルヲ以テ私訴ヲモ許スナリ○參加トハ民事訴訟法第五十一條乃至第六十二

キニアラサルヲ示スナリ然レトモ犯罪中其害ニ直接間接ノ區別アリ其間接ノ如キハ社會進ンテ公訴セハ却テ被害者ヲ害スルヿアリ故ニ社會ノ害ハ間接ナレハ一歩ヲ讓リ被害者ノ告訴ヲ待テ公訴ヲ起スモノトス彼ノ有夫姦、脅迫、猥褻姦淫ノ罪ノ如シ公訴ヲ起セハ被害者ノ却テ迷惑シ外聞ヲ憚ルカ如キ事アルヲ以テナリ

第四條　私訴ハ其金額ノ多寡ニ拘ハラス公訴ニ付キ第二審ノ判決アルマテ何時ニテモ其公訴ニ附帶シテ之ヲ爲スコトヲ得

第三者ハ民事訴訟法ノ規定ニ從ヒ公訴附帶ノ私訴ニ參加スルコトヲ得

○私訴ハ民事ニ屬スルヲ以テ民事裁判所裁判スルヲ至當トスルモ便宜上權利ヲ伸張スル爲メ刑事裁判所裁判スルヿヲ許ス即チ證據ノ集取、時日費用ノ減少、辯護ノ便利ノ三利益アリトス此便宜法アリ從テ金高ノ權限ヲ民法ニ依ルトキハ刑事ハ地方裁判所ニ私訴ハ區裁判所ニ於テ裁判スル不都合ヲ生スルヲ以テ是亦金高ノ多寡ニ拘ハラス刑事ノ裁判所裁判スルヿトス○第三者ノ參加スルヿヲ許スハ民事上ノ原

條ニアリ

○免訴トハ第百六十五條及ヒ第二百二十四條第二百三十六條ニアリ○無罪トハ第二百二十四條ニアルモノナリ無罪ハ公判ニ限リ免訴ハ豫審公判兩方ニアリ○妨礙トハ「ジヤマ」ナリ妨ケルヲ云フ○犯罪構成元素トハ自由、意思、識別ノ三個ナリ

○第二ノ場合ハ姦通猥褻罵詈出版商標條例違犯等ノ犯罪ヲ云フ○拋

則ヲ應用シ權利ノ伸張ヲ得セシムル爲メトス

第五條　被告人免訴又ハ無罪ノ言渡ヲ受ケタリト雖モ民法ニ從ヒ被害者ヨリ賠償、返還ヲ要ムル妨礙ト爲ルコトナカル可シ

○責任ニ二アリ一ハ刑事上一ハ民事上トス而シテ刑事上ノ責任ハ犯罪構成ノ元素備ハリテ生シ民事上ノ責任ハ別ニ元素ヲ要セス尚モ權利ナクシテ害ヲ加ヘタルトキハ必ラス生スルモノトス故ニ民事上ノ責任ハ刑事上ノ責任ノ有無ニ依リテ變更ヲ爲スモノニ非ス之レ本條ニ於テ假令刑事ハ免訴又ハ無罪トナルモ賠償ナク返還ヲ要求スル妨ケトナラサルナリ例ヘハ癲癇人カ他人ノ物ヲ持去ルカ如キハ刑事上ノ責任ハ免訴無罪ナルモ持去リタル物ハ所有主ニ返還セサル可カラサルノ類ナリ

第六條　公訴ヲ爲ス權ハ左ノ事項ニ因テ消滅ス

第一　被告人ノ死去

第二　告訴ヲ待テ受理ス可キ事件ニ付テハ告訴ノ拋棄

第三　確定判決

第四　犯罪ノ後頒布シタル法律ニ因リ其刑ノ廢止

第五　大赦

第六　時効

○公訴ノ目的ハ刑ノ適用ヲ求ムルニアレハ一旦公訴ヲ提起セハ必ラスヤ飽マテ其目的ヲ達セサル可ラス然レトモ斯ノ如クセハ到底終局ノ期ナキニ至ルヘシ彼ノ第一ノ如キ刑ヲ適用スヘキ人ナク第二ノ如ク好和ノ美德ヲ破リ第三ノ如キ前ノ裁判ノ信用ヲ害シ無効ト爲スカ如キ第四ノ如キ法律ニナキニ之ヲ罰シ第五ノ如キ聖旨ヲ背キ第六ノ如キ時効ノ利益ヲ徒法ナラシムル等ノ患ヒアルヲ以テナリ故ニ公訴ノ消滅ニ歸スル場合ヲ列規スルモノトス

第七條　私訴ヲ爲ス權ハ左ノ事項ニ因テ消滅ス

第一　抛棄又ハ和解

第二　確定判決

第三　時効

○抛棄トハ訴ヲ起サスシテ止ミ又ハ起シタルモ自ラ取下タルヲ云フ

○和解トハ被害者ト加害者ト相談シテ中直リヲ爲シタルヲ云フ○承繼トハ先人ノ財產家督家名族稱ヲ相續スルヲ云フ

○時効トハ時ヲ經ルニ從ヒ其效力ニ因リ或ル權利ヲ消滅スル意義ナリ○刑ノ時効ノ期間ニ長短アルハ一ハ裁判確定シ明確ニノ證據湮滅ノ恐ナク罪已

○公訴權消滅ノ理由ト同一タリ只犯人ノ死亡ニ付テハ假令死亡スルモ其者ノ財產ヲ相續人之ヲ承ケ存スルヲ以テ其相續人ハ先人ノ權利義務ヲ承繼スヘケレハ私訴ヲ起スニ差支ナシ刑ノ廢止ノ如キハ私訴權ニ影響及ハス假令刑ノ存シ無罪免訴トナルモ私訴ヲ免ルヽヿヲ得サルカ故ニ刑ヲ廢スモ決シテ私訴ハ消滅セス蓋シ公訴ト私訴トハ其目的ヲ異ニスレハナリ大赦ハ其目的國事犯罪ヲ宥恕シ國家ノ安寧ヲ謀ルニアリ一私人ノ私權ニ立入リ消滅スヘキ小事ニハアラサルナリ又良民ハ國家安寧ヲ謀ル爲メニ自己ノ權利ヲ殺カルヿナケレハナリ

第八條　公訴ノ時効ハ左ノ期間ヲ經過スルニ因テ成就ス

第一　違警罪ハ六月

第二　輕罪ハ三年

第三　重罪ハ十年

○時效ヲ設クルノ理由ハ(一)數多ノ歲月ヲ經レハ證據湮滅シ例令之レアルモ不充分ニシテ裁判ヲ爲スモ正鵠ヲ失ス(二)經過數月ナレハ世人ノ其罪ヲ畏怖厭惡スル

○總則

ニ定マレルナ以テナリ一ハ然ラス公訴アラサルヲ以テ其刑名ヲ知ルヲ能ハス故ニ罪名ニ依テ期間ヲ定メタリハ○無能力ト幼者有夫ノ婦白痴癲狂人禁治産者ヲ云フ○附帶セスシテ民事裁判所ニ訴ヲ起スヲ云フ○原來民事時効ハ無能力ナレハコレヲ中斷スルヲ以テ本條ニ明文ヲ載セタリ○民法上ノ時効ハ三十年ナリ故ニ公訴ノ時効ヨリ漸ク馳廢スルヲ以テ罰スルモ益ナシトニ外ナラス其罪質ニ依リ日數ヲ異ニスルハ蓋シ罪ノ重キモノハ其證據モ亦容易ニ湮滅セス世人ノ記憶モ亦一層長シ其輕キモノハ其證據ノ湮滅モ速ニシテ世人ノ遺忘スル事モ亦早シ之レ期間ノ異ナル所以ナリトス

第九條　私訴ノ時効ハ被害者無能力ナルトキ又ハ公訴ニ附帶セスシテ其訴ヲ爲シタルトキト雖モ公訴ノ時効ト其期間ヲ同クス

公訴ニ付キ既ニ刑ノ言渡アリタルトキハ民法ニ定メタル時効ノ例ニ從フ

○私訴ハ私權伸張ヲ爲スニアレハ民法上ノ時効ト同一ナラサル可ラサルニ公訴ノ時効ト同シクセシハ蓋シ私訴ハ犯罪ニ原因スルモノナレハ犯罪ヲ證明セサルヘカラス然ルニ公訴ノ時効ヲ得テ其犯罪ヲ證明スルヿヲ得ス然ラハ何ヲ以テ私訴ヲ證スルヤ之レ能ハサルナリ故ニ私訴時効ヲ民法ニ從ハシムルモ有名無實ノミ左レハ公訴ト同一ニシテ以テ消滅時期ヲ共ニセシメ原因結果ヲ同クセシムルニ在リ○第二

餘程長キヲ知ル可シ

○繼續犯罪トハ犯罪ノ始ヨリ終リマテ一秒時間モ絶間ナク引續クモノナリ人ヲ監禁スル罪僞造罪ノ如シ○照應トハ時効期間ノ同一ナルヲ云フニアリ

○檢事カ豫審又ハ公判ヲ求メハ起訴ノ手續ナリ○豫審判事カ證人ヲ訊問シ家宅ヲ搜索スルハ豫

項ニ刑ノ言渡アレハ犯罪ノ事實明瞭ニシテ害ヲ加ヘタル事明ラカナレハ私訴ノ證據ノ湮滅スルノ恐レナケレハナリ

第十條　公訴、私訴ノ時効ハ犯罪ノ日ヨリ其期間ヲ起算ス但繼續犯罪ニ付テハ其最終ノ日ヨリ起算ス

○公訴ハ犯罪ノ日ヨリ生スルモノナレハ時効モ亦其日ヨリ進行セサル可ラス時効ハ犯罪ヨリ生スルモノナレハナリ然レハ私訴モ其原因公訴ニアレハ犯罪ノ日ヨリ起算スル之レ當然ナリス之レ第九條第一項ト照應ス可シ但繼續犯ノ如キ數年又ハ十數年ニ續クヿアリトセハ未タ犯罪中ニ於テ時効ハ已ニ經過スルノ不都合ヲ來タスヲ以テ例外トシテ最終ノ日ヨリ起算スルモノトス

第十一條　時効ハ起訴、豫審又ハ公判ノ手續アリタルニ因リ其期間ノ經過ヲ中斷ス其未タ發覺セサル正犯、從犯及ヒ民事擔當人ニ付テモ亦同シ

時効ノ經過ヲ中斷シタルトキハ起訴、豫審又ハ公判ノ手續ヲ止

審ノ手續ナリ○呼出ヲ發シ又ハ告知書ヲ出シ開廷スルハ公判ノ手續ナリ○民事擔當人トアルハ民事上即チ私訴ニ付キテ責任ヲ負フモノナレハナリ

メタル日ヨリ更ニ其期間ヲ起算ス

○時効ハ社會ノ犯罪ヲ遺忘スルト犯罪ノ證據湮滅スルトニ基キ設ケタルモノニシテ若シモ此二個ノ事實アリトセハ決シテ時効ヲ得ルヿヲ得ス而シテ其遺忘セサル證據集取スルトハ起訴豫審公判ノ手續ヲ爲スニアリ左レハ時効ハ中斷セラレ遺忘ナリ湮滅ナリノ推定ヲ受クルヿナシ又時効ハ人ノ爲メニアラスシテ犯罪其モノニ付キ設ケタルモノナレハ正犯從犯及ヒ民事擔當人ニ付テモ中斷セラル○時効中斷ハ起訴其他ノ手續ヲ爲シタルモノナレハ正犯從犯及ヒ民事擔當人ニ付テモ中斷セラル○時効中斷ハ起訴其他ノ手續ヲ爲シタルヨリ初ムルヲ以テ其手續ヲ止メタルトキハ證據湮滅犯人遺忘ヲ始メルニヨリ之レ自然ノ結果ナリトス

○手續ノ無効ニ屬スルトキトハ例ヘハ公判ノ呼出狀ヲ檢事カ發シ豫審判事ノ職タル證人訊問ヲ裁判所書記カ爲スカ如キ類

第十二條　起訴、豫審又ハ公判ノ手續其規定ニ背キタルニ因リ無効ニ屬スルトキハ時効ノ經過ヲ中斷スル効ナカル可シ但裁判所ノ管轄違ナルニ因リ其手續ノ無効ニ附屬スルトキハ此限ニ在ラス

○時効中斷ナシヲ有効ナラシメンヨハ起訴其他ノ手續ノ正當ニシテ規則ニ觸レサ

ナリ○管轄違ノ無効トハ例ヘハ重罪事件ヲ區裁判所ニ起訴シ控訴院ニ第一審ノ起訴ヲ爲スカ如キ類ナリ○規定トハ規則ニ定メレル事柄ヲ云フ

ルニアリ若シモ然ラストセハ職權ノ濫用又ハ弄權ヲシテ正當ノ手續ナリト云ハサルヘカラサルノ結果ヲ生ス豈ニ社會ノ信用ヲ厚クシ人民ノ自由ヲ傷ケサルト云フヘケンヤ故ニ證據湮滅ヲ防キ社會遺忘セサルヿヲ表示センニハ其手續ノ規定ニ觸レサルヲ必要トス然レトモ管轄違ノ如キハ例令一定ノ區域又ハ權限アリト雖モ實際上錯雜シ易キモノナリ且ヤ中斷ノ目的タル證據湮滅、社會遺忘ノ点ニ於テハ管轄上別ニ影響ヲ及ホスヿナシ殊ニ管轄ノ如キハ司法權施行ノ便利上ヨリ設ケタルモノナレハ敢テ時効ノ中斷ヲ爲スニ於テ決シテ妨害トナルヘキヿナシトス

第十三條　被告人免訴又ハ無罪ノ言渡ヲ受ケタル場合ニ於テ其訴訟ノ原由告訴人、告發人又ハ民事原告人ノ惡意若クハ重過失ニ出テタルトキハ是等ノ者ニ對シ損害ノ償ヲ求ムルコトヲ得

被告人刑ノ言渡ヲ受ケタリト雖モ告訴人、告發人又ハ民事原告人ヨリ惡意若クハ重過失ニ因リ其犯罪ニ付キ過實ノ申立ヲ爲シタルトキ亦同シ

○原由トハ訴訟ノ目的主旨ニシテ彼ノ者ハ有夫姦ヲ爲シタリト云ヒ盜賊ナリト訴ルヲ原由ト云フ○告訴トハ害ヲ受ケタル者ヨリ其罪ヲ告ケ訴フルヲ

云ヒ○告發トハ何人ニ限ラス犯罪アルヿヲ知リタル人ヨリ其事ヲ發キ告クルヲ云フ○重過失トハ惡意ノ手前ニテ惡意ノ證據十分ナキモノヲ云フ○過實トハ單純ノ窃盗ナルニ持別器窃盗ナリト云ヒ又ハ强盗ナリト云フカ如シ○上訴トハ控訴上告ヲ併セ云フ

民事原告人上訴ヲ爲シ敗訴シタルトキハ被告人其上訴ニ因リ生シタル損害ノ償ヲ要ムルコトヲ得

要償ノ訴ハ本案ノ判決アルマテ何時ニテモ其裁判所ニ之ヲ爲スコトヲ得

○被告人ヲ告訴告發シ又之ニ對シ私訴ヲ爲スハ自己ノ爲メノミナラス又社會ノ爲メナレハナリ然ルニ惡意又ハ重過失ニ依リ之ヲ罪ニ陷レントスルニ至テハ告訴告發ノ權ヲ濫用シ反テ社會ヲ害スルナリ之レ損害ノ償ヲ要メスシテ可ナランヤ假令被告人ノ刑ニ處セラレタルモ其過實ノ申立ヲ爲ストキニ於ケルモ敢テ前段ト異ナラス又私訴ニ付民事原告人上訴ヲ爲シ其上訴不當ニシテ敗訴シタル片モ要償ノ責アリ之レ不當ノ上訴ヲナシ被告人爲メニ害ヲ被フリタレハナリ終リノ規定ハ被告人ニ便宜ヲ與ヘ何時ニテモ本案判決アル迄要償ノ訴ヲ爲スヿヲ許シタリ

○要償トハ損害ノ賠償ヲ要求スルトノ意

第十四條　被告人無罪ノ言渡ヲ受ケタリト雖モ判事、檢事、裁判所書記、執達吏、司法警察官又ハ巡査、憲兵卒ニ對シ要償ノ訴ヲ爲ス

ナリ○故意トハ「ワザト」ナリ

○刑法ニ定メタルトハ刑法第二百七十七條第二百七十八條第二百八十二條第二百八十三條乃至第二百八十七條等ナリ

コトヲ得ス但是等ノ官吏被告人ニ對シ故意ヲ以テ損害ヲ加ヘ又ハ刑法ニ定メタル罪ヲ犯シタル場合ハ此限ニ在ラス

○本條規定ノ官吏ヲシテ要償ノ責アリトセハ成ル可ク犯罪事件ニ干渉スルヿヲ恐レ職務ニ從事スルモノナリ從テ罪人ノ數ヲ增加シ警察行屆カス又無罪タルヘキモノモ無罪トセハ要償ノ訴ヲ恐レテ有罪トナシ冤罪ニ陷ルノ弊ヲ生シ司法權ノ獨立ヲ維持スルヿ能ハサルニ至ル故ニ但書ノ例外ノ外要償ノ責ナシトス

第十五條　此法律ニ於テ期間ヲ計算スルニ時ヲ以テスルモノハ即時ヨリ起算シ日ヲ以テスルモノハ初日ヲ算入セス若シ最終ノ日休暇ニ當ルトキハ期間ニ算入ス可カラス但時効ノ期間ハ此限ニ在ラス

一日ト稱スルハ二十四時ヲ以テシ一月ト稱スルハ三十日ヲ以テシ一年ト稱スルハ曆ニ從フ

○本條ハ別ニ解ヲ要セス只時効ヲ例外トセシハ其性質上然ルニアリ假令休暇ナル

○曆ニ從フトハ明治二十四年三月十日ヨ

リ起算セハ明治二十五年三月九日マテ一ケ年ト云フ

○亦同シトハ八里マテノ道ナレハ三里ヲ越セハ一日ノ猶豫ヲ與フルモノナリ

○期間トハ控訴ハ五日上告ハ三日ト云フ類ニテ不變期間ヲ云フ○特別場合トハ第二百七條第二百四十七條ノ如シ

モ社會ノ遺忘ト證據湮滅ハ異ナルヿナク進行スレハナリ又進行中ハ裁判所ニ於テ爲スヘキ手續ナケレハ別ニ其事ノ規定ヲ必要トセサレハナリ

第十六條　此法律ニ定メタル期間ニハ海陸路八里毎ニ一日ノ猶豫ヲ加フ八里ニ滿サルモノト雖モ三里以上ナルトキ亦同シ

島嶼又ハ外國ニ付テハ裁判所ニ於テ特ニ附加期間ヲ定ムルコトヲ得

○第二項アルハ蓋シ船舶ノ渡航ノ斷續又ハ航路ノ難易、航海中ノ天災事變等ハ豫期スルヿヲ得サルヿヲ以テ時期ニ從ヒ裁判所ノ定ムルモノタリ

第十七條　此法律ニ於テ訴訟ヲ爲スニ付キ定メタル期間ヲ經過シタルトキハ特別ノ場合ヲ除ク外其訟訴ヲ爲ス權ヲ失フ可シ

○法律上ノ規定期間ハ公益上ヨリ設ケタルモノナレハ何人モ之ヲ守ラサルヘカラス殊ニ上訴期間ノ如キハ之ヲ設ケ以テ裁判ノ効ヲ示シ人々ヲシテ安然セシムルニ必要ナルモノナレハ此期間ヲ經過セハ上訴權ヲ失ハシムルハ當然ノモノトス

○訴訟關係人トハ檢事被告人民事原告人民事擔當人等ヲ云フモノナレトモ本條ハ多ク終リノ二人等ヲ云フ

○別ニ規定アルトハ第六十九條第七十六條第八十四條ノ類ナリ

○官吏トハ判事檢事書記司法警察官林務官巡査憲兵卒等ヲ云フ○公吏トハ身分取扱吏執達吏公證人市區町村戸長ヲ云フ○

第十八條　訴訟關係人ハ裁判所所在ノ地ニ住セサルトキハ其地ニ假住所ヲ定メ裁判所ニ屆出ツ可シ否ラサルトキハ書類ノ送達ヲシト雖モ異議ヲ申立ツルコトヲ得ス

○書類送達ノ便利上本條ノ如ク定メタルモノナリ必假住所ハ辯護人ノ住所又ハ旅宿店等一時假リニ設ケ置クモノトス

第十九條　書類ノ送達ハ此法律ニ於テ別ニ規定アラサルトキハ民事訴訟法ノ規定ヲ準用ス

○民事訴訟法第百三十六條乃至第百五十八條ニアリ一讀シテ送達方法ヲ知ルヘシ

第二十條　官吏、公吏ノ作ル可キ書類ハ其所屬官署、公署ノ印ヲ用ヒ年月日及ヒ場所ヲ記載シテ署名捺印シ毎葉ニ契印ス可シ若シ官署、公署ノ印ヲ用ユルコト能ハサル場合ニ於テハ其事由ヲ記載ス可シ此規定ニ背キタルトキハ其書類ノ効ナカル可シ

官吏、公吏ニ非サル者ノ作ル可キ書類ニハ本人自ラ署名捺印ス

官署公署ハ官廳又ハ役所役場ヲ云フ○毎葉ニ契印ストハ一枚毎ニ欄ヲ印ヲ爲スナリ○代署トハ代リテ署名シ其譯柄ヲ其傍ニ記載スルニアリ

○原本トハ本紙ヲ云フ○改竄トハ書キ改ムルモノナリ○挿入トハ書キ入レナリ○削除トハ削スナリ○認印トハ印ヲ押スナリ

可シ若シ署名捺印スルコト能ハサルトキハ官吏、公吏ノ面前ニ於テ作リタル場合ヲ除ク外立會人代署シ其事由ヲ記載ス可シ

○書類作成ノ方式ニシテ第一項ハ公書作成ノ方式第二項ハ私書作成ノ方式ナリ而シテ其條件ハ各皆理由アリ官吏公吏ノ職務ヲ明ニスル爲メ年月日及ヒ署名捺印シ所屬官公署ヲ示ス爲メ印ヲ用ヒ管轄ヲ知ル爲メ場所ヲ書キ紙數增減ヲ防ク爲メ毎葉ニ契印ス第二項ノ代署ノ如キ後ノ責ヲ免カレンコトヲ防クニアリト知ル可シ

第二十一條　官吏其他何人ニ限ラス訴訟ニ關スル書類ノ原本、正本又ハ謄本ヲ作ルニ付キ文字ヲ改竄ス可カラス若シ挿入、削除及ヒ欄外ノ記入アルトキハ之ニ認印ス可シ文字ヲ削除スルトキハ之ヲ讀得ヘキ爲メ字体ヲ存シ其數ヲ記載ス可シ此規定ニ背キタルトキハ其變更增減ハ効ナカル可シ

○本條ハ書類作成ノ場合ニ於テ文字ニ增減變更ヲ加フル手續ヲ定ムルニアリ其効ナシト規定シタルハ蓋シ何人ノ爲シタルモノナルヤ判知スヘカラサルカ故ナリ

○此法律トハ刑事訴訟法ヲ云フ○頒布トハ公布ナリ○モモ亦トハ頒布以後ノ犯罪ニハ勿論其以前ノモノト雖モ此訴訟法ヲ適用スルニアリト云フ意ナリ

第二十二條　此法律ハ頒布以前ニ係ル犯罪ニモ亦之ヲ適用ス

頒布以前ニ爲シタル訴訟手續當時ノ法律ニ背カサルトキハ其効アリトス

○法律上ノ原則ニ依レハ刑事民事ヲ問ハス事實ノ取調ヲ爲スニ付眞正ヲ得セシメンカ爲メニ設クルモノヘ之ヲ既往ニ溯ラシムルヿヲ得ヘシト蓋シ本條第一項ノアル所以ナリ即チ舊法ハ不完全ナレハ新法ニ於テ完全ナラシメタルニアリ然レトモ既往ニ及ホス爲メ被告人ノ不利益ト爲リ又手續ノ重複トナル場合ハ當時ノ法律ニ適シアレハ之ヲ有効トス蓋シ舊法ノ廢止ニ依リ手續ノ無効トナル爲メ證據モ亦消滅ニ歸スルカ如キハ實ニ不利益アレハナリ又新舊同一ノ手續ナレハ更ニ之ヲ再ヒスルノ必要ナケレハナリ之レ第二項アル所以ナリ

第二十三條　此法律ハ陸海軍ニ關スル法律ヲ以テ處分ス可キ者ニ適用スルコトヲ得ス

○軍事犯ニ付テハ別段ノ訴訟手續アリ之レ其普通ト性質ノ異ナル結果タリ

第二十四條　此法律ニ於テ親屬ト稱スルハ刑法第百十四條第百十五條ノ規定ニ從フ

○刑法ト刑事訴訟法ト効用ヲ同シクスル點ヨリシテ親屬例モ亦抵觸スルヿ勿ラシム

○種類トハ重罪輕罪違警罪ヲ云フナリ○構成法ノ解ハ余カ著ス釋義ヲ一讀セヨ○管轄ヲ異ニスル云々トハ輕罪重罪ト犯シタル時ノ如シ○審判トハ取調フルヲ云フ○煩雜トハ「ヴェラウシー」ナリ

第二編　裁判所

第一章　裁判所ノ管轄

第二十五條　犯罪ノ種類ニ關スル裁判所ノ管轄ハ裁判所構成法ノ規定ニ從フ

管轄ヲ異ニスル數箇ノ犯罪ニ付キ同時ニ同一ノ被告人ニ對シ訴アリタルトキハ上級ノ裁判所併セテ之ヲ管轄ス

○犯罪種類ニ關スル管轄ハ元ト裁判所ノ權限ニ屬スルヲ以テ訴訟手續中ニ記スルモノニ非ス依テ構成法ニ讓レリ○第二項ノ場合ハ各箇ノ犯罪ヲ各別ニ審判スルトキハ煩雜ニシテ重複ヲ恐レ多ク費用ヲ要スルヲ併合スルトキハ事實ノ眞正ヲ得ル便利ニシテ且時日ト費用トヲ消費スルヿナキ一ニ數罪俱發ノ場合ニ便ナリ

○同等トハ同シ地方裁判所同士又ハ區裁判所同士ヲ云フ○混淆トハ無駄ニ使ヒハタスヲ云フ○捕縛トハ捕ヘラルヽヲ云フ

○最初豫審公判ニ着手アルコトヲ知ラスシテ後ニ豫審公判ニ着手シ裁判ヲ下スモ之レ無効ノモノトス

○從犯トハ刑法第百九條ニアルモノヲ云フ○正犯トハ刑法第百四條第百五條ノモ

第二十六條　同等ノ裁判所ニ於テハ犯罪ノ地又ハ被告人所在ノ地ノ裁判所ヲ以テ豫審及ヒ公判ノ管轄ナリトス

○護送費用ト手數ト日時トヲ浪費スルヲ防キ又途中逃走ノ恐レナク便且ツ利ナル規定ナリ蓋シ犯罪地ノミ管轄ナリトセハ大坂ニテ罪ヲ犯シ東京長崎ニ逃走シ同地ニテ捕縛セラルヽトキハ大坂ヘ護送セサル可ラス之レ前述ノ浪費ト不便ヲ感スヘシ

依テ犯罪地又ハ被告人ノ現在地何レマテモ管轄スルモノトス

第二十七條　數箇ノ裁判所ノ管轄ナル場合ニ於テハ其中ニテ最初豫審又ハ公判ニ着手シタル裁判所ヲ以テ其管轄ナリトス

○管轄裁判所ハ前二個條ノ如ク或ハ上級裁判所或ハ犯罪地又ハ所在地ノ裁判所等ニシテ或ハ數箇ノ裁判所ノ管理スル事アリ此時ハ何レカ一ニ裁判スル方法ヲ定メサル可ラス本條ハ最初豫審又ハ公判ニ着手シタル裁判所ヲ以テス

第二十八條　從犯ハ正犯ヲ管轄スル裁判所ヲ以テ其管轄ナリトス

數箇ノ裁判所ノ管轄ニ屬スル正犯數名アルトキハ其中ニテ最初

ノヲ云フ○皇族ノ犯罪トハ皇族ノ方々カ罪ヲ犯シ玉ヘルヲ云フ○正犯トハ強盗三人ニテ爲シ後各地ニテ散在スル類ナリ

豫審又ハ公判ニ著手シタル裁判所ヲ以テ其管轄ナリトス

裁判所構成法第五十條第二號ニ記載シタル皇族ノ犯罪ニ付テハ其正犯、從犯ハ身分ノ如何ヲ問ハス大審院ニ於テ之ヲ管轄ス

○從犯ト正犯ト同一ノ裁判所管轄スルハ事實ヲ發見シ易ク證據ヲ集取シ易ク眞正ヲ得ル難カラサルトニ依ル況ンヤ從ハ正ニ從フ原則アルニ於テヲヤ○第二項ハ第二十七條ト同主旨ナリ○第三項ハ皇族ノ從犯トナルモ正犯トナルモ問ハス皆大審院ニテ裁判ス之レ其理由タル第一項ノ如ク事實發見證據集取手數省略等ニ出ツ

第二十九條　外國ニ在テ犯シタル罪本邦ノ法律ニ依リ處斷ス可キモノニシテ內地ニ於テ被告人ヲ逮捕シタルトキハ逮捕ノ地ノ裁判所ヲ以テ其管轄ナリトス又外國ヨリ送致シタルトキハ送致ノ地ノ裁判所ヲ以テ其管轄ナリトス

闕席判決ヲ爲ス可キ場合ニ於テハ被告人最後ノ住所ノ地ノ裁判所ヲ以テ其管轄ナリトス

○內地トハ日本國內ナトハ云フ○逮捕ヘルヲ云フ○捕トハ送致トハ送リ來ルヲ云フ○闕席判決トハ被告人カ出廷セス出廷スルモ辯論セサルトキ言渡ス判決ヲ云フ

○本條ハ本邦ニ犯罪地ナケレハ只被告人ノ所在地卽チ逮捕シタル地ヲ管轄スル裁判所ヲ以テ管轄ヲ定ム若シ外國ヨリ被告人ヲ送致シ來リシトキハ是亦送致シタル地卽チ被告人ノ現ニ在ル地ヲ以テ管轄トス例ヘハ上海ヨリ長崎ニ送致シ來ルトキハ長崎ノ裁判所管轄スルカ如シ○第二項ハ外國ニテノ犯罪ニシテ本邦ニ於テ欠席判決スル場合ニシテ此時ハ第一項ノ標準ヲ取ルヿヲ得サレハ外國ヘ行キシトキ住セル所ヲ以テ管轄ノ裁判所ト爲スヨリ外途アラサルナリ

第三十條　海船內ノ犯罪ニ付テハ定繫港又ハ犯罪後最初ニ著船シタル地ノ裁判所ヲ以テ其管轄ナリトス

○此犯罪ハ定繫港內ナルトキハ其港ヲ管轄スル裁判所例ヘハ橫濱ヲ定繫港トセシモノナレハ橫濱ノ裁判所管轄ス又航海中神戶ヨリ長崎ヘ航行中犯罪アルトキハ最初ニ著船シタル港例ヘハ馬關ヘ立寄レハ其馬關ヲ管轄スル裁判所ノ管轄トス然ラサレハ途中ヨリ神戶マテ引返ヘサヽルヘカラサルニ至ルヘケレハナリ之レ便利上トス

○海船內トハ航海スル總テノ船舶ニシテ碇泊船シアルトト航海中ナルトヲ包含セリ○定繫港トハ常ニ碇泊所トシテ居ル港ヲ云フ

○指定トハ多シノ管轄裁判所アルトキ何レカニ定ムル訴

第三十一條　管轄裁判所ノ指定ニ付キ申請ヲ爲ス場合及ヒ其決定

ヲ爲ス裁判所ハ裁判所構成法第十條ノ規定ニ從フ

○例外ノ管轄裁判所ニシテ其手續ハ余カ著ス裁判所構成法釋義ヲ見レハ詳悉セリ

第三十二條　管轄裁判所ノ指定ニ付テノ申請ハ檢事其他訴訟關係人ヨリ之ヲ爲スコトヲ得

大審院ニ於テ管轄裁判所ヲ指定ス可キ場合ニ於テハ檢事總長ハ司法大臣ノ命ニ因リ又ハ職權ヲ以テ其申請ヲ爲スコトヲ得

○管轄裁判所指定ノ申請ヲ爲ス人々ヲ定ムルニアリ蓋シ是等ノ人々ハ公訴又ハ私訴ニ關係ヲ有シ起訴權ヲ有スルトハ其裁判所ヨリ直近上級裁判所ナリ地方裁判所ナリ控訴院ニ於テ十分ニ伸張セシメ利益ヲ得セシムルニ於テ必要トスル者ハ申請ヲ爲サントスル者ハ申請ニ付キ管轄權ヲ有スル裁判所ニ其趣意書ヲ差出ス可シ

第三十三條　管轄裁判所ノ指定ニ付キ申請ヲ爲サントスル者ハ申請ニ付キ管轄權ヲ有スル裁判所ハ書類ニ依リ其申請ヲ決定ス可シ

○書類ニ依リ口頭辯論ヲ開カス決定裁判ヲ下スハ其急速ニ依ルト書類ヲ以テ明瞭ナルヲ以テナリ

○申請トハ指定アランヲ上級ノ裁判所ニ請願スルヲ云フ即チ申立ヲ云フ○訴訟ヲ云フ○訴訟關係人トハ被告人民事原告人民事擔當人等ナリ○必要トハ入用ナリ

○性質トハ國事犯兇徒聚集ノ如キ類ナリ○身分トハ裁判官行政官又ハ政黨ノ首領德望家ノ如シ○員數トハ數十人乃至數百人○地方ノ民心トハ犯罪地方ノ人カ被告ヲ敬慕シ若シハ厭惡スル情況ノ如シ○其他云々トハ政治犯等ノ類多シ

第三十四條　犯罪ノ性質、被告人ノ身分、員數、地方ノ民心其他重大ナル事情ニ由リ裁判ニ對シ紛擾又ハ危險ヲ生スル恐アルトキハ公安ノ爲メ其事件ヲ同等ナル他ノ裁判所ニ移スコトヲ得

○本條列記ノ場合ニ於テハ共謀者、同意者等アリテ被告人ヲ脅奪シ又ハ反對ニアル者ハ被告人ヲ殺害シ審判ヲ妨ケ裁判官檢察官ニ對シテ怨ヲ含ム等總テ裁判上ニ付キ紛擾又ハ危險ヲ生スルコトアレハ公安ヲ維持スル爲メ裁判ノ獨立ト眞正トヲ得ルカ爲メ他ノ裁判所ニ移スヲ得可シ尤トモ同等ナル裁判所ナリトス故ニ控訴事件ヲ以テ云ヘハ大阪控訴院ヨリ名古屋控訴院ニ移スカ如シ京都地方裁判所ノ事件ナレハ和歌山地方裁判所ニ移スノ類ナリトス

第三十五條　公安ノ爲メ裁判管轄ヲ移ス申請ハ司法大臣ノ命ニ因リ大審院檢事總長ヨリ其院ニ之ヲ爲ス可シ

大審院ニ於テハ訴訟關係人ノ申立ヲ聽クコトナク其申請ヲ決定ス可シ

○身分トハ被告人カ裁判所職員ナルカ又ハ裁判所職員カ師トシテ教ヲ受ケタル人カ被告人タル場合ノ如シ○嫌疑トハ疑ヒ嫌ヒ公平ニアラサルカ眞正ナラサルカ曖昧カラシムルニアリ○

○此裁判管轄ヲ移スハ非常ノ重大ナル場合ナレハ司法大臣ノ特命ヲ要ス又總長ノ申請ヲ爲スハ社會公安維持ノ爲メナレハ其代表者タル檢事之ヲ爲スヲ以テ至當ト爲ス又他ノ裁判所ニ移スヘキ決定ハ訴訟關係人ノ申立ヲ聽ク必要ナシ蓋シ此事ハ公ケノ利益ニ關スルモノナレハ敢テ一己人ノ利害ヲ省ミルノ暇ナク且必要ナケレハナリ從テ申立ニ拘泥スヘキモノニハアラサレハナリ

第三十六條　被告人ノ身分、地方ノ民心又ハ訴訟ノ模樣ニ因リ裁判ノ公平ヲ維持スルコト能ハサル恐アルトキハ嫌疑ノ爲メ其事件ヲ同等ナル他ノ裁判所ニ移スコトヲ得

○身分又ハ地方ノ民心例ヘハ工業主人カ雇賃ヲ減シタルカ爲メ雇人等ハ威力ヲ用ヒテ賃金ヲ高クセシメタル被告事件又ハ訴訟ノ模樣例ヘハ賄賂ノ證ナキモ平常裁判官ト被告人ノ交ノ厚キ除斥忌避スヘキ證ナキモ何トナク穩ヤカナラサル等ノ場合一ノ裁判ノ公平ヲ維持スル能ハスシテ其裁判ニ嫌疑ヲ措クカ如キトキハ次條ノ如ク他ノ裁判所ニ移スコトヲ得ヘキモノトス之レ嫌疑ヲ避ケ公平ヲ維持スルナリ

○上級裁判所トハ區裁判所ノ地方裁判所ニ於ケルカ如シ○本案トハ私訴ニ付テノ本件トハ云フカ如シ○審判トハ取調ナリ○甘受トハ承知ノ上ニテ取調ヲ受ケ居ルヲ云フ

第三十七條　嫌疑ノ爲メ裁判管轄ヲ移ス申請ハ管轄裁判所ノ檢事其他訴訟關係人ヨリ上級裁判所ニ之ヲ爲コトヲ得

民事原告人嫌疑アル裁判所ニ私訴ヲ爲シ又被告人其裁判所ニ於テ異議ノ申立ナクシテ本案ニ付キ辯論ヲ爲シタルトキハ前項ノ申請ヲ爲スコトヲ得ス

○第一項ニ於テハ申請ノ手續ヲ定メタリ其第二十五條第一項ト申請ヲ爲ス人ニ異ナルアルハ蓋シ一ハ公安ノ爲メニシ一ハ嫌疑ノ爲メニスルノ差異ヨリ生シ利益上ニ多少アルヲ以テナリ○第二項ハ第一項ノ申請權ヲ失フ場合ナリ一方ニ於テ其裁判所ノ審判ニ甘受スルヲ以テナリ

第三十八條　嫌疑ノ爲メ裁判管轄ヲ移ス申請ヲ爲スニハ其趣意書二通ヲ原裁判所ニ差出ス可シ裁判所書記ハ速ニ一通ヲ相手方ニ送達シ相手方ハ其送達アリタルヨリ三日內ニ答辯書ヲ差出スコトヲ得

○趣意書トハ申請ヲ爲ス譯拠ヲ記スルモノナリ○相手方トハ申請人檢事ナレハ被告人ナルカ如

シ○得トハ答辯書ヲ出スト出サヽルハ勝手ナリト云フヲ示セリ

○管轄權ヲ有スル裁判所トハ第三十七條ノ上級裁判所ヲ指スモノトス

○除斥トハ他ヨリノ申立ナクトモ當然法律上ヨリ除ケラルヽモノヲ云フ○配偶者トハ妻ヲ云フ○烟族トハ妻ノ親族ヲ云フ○法律上代理

裁判所ニ於テ前項ノ申請ヲ受ケタルトキハ其訴訟手續ヲ停止ス可シ

○申請ヲ爲ス細則ナリ二通ヲ差出スハ一通ハ相手方ニ送達シ一通ハ決定ノ材料ナリ又訴訟手續ヲ停止スルハ若シ他ノ裁判所ニ移サルトキハ手續カ無効トナレハナリ

第三十九條　前條ノ申請ニ付キ管轄權ヲ有スル裁判所ニ於テハ書類ニ依リ其申請ヲ決定ス可シ

○第三十三條ト同一ノ主意ナリトス

第二章　裁判所職員ノ除斥及ヒ忌避、回避

第四十條　判事ハ左ノ場合ニ於テ法律ニ依リ其職務ノ執行ヨリ除斥セラル可シ

第一　判事被害者ナルトキ

第二　判事又ハ其配偶者ト被告人、被害者又ハ是等ノ者ノ配偶者ト親屬ナルトキ但姻族ニ付テハ婚姻ノ解除シタルトキ

ト雖モ亦同シ

第三　判事其事件ニ付キ證人、鑑定人ト爲リタルトキ又ハ被告人若クハ被害者ノ法律上代理人ナルトキ

第四　判事其事件ノ豫審終結ニ干與シ又ハ不服ヲ申立テラレタル裁判ノ前審ニ干與シタルトキ

○第一ハ自己ノ利益ニ惑ヒ被告人ヲ罪ニ陷レ損害ヲ回復セントスルカ如キ不公平ノ思想ヲ惹起セシメサルニアリ○第二ハ親屬ノ愛情ヨリシテ無罪タラシメ又ハ有罪タラシムルノ思想ヲ惹起セシメサルニアリ例令離婚スルモ或ハ怨ミヲ含ミ其親屬ニ害ヲ加ヘントスル場合ナシトセス之レ但書アル所以ナリ○第三ハ自己カ證人鑑定人ト爲リテ證言又ハ鑑定セシ事柄ヲ貫カントスル爲メ公平ヲ失スルヿアリ又法律上代理人ノ如キハ幼者ノ爲メ利益ヲ謀ルニアレハ不公平ノ裁判ヲ爲スヤ知ルヘカラス○第四ハ先入主ト爲リ自己ノ判決ヲシテ飽マテ貫カントスルノ弊アルヲ以テナリ以上總テ人情又ハ私利ノ爲メ裁判ノ公平ヲ失スルヲ以テ除斥スルニアリ

人トハ父又ハ後見人トナリシトキヲ云フ○豫審ノ干與タルトハ豫審終結ヲ爲シタル判事カ其事件ノ公判ト爲リ判事モ亦公判ノ掛リト爲リテ之ヲ扱フ場合ヲ云フ○前審ニ干與スルトハ第一審ニ於テ判決シタル判事カ第二審裁判所ニ轉任シテ其控訴ヲ審判スルヲ云フ

○偏頗トハ片「チチ」ナ裁判ヲ爲スヲ云フ○情況トハ其模様若クハ様子アルヲ云フ○忌避トハ申請シテ其裁判ニ干與セシメサルニアルヲ云フ○賄賂トハ「マイナイ」ヲ云フ

○中止トハ中途ニシテ止ムヲ云フ○繼續ストハ中止セスシテ忌避中請アルニ拘ハラス處分ヲ爲スニアリ

○回避トハ除斥ナリ忌避アルヲ待タス判事自ラ之ヲ申立テ事件ノ干與ヲ避クルヲ云フ

○面識者トハ知リ合ヒ顔馴染ノ如シ

第四十一條　判事法律ニ依リ職務ノ執行ヨリ除斥セラルル場合及ヒ偏頗ナル裁判ヲ爲スコトヲ疑フニ足ル可キ情況アル場合ニ於テハ檢事其他訴訟關係人ヨリ之ヲ忌避スルコトヲ得

○裁判ノ公平ト信用トヲ全タカラシメンカ爲メニ必要ナル規定ニシテ私利若クハ私情ニ惑ハサレ不當ノ裁判ヲ爲スヲ防クニ在リ其偏頗ナル裁判ヲ爲スヲ疑フニ足ル情況アル場合トハ賄賂ヲ受ケサルモ故ナク贈物ヲ受ケ又ハ互ヒニ會飲シ或ハ一時厄介ト爲ル等一方ノ爲メニハ一方ノ不利ト爲ル場合ヲ總稱スルニアリトス

第四十二條　忌避ノ申請及ヒ其裁判ニ付テハ民事訴訟法第三十四條乃至第三十八條ノ規定ニ從フ

○余カ著シタル民事訴訟法釋義上卷ヲ一讀セヨ詳悉セリ故ニ重復ヲ厭ヒ茲ニ略ス

第四十三條　忌避ノ申請アリタルトキハ公判ニ付テハ其辯論ヲ中止ス可シ豫審ニ付テハ仍ホ其處分ヲ繼續ス可シ但急速ヲ要セサル事件ニ付テハ豫審手續ヲ中止スルコトヲ得

○忌避ノ申請アレハ何レノ場合ヲ問ハス審判ヲ中止スヘキハ原則トス之レ其裁判官ニ對スルモノナレハナリ然レ𪜈豫審ニ於テハ證據湮滅ノ恐レアリ或ハ名ヲ忌避ニ借リテ豫審ヲ遲延セシメ證據ヲ湮滅セントスル徒アルヲ以テナリ尤トモ急速ヲ要セサル事件ニ付テハ其模様ニ依リ中止スルヿヲ得ルハ勝手ナリトス

第四十四條　判事自ラ第四十條ニ定メタル原由アルコトヲ認メ又ハ回避ス可キモノト思料シタルトキハ忌避申請ノ管轄裁判所ニ回避ノ申立ヲ爲ス可シ

其裁判所ニ於テハ回避ノ申立ヲ裁判ス可シ

○判事自ラ其事件ニ干與スルヲ免カル場合ニシテ第四十條ハ勿論回避スヘキモノト思料シタル𪜈或ハ被告人ノ面識者ナルヿ又ハ恩人ナリシヿ等己レヨリ干與スルニ忍ヒストシテ避クル𪜈ハ回避ノ申立ヲ爲スヘシ此制ヤ之ヲ設ケサレハ裁判ノ公平ヲ失シ信用ヲ害スルニ至ル又申立ヲ要スルハ名ヲ回避ニ托シ職務ヲ執行セサル弊ヲ生スルヲ以テナリ其裁判法ハ民事訴訟法ニアリトス

○準用トハ判事ノ特ニ爲スヘキ場合ヲ除クノ外之レヲ殘ラス用サルヲ云フ第四十條第四號ヲ除クノ類ナリ

第四十五條　本章ノ規程ハ裁判所書記ニモ之ヲ準用ス但其裁判ハ書記所屬ノ裁判所之ヲ爲ス可シ

○書記ハ裁判所構成法ニアルカ如ク裁判上必要ナル職務ナリ卽チ供述ヲ筆記スル役ナレハ其書取ノ仕樣ニ依リ有罪トナリ無罪トナリ法ヲ曲クルヿアルヘケレハ實ニ危險ナルヿ判事ニ亞ク之レ本章ノ規定ヲ準用スル所ナリ

第三編　犯罪ノ搜査、起訴及ヒ豫審

第一章　搜査

第四十六條　檢事ハ後ニ記載シタル告訴、告發、現行犯其他ノ原由ニ因リ犯罪アルコトヲ認知シ又ハ犯罪アリト思料シタルトキハ其證憑及ヒ犯人ヲ搜査ス可シ

○檢事ハ搜査權ヲ有ス而シテ本條ニ其原則ヲ設ケ制限ヲ立ツ然ラサレハ人家ヲ窺ヒ人相ヲ見テ以テ彼ハ犯罪アリ試ミニ逃捕スヘシト云フカ如キ危險ニ陷ルヘシ故ニ本條列記ノ原因ニ依リ必證上犯罪アルヿヲ認知シ又ハ相違ナシト思料スル時ニ

○後トハ告訴告發ノ規定ヲ云フ○現行犯トハ檢事カ現ニ罪ヲ犯シツヽアルヲ目擊スルヲ云フ○其他トハ警察官憲兵ヨリ告發シ來ルカ如キ又ハ民事ノ立會上發見シタル時ノ如シ○搜査トハ「サガシモトメル」トノ意ナリ

○補佐トハ「ヲギナヒタスケル」ノ主意ナリ○指揮トハ指圖ナリ○司法警察官林務官憲兵等ノ檢事ノ職務ヲ取扱ヒ命令ヲ奉スルヿハ裁判所構成法第十八條第八十四條ニアリ參照ス可シ

アラサレハ搜査スルヿヲ許サス若シモ認知セス思料セスシテ單ニ告訴告發等ニ依ルトセハ或ハ人ヲ誣告スルニ出ツルモノヲシテ其被告人ニ對シ名譽ヲ害シ從テ社會ノ信用ヲ殺クニ至ルヲ以テナリ

第四十七條　警視總監及ヒ地方長官ハ各其管轉地內ニ於テ司法警察官トシテ犯罪ヲ搜査スルニ付キ地方裁判所檢事ト同一ノ權ヲ有ス但東京府知事ハ此限ニ在ラス

左ニ記載シタル官吏、公吏ハ檢事ノ補佐トシテ其指揮ヲ受ケ司法警察官トシテ犯罪ヲ搜査ス可シ

第一　警視警部長、警部、警部補

第二　憲兵將校、下士

第三　島司

第三　郡長

第五　林務官

○鎮定トハ取鎮メナリ

第六　市町村長

○檢事ノ數ハ少數ナリ故ニ國事犯、兇徒集衆罪等公益上最モ關係重キ犯罪アル ニ際リテハ充分搜査ヲ爲シ得ス從テ證據湮滅ノ恐レアリ總監知事ハ多クノ警視警部ヲ監督指揮スル職權ヲ有ス故ニ公益上犯罪ノ場合ニ於テハ之レカ鎮定ノ爲メノミナラス犯罪ヲ搜査シ證據ヲ集取スルニハ總監知事ナメ檢事ト同一ノ權ヲ有セシメサレハ臨機ニ應スルヿヲ得ス之レ第一項アル所以ナリ又第二項ハ檢事ノ補佐トシテ犯罪ヲ搜査スル人々トス殊ニ島司以下ノ如キハ總監知事ノ搜査ヲ行フニ付テハ必要ヲ生シ又林務官ノ如キハ官林ニ付テハ最モ搜査セシムルヲ利アリ且平常ト雖モ檢事ハ之ヲ指揮シ搜査ヲ爲サシメ以テ材料ヲ集取スルニ便ナラシムルニアリ

第四十八條　海船內ノ犯罪ニ付テハ船長ニ於テ司法警察ノ職務ヲ行フ可シ

○海船內ノ犯罪ハ概シテ航海中ニ生スル場合ヲ豫想セシモノニシテ此際俄カニ司法警察事務ヲ取扱フモノナシ若シ然ルトキハ證據湮滅シ逃捕監禁スルヿナケレハ犯者ハ益々惡ヲ遂クルノ患アリ船長ハ其船內ニ於ケル役員中總括ノ任アルモノナレハ船內ノ安寧ヲ保護スル爲メ此職務ヲ行フノ權ヲ與ヘ以テ乘客ヲシテ安然セシム

○乘客トハ船ニアル客人

第一節　告訴及ヒ告發

第四十九條　何人ニ限ラス犯罪ニ因リ損害ヲ受ケタル者ハ犯罪ノ地若クハ被告人所在ノ地ノ檢事又ハ司法警察官ニ告訴スルコトヲ得

司法警察官告訴ヲ受ケタルトキハ違警罪ニ付キ即決ヲ爲ス場合ヲ除ク外速ニ其書類ヲ管轄裁判所ノ檢事ニ送致ス可シ

○他人ノ爲メニ損害ヲ受ケタル者ハ之レカ償ヲ求ムルハ原則ニシテ即チ第二條規定ノ如シ左レハ其方法ヲ定メサルヘカラス之レ本條第一項ノ如ク告訴スル途ヲ開クニアリ其檢事又ハ司法警察官トアルハ便宜上ヲ慮カリテナリ故ニ何レナリトモ便利ノ官吏ニ告訴ス可シ又告訴ハ必ラス兩官吏ノ中ニ限リタルハ檢事ハ搜査權アル人及ヒ起訴權ヲ有スル人ナリ司法警察官ハ檢事ノ補佐官ナルヲ以テナリ○司法

○犯罪ニ因リトハ罪ヲ犯シタルカ爲メ害ヲ受ケタルヲ云フ例ヘハ窃盜ニ遇フトセンカ其盜マレ品物ハ即チ損害ヲ受ケタルモノナリ○得トハ告訴スヘシト命セス告訴スルトセントハ被害者ノ隨意ナリ之レ自ラ損害ヲ拋棄スルハ法律ノ咎メサル所ナリ○即決ヲ

爲スハ明治十八年九月三十一號布告ナリ

○證憑トハ窃盜ナレハ其忘レ品ノ類○事實參考トハ人相恰好ヲ云フカ如シ

○署名捺印トハ名ヲ書キ實印ヲ押スヲ云フ○能ハサルトキトハ無筆又ハ印形忘却又ハ場ノ爲メニ筆ヲ執ルヲ能ハサル類トス○責任トハ被告人無罪免訴トナルモ告訴人ニ對シ損

警察官ハ起訴權ナケレハ告訴ヲ受クルトキハ直ニ檢事ニ送ルヘシ其違警罪ニ付テハ自ラ處分スル權ヲ有スルヲ以テ卽決例ニ從ヒ自ラ卽決ヲ爲スニアリ故ニ送ラス

第五十條　告訴人ハ成ル可ク其證憑及ヒ事實參考ト爲ル可キコトヲ申立ツ可シ

○告訴ノ容易ニ爲スヲ得ヘカラシムルカ爲メ只其被害ヲ申立ツルヲ以テ足ル然レトモ成ルヘク證憑及ヒ事實參考トナルヘキヲ申立サシム之レ搜査ノ便ニアリ

第五十一條　告訴ハ告訴人ノ署名捺印シタル書面ヲ以テ之ヲ爲ス可シ

又告訴ハ口述ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得其告訴ヲ受ケタル官吏ハ調書ヲ作リ告訴人ニ之ヲ讀聞カセ共ニ署名捺印ス可シ若シ告訴人署名捺印スルコト能ハサルトキハ其旨ヲ附記ス可シ

○告訴ハ書面ヲ以テスルヲ原則トシ傍ラ告訴ノ道ヲ容易ナラシムル爲メ口頭ヲ以テスルヲモ許シタリ其時ハ官吏調書ヲ作リテ相違ナキヤヲ認メシメ署名捺印セ

害ヲ要ムル權アルヲ云フ

○公吏トハ公職人執達吏市區町村長等ヲ云フ○職務ヲ行フニ因リトハ巡査ノ巡回スル途中ニテ犯者ヲ目擊シ收稅吏カ帳簿檢査ノ際脫稅ヲ知リ市長カ議員選擧資格調査ノ際不正ノ屆出ヲ發見スルノ類ナリ○職務外トハ會計檢査官カ官林盜伐ヲ見ルノ類ナリ

シム其能ハサルトキハ其旨ヲ名前ノ傍ニ記シ置クナリ此書面又ハ調書ヲ必要トスルハ第十三條ノ責任アルカ爲メニ告訴人ノ誰ナルヲ告訴シタルヲ明カニスルナリ

第五十二條　官吏、公吏其職務ヲ行フニ因リ犯罪アルコトヲ認知シ又ハ犯罪アリト思料シタルトキハ速ニ其職務ヲ行フ地ノ檢事ニ告發ス可シ

告發ハ官吏、公吏ノ署名捺印シタル書面ヲ以テ之ヲ爲シ成ル可ク證憑及ヒ事實參考ト爲ル可キ事物ヲ添フ可シ

○本條ハ告發ヲ爲スヘキ命令ヲ規定シ官吏公吏ハ必ラス告發ノ義務ヲ負フモノトス蓋シ社會ノ爲メ公務ヲ執リ秩序ヲ維持シ人ノ行爲ヲ監督スル任アルヲ以テナリ其職務ヲ行フニ因ルトキノミ此義務アルハ其公務上其人ノ行爲ヲ監督シツヽ其職務ニ付秩序ヲ維持シアルヲ以テノ故ナリ故ニ職務外ナルトキハ一般人民ト同一ニシテ告發スルト否トハ自由タリ○第二項ハ苟モ官吏公吏タル者カ無筆無印ノ理ナシ故ニ必ラス書面ヲ以テ告發セシムルナリ

第五十三條　何人ニ限ラス犯罪アルコトヲ認知シ又ハ犯罪アリト思料シタルトキハ第五十條第五十一條ノ規定ニ從ヒ其所在ノ地若クハ犯罪ノ地ノ檢事又ハ司法警察官ニ告發スルコトヲ得告發ヲ受ケタル司法警察官ハ第四十九條ノ規定ニ從ヒ其處分ヲ爲ス可シ

○委任トハ告訴告發スルコトヲ托シ任スヲ云フ○無能力者トハ幼者有夫ノ婦禁治産者白痴癲癇者等ナリ○法律上代理人トハ父母後見人夫タル者監財人等ナリ○回復トハ損害ヲ償ハシメ取戻スヲ云フ

○本條ハ普通人民ノ告發スル場合ヲ示ス其告訴ト異ナルハ其事實上一ハ被害者ヨリスルト一ハ被害者ニアラサル人ヨリスルトニアリ又前條ト同シ告發ナルモ一ハ義務トシ一ハ自由ナルハ官吏公吏タル自分ニ依テ區別アルナリ其他告訴ト同一ナレハ第五十條第五十一條第四十九條ヲ適用スルニアリトス

第五十四條　告訴、告發ハ代人ニ委任シテ之ヲ爲スコトヲ得但第五十二條ノ場合ハ此限ニ在ラス

無能力者ノ告訴ハ法於上代理人之ヲ爲スモ其効アリトス

○告訴、告發ヲ容易ナラシムル爲メ代人ヲ以テスルヿヲ許ス其官吏公吏ハ必ヲス

本人ナラサル可ラス之レ義務ヲ負ハシムル点ヨリ然ルモノタリ○第二項ハ告訴ヲ爲スヘキ場告ニ之ヲ爲サスシテ爲メニ自ラハ勿論社會ノ爲メ損害ヲ生スルヲ以テ法律上代理人ニ告訴權ヲ與フ蓋シ無能力者ノ爲メ損害ヲ回復シ社會ノ爲メ犯罪ヲ發キ證據ノ湮滅ヲ防キ大ナル利益ヲ受ク而シテ此告訴ハ無能力者ノ爲シタルモノト同一ノ効力アルモノト爲セリ

第五十五條　告訴、告發ハ其取下ヲ爲シ又ハ其申立ヲ變更スルコトヲ得此場合ト雖モ第十三條ノ規定ニ從ヒ被告人ヨリ要償ノ訴ヲ受クルコトアル可シ

○告訴告發ヲ爲シタル後和解ヲ爲シ又ハ錯誤アル事アリ然ルニ一旦爲シタル上ハ復タ取下ケ又ハ申立ヲ變更スルヿヲ得ストセハ無益ノ訴ヲ增シ無駄ノ捜査ヲ爲スニ至ル故ニ取下又ハ變更ヲ爲スヲ隨意セシム然レトモ一旦被告人ニ加ヘタル損害ハ取下、變更ニ依リテ回復スヘキモノニアラサレハ第十三條ノ場合ニ於テハ矢張告訴告發人ハ責ヲ免ル可ラス只早ク取下、變更セハ損害ノ償ニ多少ノ利益アルノミ

○取下トハ差出シタル告訴告發ヲ止メ爲サヽル以前ニ復スルヲ云フ○變更トハ始メ錠ヲ捩ヲ切リトセシニ後ニ只戸ヲ開キタルノミト變更スルカ如シ

○現ニ行ヒトハ盗賊ノ物ヲ奪ヒ取リ又ハ現ニ人ヲ殺シツヽアルカ如シ○現ニ行ヒ終ルトハ物ヲ盗ミ立去ントシ又ハ人ヲ殺シテ刀ヲ收メンスルカ如シ○發覺トハ知レルヲ云フ

○准スト現行犯トシテ取扱フヲ云フ○追呼トハドロボウヲ追ヒ呼フヲ云フ○兇器トハ人ヲ殺スニ足ルモノニシテ刀劍庖丁等ノ如シ○贓物トハ盗ミ物ナリ○被服トハ着テ居ル衣服ナリ○檢證トハ見改メ證明スルヲ云フ

第二節　現行犯罪

第五十六條　現行犯罪トハ現ニ行ヒ又ハ現ニ行ヒ終リタル際ニ發覺シタル罪ヲ謂フ

○現行犯罪ノ定義ニシテ現ニ行ヒ又ハ現ニ行ヒ終リタル際ニ發覺スルモノナリ其發覺スルヤ何人タルヲ問ハス只現ニ行ヒ又ハ現ニ行ヒ終リタル際ニ發覺セハ現行犯ハ成立スルナリ此現行犯ト非現行犯トノ區別ハ何ノ爲メカト云ヘハ只搜査上ニ於テ大ニ差異アリ一ハ令狀ヲ待タス逮捕シ又何人ニテモ逮捕スル權アリ一ハ令狀ヲ要スルノミナラス何人ト雖モ漫リニ逮捕スルヲ許サス其他犯罪ニシテ現行犯ニアラサレハ罰セサルモノアリ彼ノ賭博犯ノ如シ

第五十七條　重罪、輕罪ニ付キ左ノ場合ハ現行犯ニ准ス

第一　犯人トシテ一人又ハ數人ニ追呼セラルルトキ

第二　兇器、贓物其他ノ物件ヲ携帶シ又ハ身体、被服ニ顯著ナル犯罪ノ痕跡アリテ犯人ト思料ス可キトキ

第三　家宅内ニ於テ犯シタル罪ヲ檢證スル爲メ又ハ其犯人ト思料ス可キ旨ヲ逮補スル爲メ戸主ヨリ官吏ニ其處分ヲ求メタルトキ

○現行犯ト着做スヘキモノニシテ前條ト同一ノ處分ヲ爲シ得ヘキモノナリ蓋シ本條列記ノモノハ犯人タルノ思料ヲ下スニ十分ナル事實アルモノナレハ假令令狀ナキモ逮捕スルコトヲ得ヘキモノトス○第二ノ場合ハ血刃ヲ提ケ大風呂敷ヲ背負ヒ夜中梯子ヲ携ヘ又ハ血ニ染ミタル手拭ヲ持チタル類第三ハ家内ニ於テ殺人アリト云ヒ盗賊家内ヲ搜ス等ノ事ヲ以テ交番所屯所ニ訴出又ハ巡行巡査ヲ呼ヒ留ムルノ類ナリトス

第五十八條　司法警察官及ヒ巡査、憲兵卒其職務ヲ行フニ當リ重罪又ハ禁錮ノ刑ニ該ル可キ輕罪ノ現行犯アルコトヲ知リタルトキハ令狀ヲ待タスシテ被告人ヲ逮捕ス可シ

罰金ノ刑ニ該ル可キ輕罪又ハ違警罪ノ現行犯アルコトヲ知リタ

○職務ヲ行フニ當リトハ巡回スル途中ノ如シ○令狀トハ逮捕引致スヘキ旨ヲ認メタル書面ナリ

○逃亡トハ「ニゲル」ヲ云フ○引致トハ引キ連レ官署ニ至ルヲ云フ○体刑トハ死刑徒刑流刑懲役禁獄禁錮ナリ勾留ハ体刑ナルモ微罪ナレハ第一項ニハ入ラサルナリ

○司法警察官トハ警視警部將校ヲ云フ

ルトキハ被告人ノ氏名、住所ヲ問ヒ輕罪ニ付テハ檢事、違警罪ニ付テハ即決ヲ爲ス可キ官署ニ告發ス可シ其氏名、住所ノ分明ナラス又ハ逃亡ノ恐アル者ハ檢事若クハ官署ニ引致スルコトヲ得

○本條ハ現行犯ヲ處分スヘキ手續ニシテ其犯罪顯著ナルヲ以テ令狀ヲ待ツニ及ハス犯人ヲ逮捕ス而シテ其犯シタル罪ニ依リ第一項ト第二項ノ區別アリ蓋シ犯罪ノ性質体刑ニ該ルモノニアラサレハ漫リニ人ノ自由ヲ勾束スルヲ得サレハナリ

第五十九條　巡査、憲兵卒被告人ヲ逮捕シタルトキハ速ニ之ヲ司法警察官ニ引致ス可シ

其被告人ヲ受取リタル司法警察官ハ逮捕及ヒ告發ニ付テノ調書ヲ作ル可シ

○巡査憲兵卒ハ現行犯人ヲ逮捕スル權アルモ處分スル權ナシ故ニ之ヲ上官ニ引致シ逮捕引致シタルヿヲ告發ス其之ヲ受ケタル司法警察官ハ告發ノ調書ヲ作ルヘシ

○直チニトハ見付ケ次第其場ニテト云フ義ナリ

○假ニトハ元來ハ司法警察官ニ引致スヘキモ其下役ナル人ニ引渡ス故ニ假ト云フ○引致スルヿヲ得ストハ傷ヲ負フタルカ爲メ又ハ留守番ナキカ爲メ等ナリ○正當後日ノ爲メニ確實ヲ證シ又濫ニ人ヲ引致セサルヿヲ證スルニ外ナラス

第六十條　何人ニ限ラス重罪又ハ禁錮ノ刑ニ該ル可キ輕罪ノ現行犯アル場合ニ於テハ直チニ被告人ヲ逮捕スルコトヲ得

○第五十六條ニ於テ一言セシカ如ク現行犯ノ發覺ハ何人ニ發覺スルモ敢テ差支ナシト云ヒシカ如ク本條之ヲ證明シ何人ト雖モ逮捕スルヿヲ得ヘシ而シテ逮捕スル權アリテ義務ナキハ恰モ告發スル權アル第五十三條ニ同シ本條ヲ設ケサレハ證據湮滅シ犯人逃亡シ時ニ所有物ヲ寄ハルルモ手ヲ空シクスルニ至ルヘシ

第六十一條　前條ノ場合ニ於テ被告人ヲ逮捕シタル者ハ之ヲ司法警察官ニ引致ス可シ若シ引致スルコトヲ得サルトキハ自己ノ氏名、職業、住所及ヒ其逮捕ノ事由ヲ陳述シ假ニ之ヲ巡査、憲兵卒ニ引渡スコトヲ得

被告人ヲ巡査、憲兵卒ニ引渡シタルトキハ速ニ告訴又ハ告發ヲ爲ス可シ

ノ事由トハ共ニ官署ニ至ルヲ得サル譯柄ニヲ引致スルヲ得サルトキノ類ナリ

被告人又ハ巡査、憲兵卒ハ逮捕ヲ爲シタル者ニ對シ共ニ官署ニ至ルコトヲ求ムルヲ得但逮捕ヲ爲シタル者ハ正當ノ事由アルニ非サレハ其求ヲ拒ムコトヲ得ス

○普通人民ノ犯人ヲ逃捕シタル場合ノ手續ヲ定ム其第二項ノ如ク逮捕人ニ告訴告發ノ義務アルハ故ナク人ヲ逮捕スル理ナク若シモ此義務ナキトキハ私仇ヲ以テ人ノ自由ヲ妨クル徒ナキニシモアラサレハナリ○第三項ハ故ナク人ヲ逮捕シ惡意ヲ以テ良民ヲ害スルノ弊ヲ豫防スルニアリ

第二章　起訴

○起訴トハ刑事ノ件ヲ豫審ニ廻シ又ハ公判ヲ求ムル檢事ノ手續ニシテ公訴ヲ爲スヲ云フ○搜査ヲ云フトハ第四十六條ノ手續ヲ爲スヲ云フ○意見書トハ見込書ナリ

第六十二條　地方裁判所檢事犯罪ノ搜査ヲ終リタルトキハ左ノ手續ヲ爲ス可シ

第一　重罪ト思料シタル事件ニ付テハ豫審判事ニ豫審ヲ求ム可シ

第二　輕罪ト思料シタル事件ニ付テハ其輕重難易ニ從ヒ豫審ヲ求メ又ハ直チニ其裁判所ニ訴ヲ爲ス可シ

第三　裁判所構成法第十六條第二號第三號ニ記載シタル輕罪又ハ違警罪ト思料シタル事件ニ付テハ證據書類ニ意見書ヲ添ヘ之ヲ區裁判所檢事ニ送致ス可シ

○檢事ハ社會ノ代表者ニシテ原告ノ地位アルモノナリ即チ訴ヲ起シ裁判ヲ求ムルニアリ故ニ搜査ヲ終リ被告人ノ誰タル乃犯罪ノ證憑ヲ知リ又ハ其何レカ一方ノミ知レル場合ニ於テハ訴ヲ起サヽル可ラス本條ノ規定ハ即チ是ナリ第一ト第二ト區別アルハ重罪ハ其事件罪ト共ニ重ク從テ證憑集取ニ困難ナルヿアリ又苟モ重罪トナル以上ハ十分被告人ノ爲メニモ利益ナル方法ヲ求メンメサル可ラス之レ一ハ必ラス豫審ヲ求メ一ハ其事件ノ輕重難易ニ從ヒ豫審ヲ求ムルト直チニ公判ニ移ストノ區別アリトス又第三ノ如キ假令輕罪ナルモ事微ニシテ徒ラニ無用ノ手數ヲ爲スニ過キサルヲ以テ第二ニ拘ハラス直チニ區裁判所檢事ニ送付スルニアリトス

○利益ナル方法トハ無罪タルノ證憑ヲモ集取スルヲ云フ又免訴ヲ言渡ス時モ公判トハ異ナリ公ケナラストス

第六十三條　區裁判所檢事犯罪ノ搜査ヲ終リタル上裁判所構成法

○照應トハ照シ合ハスヲ云フ

第十六條第一號第二號ニ記載シタル事件ト思料シタルトキハ其裁判所ニ訴ヲ爲ス可シ

○本條ハ區裁判所檢事ノ起訴ノ手續ヲ爲スモノニシテ前條ト照應シテ完全ナルモノトス卽チ區裁判所檢事ノ起訴スヘキ場合タリ其構成法第十六條第一號ハ違警罪事件ニシテ第二號ハ本刑五十圓以下ノ罰金ヲ附加シ若クハ附加セサル二月以下ノ禁錮又ハ單ニ百圓以下ノ罰金ニ該ル輕罪事件ナリトス

第六十四條　檢事ハ被告事件其裁判所ノ管轄ニ屬セサルモノト思料シタルトキハ之ヲ管轄裁判所ノ檢事ニ送致ス可シ

被告事件罪ト爲ラズ又ハ公訴受理ス可カラサルモノト思料シタルトキハ起訴ノ手續ヲ爲ス可カラス

○本條起訴スヘカラサル事件ノ事ヲ規定ス被告事件ノ其裁判所ノ管轄ニ屬セサルモノ例ヘハ區裁判所檢事ニ於テ重罪又ハ二月以上ノ重禁錮ニ該ル輕罪ノ事件アルトキ又ハ地方裁判所檢事ニ於テ皇族ノ犯罪ナル事其他犯罪ノ場所等自己ノ管轄ニ屬

○檢事トハ地方裁判所ト區裁判所トノ檢事ヲ包含ス

○公訴受理スヘカラストハ起スモ公訴ヲ起スヘカラサル事ヲ以テ之ヲ受理ス可カラサルヲ云フ

○公訴ヲ爲スノ目的トハ第一條ニアルカ如ク犯罪ヲ證明シ刑ノ適用ヲ爲スコトアリ

○送致トハ事件ヲ一方ノ檢事ニ送リ併セテ人ヲモ送付スルナリ

○其處分トハ起訴ノ手續ヲ爲シタルヤ否ヤ又ハ他ノ檢事ニ送付シタルヤ否ヤノ處分ヲ云フ

○計畫トハ目論見ヲ爲スヲ云フ

○本條ハ有罪ニ必要ナル事物ハ人々ナルノミナラス無罪ニ必要ナル事

セサルトキハ之ヲ其管轄裁判所檢事ニ送致スルモノトス○又被告事件罪トナラス例ヘハ被告人狂氣ナルカ他人ノ物品ヲ所持スルモ竊取シタルニアラサル時等ノ場合又ハ公訴受理ス可ラサルモノ卽チ第九條ノ公訴消滅ノ場合等アルトキハ起訴スヘカラス之レ公訴ヲ爲スノ目的ナケレハナリ

第六十五條　前數條ノ場合ニ於テ被告事件告訴ニ係ルトキハ檢事ヨリ其處分ヲ被害者ニ通知ス可シ

○第六十二條乃至第六十四條ノ處分ニ付テハ一々告訴ナレハ其被害者ニ通知スルヿハ其必要ハ第六十二條第六十三條ノ場合ハ公訴ニ附帶シテ私訴ヲ爲スノ計畫ヲ爲サシメ第六十四條ノ場合ハ民事裁判所ニ單純ノ訴ヲ爲スノ計畫ヲ爲サシムルニアリ蓋シ被害者ノ公訴ノアルト否トニ依リテ損害賠償ニ付影響ヲ受クレハナリ

第六十六條　檢事豫審ヲ求ムルトキハ證憑及ヒ事實參考ト爲ル可キ事物ヲ送致シ且臨檢ス可キ場所、逮捕ス可キ人名及ヒ證人ト爲ル可キ旨ヲ指示ス可シ

物及ヒ人々ヲモ包含ス

○取掛ルトハ先ツ被告人ヲ召喚スルヲ云フ

○本條指示スヘキヲ檢事ニ命スルハ搜査ノ結果ヲシテ効アラシムルニアリ若シモ然ラサレハ豫審判事ハ搜査ヲ爲ササルヘカラサルニ至ル之レ檢事ニ於テハ搜査ノ結果ニ依リ證憑及ヒ事實參考ノ事物ヲ送リ且臨檢ノ場所、逮捕ノ人々及ヒ證人ト爲ル人々ヲ指示シ犯罪ヲ證明スルニアリトス

第三章　豫審

第六十七條　現行ノ重罪、輕罪ヲ除ク外豫審判事ハ檢事ノ請求アルニ非サレハ豫審ニ取掛ルコトヲ得ス此規定ニ背キタルトキハ其請求ヨリ以前ニ係ル手續ハ效ナカル可シ

○豫審判事ハ一ノ裁判官タリ凡ソ裁判官ハ請求セサル事件ニ付テハ裁判スルノ權カナシ不告不理ノ原則アリ卽チ本條此原則ヲ適用シ檢事ノ請求アルニ非サレハ豫審ニ取掛ルヿヲ得ス之レニ背クトキハ其手續ハ効ナキ勿論タリ卽チ爲スヘカラサルヿヲ爲シタルニ外ナラス但現行犯ノ場合ハ之レ例外タリ何ントナレハ社會ノ公安ヲ維持シ證憑湮滅ヲ防カントセハ請求ヲ待ツノ暇ナケレハナリ

○訴訟記錄トハ其被告事件ノ一件書類ヲ云フ○還付トハ返却スルコトニヲ餘リ長ク檢事ノ手元ニ止メ置クトキハ豫審ヲ妨クルヲ以テ時ヲ限リ還戻セシムルモノトス○不權衡トハ不釣合ヒナルヲ云フ○容ルルトハ承諾スルト否トヲ云フ

○令狀トハ召喚狀勾引狀勾留狀ヲ云フ皆被告人ヲ勾束スル書面ナリ

第六十八條　檢事ハ豫審中何時ニテモ豫審判事ニ請求シテ訴訟記錄ヲ檢閲スルコトヲ得但二十四時內ニ之ヲ還付ス可シ

又必要ナリトスル處分ニ付キ臨時其請求ヲ爲スコトヲ得

○被告人ニ此權ナシシテ檢事ニ此權アリトセハ或ハ原被告兩地位ニ付不權衡ノ嫌ナシト云フヘカラサルカ然レトモ檢事ハ書類紛亂スルノ恐レナシ又公益ヲ保護スル点ヨリシテ證據ヲ湮滅スルノ恐レナシ殊ニ檢事ハ社會ノ代表者ニシテ犯罪ヲ搜査シ以テ社會ノ爲メ公安ヲ維持スルノ職ニアレハ訴訟記錄ヲ閲シ其職務ヲシテ十分盡サシメサル可ラサルニアリトス○第二項ハ必ラス豫審判事ノ遵守スヘキ手續及ヒ檢事ハ判事ヲ勾束スル權アル規定ト誤ルヘカラス故ニ判事ノ檢事ノ請求ヲ正當トシ容ルルト否トハ自由ナリトス只檢事ハ注意ヲ促スニ外ナラストス

第一節　令狀

第六十九條　豫審判事ハ檢事ノ起訴ニ因リ重罪、輕罪ノ事件ヲ受理シタルトキハ被告人ニ對シ先ツ召喚狀ヲ發ス可シ但召喚狀ノ

トス○召喚狀トハ呼出ス書面ナリ

送達ト被告人出頭トノ間少クトモ二十四時ノ猶豫アル可シ

召喚狀ニ因リ出頭シタル被告人ハ即時ニ之ヲ訊問ス可シ又遲クトモ出頭ノ日ヲ過クルコトヲ得ス

○豫審判事ハ何ハ兎モ角先ツ召喚狀ヲ發ス可シ之レ被告人ノ未タ罪アルカ否ヤ不判明ナル際ニ身体ヲ勾束スヘキモノニアラサレハ先ツ自由ニ出廷シ得ヘキ樣爲スコアリ其但書ハ二十四時ノ餘地ヲ存シ出廷スヘキノ準備ヲ爲サシムルニ在リ

○召喚狀ニ依リ出頭シタル被告人ハ罪ノ有無判然セサルモノナレハ可成被告ノ營業其他空シク時間ヲ費ヤササルカ爲メ即時ニ訊問ス可シ若シ判事ニ於テ即時ニ爲シ能ハサルモ其日ヲ過ゴサス必ラス其召喚セシ日ニ訊問シ敢テ翌日マテ勾束スルコトヲ得サルモノトス

第七十條　豫審判事ハ召喚狀ヲ受ク可キ被告人其管轄地內ニ住セサルトキハ訊問ス可キ條件ヲ明示シテ被告人所在ノ地ノ豫審判事又ハ區裁判所判事ニ其處分ヲ囑託スルコトヲ得

○條件トハ譬々ト云フカ如シ○處分トハ訊問ノ「ヲ云フ

○受託判事トハ第七十條ノ如ク事件訊問ノ囑託ヲ受ケタル判事ヲ云フ○得トハ勾引狀ヲ發スル「カ出來ルナリ故ニ再ヒ召喚狀ヲ發スル差支ナシ○蔑如トハ「ナイガシロ」ニスルヲ云フ○直チニトハ召喚狀ヲ發スル「ナク勾引

○未タ罪ノ有無判然セサル被告人ニ對シ管轄地外ヨリ召喚スルカ如キハ被告人ノ迷惑ナルノミナラス法律モ亦其規定ヲ爲スヿヲ得ス故ニ其所在地ノ豫審判事又ハ豫審判事ナキ所ハ區裁判所判事ニ訊問ノ事ヲ囑託スルモノトス之レ便利ナル規定ナリ尚ホ裁判所構成法第百三十一條ノ精神ヨリ出ツルモノナリ

第七十一條　豫審判事又ハ受託判事ハ召喚狀ヲ受ケタル被告人其日時ニ出頭セサルトキハ勾引狀ヲ發スルコトヲ得

○罪ノ有無明ラカナラサル間ハ未タ以テ罪人視スルヿヲ得サレハ召喚狀ヲ發シ人民ノ自由ヲ尊重シ隨意ニ出頭セシムルノ自由ヲ與ヘタリシカ人民ハ此待遇アルニモ拘ハラス出頭セスシテ事務ノ澁滯ヲ生セシメ手數ニ煩雜ヲ加ヘシム茲ニ於テカ職權ヲ以テ强テ引致セシメ以テ事務ノ澁滯ヲ避ケ裁判官ノ威嚴ヲ侮ラシメサルニアリ然ラサレハ人民ハ公權ヲ蔑如シ右ノ待遇ヲシテ水泡ニ屬セシム

第七十二條　豫審判事又ハ受託判事ハ左ノ場合ニ於テ直チニ勾引狀ヲ發スルコトヲ得

狀ヲ發スルヲ云フ○罪證トハ犯罪ノ證據トナルモノヲ云フ○未遂罪トハ仕遂ケサルヲ云フ例ヘハ人ヲ殺サントシ一刀ヲ切リ付ケタルノミノ場合ノ如シ

○乞丐トハ乞食ヲ云フ○躊躇トハヒヂモヂスルヲ云フ

○寛宥トハ「ユルヤカナル」ヲ云フ

○執行ノ命ヲ受ケタル者トハ巡査憲兵卒ナリトス○引致ストハ判事ノ面前ニ引キ行クヲ云フ○勾留狀トハ身体ヲ監禁勾束スルヲ云フ○釋放トハ免シ放ツヲ云フ○勾引狀ニハ日時ノ記載ナク見付ケ次第引致スルニアリ

第一　被告人定リタル住所アラサルトキ

第二　被告人罪證ヲ湮滅シ又ハ逃亡スル恐アルトキ

第三　被告人未遂罪又ハ脅迫罪ヲ犯シ仍ホ其目的ヲ遂ケントスル恐アルトキ

○被告人ニ對シテハ最初ハ無罪視スルヲ以テ先ツ召喚狀ヲ發シ然ル後ニアラサレハ勾引狀ヲ發スルヲ得サルモノナレトモ本條列記ノ場合ノ如キハ之レヲ豫防スルガ爲メ直チニ勾引狀ヲ發スルコトヲ得ヘキモノトス○第一號ハ住所アラサレハ召喚狀ヲ送達スルヲ能ハサルノミナラス從テ無籍者乞丐等ナレハ逃亡スルノ恐レアリ第二號ハ假令住所アルモ社會一般ニ害ヲ及ホスノ恐レアリ從テ自由ヲ尊重スルヲ名トシテ躊躇スルノ暇ナシ第三號ハ自由ヲ勾束セサレハ害ヲ受クルヿ一層甚シキノミナラス召喚狀ヲ發シテ之ニ應セシムルカ如キ寛宥ノ所置ヲ施スヘキ場合ニアラサルナリ以上直チニ勾引狀ヲ發シ身体自由ヲ拘束スル所以トス

第七十三條　勾引狀執行ノ命ヲ受ケタル者ハ其令狀ヲ發シタル判事ニ被告人ヲ引致ス可シ

勾引狀ヲ以テ引致シタル被告人ハ四十八時內ニ之ヲ訊問ス可シ若シ其時間ヲ經過スルトキハ勾留狀ヲ發スルニ非サレハ當然之ヲ釋放ス可シ

○豫審判事ノ發シタル勾引狀ニ依リ引致スル非ハ其判事ニ引渡スハ當然タリ○勾引狀ハ只單ニ引致スルニ止マリ勾留スル力ナキヲ以テ四十八時內ニ訊問セサルヘカラス然ラサレハ勾留狀ヲ發スヘシ又第六十九條ノ召喚狀ヲ受ケタル被告人ト第二項ト異ナルカ如キモ召喚狀ニハ日時ノ記載アリ故ニ其日時內ニ訊問スヘク本條ノ勾引狀ニハ日時ナケレハ四十八時ノ猶豫ヲ法律上加ヘタルニアリトス

第七十四條　豫審判事又ハ受託判事ハ召喚狀又ハ勾引狀ヲ受ケタル被告人疾病其他正當ノ事由アリテ令狀ニ應スル能ハサルコトヲ疏明シタルトキハ被告人ノ所在ニ就テ訊問スルコトヲ得

○疾病其他正當ノ事由アリテ召喚狀ニ應スルヿ能ハス又引致セラルルヿ能ハサル

○正當ノ事由トハ例ヘハ父母病氣ニシテ看病スヘキ人ナキ又ハ他人ヲ以テ自己ニ代ラシムルヿ

ノ出來サル職務ヲ爲スノ類ナリ尤トモ正當ト否トハ判事ノ認定ニ任スルニアリ

○禁錮以上ノ刑トハ禁錮、禁獄、懲役、徒刑、流刑、死刑等トス○逃亡シタル場合ニ發スルトハ其罪ノ性質罰金違警罪ニ該ルモノモ包含スト雖其判然セルトキハ假令逃亡スルモ發スルコトナキモノト知ルヘシ

トヤハ孫審判事ハ其所在ニ就テ訊問スヘシ之レ止ヲ得サレハナリ尤トモ被告人ハ應スル能ハサルヿヲ疏明セサルヘカラス即チ自己病氣ナレハ診斷書ヲ以テスルカ又ハ巡査憲兵卒ヲシテ實際病臥ニアルヿヲ目擊セシムルノ類トス

第七十五條　勾留狀ハ被告人ヲ訊問シタル後禁錮以上ノ刑ニ該ル可キモノト思料スルニ非サレハ之ヲ發スルコトヲ得ス但被告人逃亡シタル場合ニ於テハ其訊問ヲ爲サスシテ之ヲ發スルコトヲ得

○勾留狀ハ其性質身体ヲ束縛シ自由ヲ勾束スルニアレハ其犯罪ノ何タルヲ知ラスシテ漫リニ發スヘキモノニアラス故ニ本條ノ規定アリ但書ハ逃亡セハ事實有罪ナリトノ推測ヲ以テ直チニ發スルモノトス又禁錮以上ノ刑トアリテ其他罰金科料若クハ勾留ノ刑ノ如キハ本刑スラ尚ホ身体ヲ勾束セス其勾束スルモ僅カ數日間ナリ況シヤ其訊問中ニ於テヲヤ故ニ是等ニハ勾留狀ヲ發スルヿヲ許サヽルモノトス

第七十六條　總テ令狀ニハ被告事件及ヒ被告人ノ氏名、職業ノ住

○分明ナラサルトハ苗字名前カ「ハツキリ」セヌヲ云フ○容貌トハ人相ナリ

所ヲ記載ス可シ但召喚狀ヲ除ク外其氏名分明ナラサルトキハ容貌、体格等ヲ明示ス可シ

又令狀ニハ之ヲ發スル年月日時ヲ記載シ判事及ヒ裁判所書記署名捺印ス可シ

召喚狀ハ執達吏ヲシテ被告人ニ送達セシメ勾引狀、勾留狀ハ巡査、憲兵卒ヲシテ之ヲ執行セシム

○本條ハ令狀ノ記載例及ヒ令狀執行方法ヲ規定シタルモノトス其召喚狀ヲ除ク外氏名分明ナラルトキハ容貌体格等ヲ明示スルハ其人違ヒノ生スルヿヲ恐ルヽナリ召喚狀ハ住所氏名判然セサレハ日時出頭スヘシト命シ發スル能ハサレハナリ又年月日時及ヒ該官ヲ明示スルハ其効力ノ期間ヲ知リ時効計算ニ付必要アリ又管轄權ヲ有スルヤ職權ヲ有スルヤヲ知ルニ必要アリ第三項勾引狀勾留狀執行ニ付テハ公力ヲ要スルヿアレハ公力者ナシテ執行セシムルモノトス

第七十七條　勾引狀、勾留狀ハ時宜ニ因リ正本數通ヲ作リ巡査、憲

○分付トハ分

シテ渡スヲ云フ○謄本トハ元ト一紙ナリシカト表半面ハ正本ニシテ裏半面ハ謄本ナリトス依テ切斷シテ渡スナリ

○捜索トハ所々ヲ捜シ被告人ヲ索メルヲ云フ

兵卒數人ニ分付スルコトアル可シ

前項ノ令狀ヲ執行スルニハ被告人ニ正本ヲ示シ其謄本ヲ下付ス可シ此場合ニ於テハ其正本、謄本ニ執行ノ場所、日時ヲ記載シ被告人ヲシテ署名捺印セシム若シ署名捺印スルコト能ハサルトキハ其旨ヲ附記ス可シ

○勾引狀勾留狀ハ其發シタル豫審判事ノ管轄地内ニ於テ効力アルノミナラス日本全國ニ於テモ亦効力アリトス之レ本條ニ於テ場合ニ依リ數人ニ分付シ所々ヲ捜索シテ執行セシムルモノトス例ヘハ甲巡査ヲシテ東京地方ニ派シ以テ被告人ヲ捜索勾引セシメ乙巡査ヲシテ長崎地方ニ到ラシムルカ如シ蓋シ出沒自在ナル者ニ對シテハ斯ノ如ク爲サヽレハ到底逃捕スル道ナケレハナリ尤トモ他管轄ニ入ルトキハ第七十九條ノ規定ヲ守ラサルヲ得ス○第二項ハ令狀執行方法ヲ示ス而シテ場所日時ヲ記載スルハ其執行ノ時及ヒ管轄ノ内外ヲ知リ署名捺印セシムルヿハ被告人ヲシテ承諾セシムルニアリトス

○潛匿トハ隱レ潛ムヲ云フ○隣佑トハ隣家ノ人ヲ云フ

第七十八條　令狀執行ノ命ヲ受ケタル巡査、憲兵卒ハ被告人其家宅若クハ他人ノ家宅ニ潛匿シタリト思料シタルトキハ其他ノ市町村長又其差支アルトキハ隣佑二名以上ノ立會ヲ求メ之ヲ捜索ス可シ

前項ノ場合ニ於テハ被告人ヲ發見シタルト否トニ拘ハラス捜索調書ヲ作リ立會人ト共ニ署名捺印ス可シ

家宅捜索ハ日出前日沒後之ヲ爲スコトヲ得ス但旅店、割烹店其他夜間ト雖モ衆人ノ出入スル場所ニ付テハ其公開時間内ニ限リ何時ニテモ捜索ヲ爲スコトヲ得

○何人ト雖モ人ノ家宅内ニ侵入スルコトヲ得サルハ勿論ニシテ即チ憲法ノ認ムル所又法律モ之ヲ罰ス蓋シ人民生活上權利ヲ妨害セラルルヲ以テ人ノ自由ハ之ヲ尊重セサル可カラサルニ依ル然レトモ社會秩序ヲ維持スル公益上ノ爲メニハ自由モ亦殺カルルコトアリ之レ社會ノ公益ト一人ノ私益トハ共ニ併行スルヿヲ得サレハナ

○旅店トハ宿屋ナリ○割烹店トハ料理屋等飲食スル店ヲ云フ○衆人ノ出入スル場所トハ芝居寄席待合茶屋博物館勸商場等ヲ云フ○併行トハナラビ行ハルルヲ云フ○私擅トハ

○令狀

キヤ、勝手ヲ云フ○表示トハ「アラワス」ヲ云フ

○急速トハ事件カ容易ナラヌ取急ノモノヲ云フ○帶行トハ令狀ヲ持タセテ追行セシムルヲ云フ

リ之レ被告人ノ家宅内ニ潛匿スルリト思料スルトキハ搜索ヲ爲ス權利ヲ與フル所以ナリ然レトモ其搜索ノ私擅ニ出デサルヲ證スルカ爲メ第一項ノ人人ノ立會ヲ求ム可シ之レ濫用ヲ防キ公平ノ處置ヲ表示スルニ外ナラス○一旦人ノ家宅ヲ搜索セハ被告人ノ在リト否トヲ問ハス調書ヲ作リ之ヲ明ラカニス○搜索ハ日出前日沒後ハ爲スヿヲ得ス之レ人ノ安息ヲ妨ク然レトモ夜中ト雖モ人ノ出入スヘキ公開所ニ在テハ之ヲ搜索スルモ差支ナシ之レ何人ニテモ出入セシムルヲ以テナリ

第七十九條　豫審判事ハ被告人他ノ管轄地内ニ潛匿シタルコトヲ知リ又ハ潛匿シタリト思料シタル場合ニ於テ被告事件急速ヲ要スルトキハ巡査、憲兵卒ニ令狀ヲ帶行セシムルコトヲ得

巡査、憲兵卒ハ被告人所在ノ地ノ豫審判事、檢事又ハ司法警察官ニ令狀ヲ示シテ即時ニ執行ヲ求ム可シ

○豫審判事カ令狀ヲ發シタルニ其被告人ハ他ノ管轄内ニ潛匿シタルヿヲ確カニ知リ又ハ潛匿シタリト思料スルトキハ第七十條ノ如ク其地ノ豫審判事又ハ區裁判所判

○檢事長トハ各控訴院ニ在ル檢事長ナリトス○送致トハ送ルヲ云フ○逮捕狀トハ被告人ヲ捕ヘル書面ナリ

○煩雜トハ「ワヅラワシキ」ヲ云フ

事ニ囑托シテ逮捕スルヲ通例トス然レトモ其事件ノ急速ヲ要スルトキハ直ニ令狀ヲ帶行シテ第二項ノ如ク豫審判事檢事又ハ司法警察官ニ示シテ執行セシムルコトアリトス蓋シ囑托スルノ猶豫ナキトキナレハ例外ノ處分ナリトス

第八十條　豫審判事ハ被告人所在ノ地ヲ覺知スルコト能ハサルトキハ各檢事長ニ被告人ノ人相書ヲ送致シ搜査及ヒ逮捕ヲ爲ス可キコトヲ請求スルヲ得

請求ヲ受ケタル檢事長ハ其管轄地内ノ檢事ヲシテ搜査及ヒ逮捕ノ處分ヲ爲サシム可シ此場合ニ於テ檢事ノ發シタル逮捕狀ハ勾留狀ト同一ノ効ヲ有ス

○豫審判事ニ於テ被告人ノ所在ヲ覺知スルヿ能ハサル時ハ各檢事長ニ其人相書ヲ送致シ搜査及ヒ逮捕ヲ爲スヿヲ請求スルヿヲ得ヘシ蓋シ豫審判事ニ於テ全國各地方裁判所又ハ區裁判所ニ此事ヲ請求スルハ至當ナルカ如キモ之レ多數ニシテ却テ煩雜ナリ之ニ反シ檢事長ハ各控訴院管轄内ノ檢事ヲ指揮スル權アレハ之ヲ檢事長

○豫備後備ニ非サルモノトハ常備ニシテ常ニ軍役ニ從事セル人々ヲ云フ○長官トハ師團長又ハ旅團長ノ類又ハ會計監督等ナリ○已ムヲ得サル云々例ヘハ行軍中トカ又ハ演習中トカ出征中トカ云フノ類ナリ

ニ致シ以テ全國ニ及ボサシムルニ在リ然レハ僅カ七ケ所ニ請求セハ事足ルニアリ

○檢事長ハ各其管内ノ檢事ニ令シテ搜索及ヒ逮捕ノ處分ヲ爲サシメ檢事ハ逮捕狀ヲ作リテ被告人ヲ搜索逮捕ス其逮捕狀ハ勾留狀ト同一ノ効アルハ蓋シ逮捕狀ハ其名ノ如ク逮捕スルニ止マルヲ以テ更ニ勾留狀ヲ發セサル可ラサルノ手數アリ故ニ逮捕狀ヲシテ勾留狀ヲ兼ネシムルノ便且利ナレハ以テ目的ヲ達スルニ必要トス

第八十一條　豫備、後備ノ軍籍ニ在ラサル下士以下ノ軍人、軍屬ニ對シ令狀ヲ發シタルトキハ其所屬ノ長官又ハ隊長ニ令狀ヲ示ス可シ其長官又ハ隊長ニ已ムコトヲ得サル差支アルニ非サレハ本人ヲシテ速ニ令狀ニ應セシム可シ

○陸海軍ノ制ハ嚴重ニシテ長官又ハ隊長ノ命令アルニアラサレハ一歩モ進退スルヿヲ得ス蓋シ然ラストセハ軍紀ノ整肅ニ關係ス故ニ本條ニ於テ常備ノ軍籍ニ在ルモノニ對スル令狀ハ先ツ長官又ハ隊長ヲ經テ應セシムルニ在リ尤トモ令狀ヲ發スルハ被告人ノ地位ニアレハ已ムコトヲ得サル差支アルニアラサレハ必ラス令狀ニ

リ

○最近トハ勾留狀ヲ執行シタル場所ヨリ最モ近キヲ云フ○監獄署長トハ典獄又ハ典獄ノ代理ヲ爲スモノナリ○檢閲トハ見テ調フルヲ云フ○困難トハ或ハ足痛ヲ中立テ車馬ニ依ラサルヘカラサル場合ノ類ナリ

應セシメサルヘカラス然ラサレハ陸海軍籍ニ在ルモノハ罪ヲ犯スモ避クルヿ容易ナルニ至リ司法權ノ獨立ヲ傷ツクルニ至ルヘケレハナリ

第八十二條　勾留狀ヲ受ケタル被告人ハ速ニ其令狀ニ記載シタル監獄署ニ引致ス可シ若シ其監獄署ニ引致スルコト能ハサルトキハ假ニ最近ノ監獄署ニ引致スルコトヲ得

何レノ場合ニ於テモ監獄署長ハ令狀ヲ檢閲シテ被告人ヲ受取リ其證書ヲ渡ス可シ

○勾留狀ノ目的ハ記載人ナシテ身体ヲ勾束シ自由ヲ束縛スルニアリ故ニ監獄署ニ引致スルモノトス若シモ其記載ノ監獄署ニ引致スルヿ能ハサルトキ例ヘハ其署ニ到ルトキハ夜中ト爲リ逃走ヲ恐ルル場合又ハ引致スルノ困難ナル等アルトキハ假ニ最近ノ監獄署ニ引致スルヿヲ得可シ○監獄署長ハ令狀ヲ檢閲シ被告人ノ人違ナキヿト其令狀ノ法律上正當ノモノナルヤヲ認メ之ヲ受取ルヘシ其受取タルトキハ巡査憲兵ニ受取書ヲ渡スモノトス之レヲ渡スハ其人ヲシテ責ヲ免カレシムルノミナラス

後日ノ證トナルニ外ナラス

第八十三條　令狀執行ノ命ヲ受ケタル巡査、憲兵卒ハ之ヲ執行シタルコト又執行スルコト能ハサルトキハ其事由ヲ令狀ノ正本ニ記載ス可シ

巡査、憲兵卒ハ令狀執行ニ關スル書類ヲ檢事ニ差出ス可シ

○令狀執行方法ヲ規定シタリ巡査、憲兵卒ハ令狀ヲ執行スル役目ナリ故ニ檢事ノ命令ヲ受ケテ執行ス而シテ全ク無事ニ執行シタルトキハ其事ヲ記載シ又執行スルヿ能ハサルトキハ其能ハサル事由ヲ令狀ニ記載シ證明ス可シ○令狀執行ハ檢事ノ命ニ依ルヲ以テ從テ一件書類ハ檢事ニ差出ス當然ナリ

第八十四條　勾留狀ヲ受ク可キ被告人既ニ監獄署ニ在ルトキハ執達吏ヲシテ之ヲ本人ニ送達セシム可シ

○巡査憲兵卒ナシテ勾留狀ヲ執行セシムルハ被告人ノ身体自由ナル場合ニシテ或時ニ依リ若シ應セサルトキハ公力ヲ用ユヘク令狀執行ヲ爲スヤ既ニ公力ニ依ルニア

事由トハ其事柄ナリ○執行スルヿ能ハサルトハ被告人不在又ハ病氣ニテ頭ノ揚ラサル等令狀ニ應スルヿ能ハサルトキノ類ナリ

○應セサルトハ令狀ニ從ハサルヲ云フ

○密室監禁トハ一人密室ニ監禁勾致シ暗室ニシテ外物ヲ少シモ見サラシメ證據湮滅ヲ防キ事實發見ヲ目的トスル處分ナリ第二節ニアリ○故舊トハ朋友知己ナリ○接見トハ面會スルヲ云フ○授受トハ受ケ渡シヲスルヲ云フ

リ然ルニ入獄中ノモノニ在テハ別ニ公力ヲ用ユルノ要ナシ已ニ身ハ勾束セラレツアレハナリ故ニ執達吏ヲシテ送達セシムル之レ便且簡ナレハナリ

第八十五條　密室監禁ノ場合ヲ除ク外被告人ハ監獄則ニ從ヒ官吏ノ立會ニ依リ其親屬、故舊又ハ辯護士ニ接見スルコトヲ得

書翰、書籍其他ノ書類ハ豫審判事又ハ檢事ノ檢閲ヲ經タル後ニ非サレハ被告人ト外人ト之ヲ授受スルコトヲ許サス但豫審判事又ハ檢事ハ其書類ヲ留置クコトヲ得

○被告人ヲ入監セシムルハ其逃走ヲ爲シ及ヒ證據ノ湮滅ヲ爲スヲ防クニ外ナラス故ニ逃走ノ恐レナク證據湮滅ノ虞ナキ時ハ其親屬故舊又ハ辯護士ニ面會セシムルモ敢テ不都合ヲ生スルヿナシ然レトモ制限セサルトキハ或ハ逃走ヲ謀リ證據湮滅ヲ計ルノ恐レアレハ監獄則ニ從ヒ獄吏ノ立會アルヲ必要トスルニアリ尤トモ密室監禁ノ如キハ處置其モノカ接見ヲ爲サシメサル主意ニアレハ假令監獄則ニ依ルモ決シテ接見ヲ許サス○書翰書類其他書籍等モ亦檢閲ノ後ニアラサレハ授受ヲ許サス

○越獄トハ牢破リナリ

蓋シ内外應接シテ越獄逃亡ヲ謀リ又ハ證據ノ湮滅ヲ企ツル等ヲ防クニアリトス

第八十六條　豫審判事ハ被告事件禁錮以上ノ刑ニ該ル可キモノニ非スト思料シタルトキハ豫審中何時ニテモ勾留狀ヲ取消ス可シ

○勾留狀ハ第七十五條ノ如ク禁錮以上ノ刑ニ該ル被告人ニ對スルニアラサレハ發スルヿヲ得サルモノナリ然レ𪜈其初メ禁錮以上ノ刑ニ該ルモノト思料シ又ハ逃走シタル場合ノ如ク共ニ勾留狀ヲ發シ勾束シタリシカ後訊問ノ模樣ニ從ヒ罰金、科料又ハ勾留等ノ刑ナルヿ判然スルトキハ勾留狀ヲ取消サヽルヘカラス之レ其性質ニ於テ勾留スヘキモノニアラサレハナリ

第二節　密室監禁

第八十七條　豫審判事ハ豫審中事實發見ノ爲メ必要ナリト思料シタルトキハ檢事ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ勾留狀ヲ受ケタル被告人ヲ密室ニ監禁スル言渡ヲ爲スコトヲ得

○密室監禁ハ其事件ノ重大ニシテ證據明白ナラス又被告人モ白狀セス且秘密ニシ

○具備トハ揃フヿヲ云フ

○允許トハ「ユルシ」ヲ云フ○接見トハ他人ト面會スルヿヲ云フ

○交通トハ互ヒニ通シ合フヲ云フ

○超過トハ

ヲ證據湮滅ノ恐レアルトキ及ヒ事實ヲ吐露セシムルカ爲メ等總テ豫審中事實發見ヲ必要トスル時ニ際リテ施スヘキ手段ナリトス故ニ必ラス本條ノ如ク事實發見ノ爲メナルヿ(一)豫審中ナルヿ(二)檢事又ハ豫審判事ノ關係スルヿ(三)勾留狀ヲ受ケタル被告人タルヿ(四)ヲ具備セサルヘカラス左レハ公判中ニ於ケル被告人ノ請求ニ於ケル禁錮以上ノ刑ニ該ラサルモノニ於ケル等ノ場合ニハ決シテ此處分ヲ爲スヲ許サヽルモノトス

第八十八條　密室監禁ノ言渡ヲ受ケタル被告人ハ一名毎ニ之ヲ別室ニ置キ豫審判事ノ允許ヲ得ルニ非サレハ他人ト接見シ又ハ書類其他ノ物品ヲ授受スルコトヲ許サス

○密室監禁ヲ爲ス方法ニシテ此處置タル事實發見ノ爲メニシテ之ヲ發見スルハ證據ノ湮滅ヲ防キ交通ヲ絶ツニアラサレハ能ハス故ニ一人毎ニ一室ニ閉ヲ他人ト接シ又ハ書類物品ノ授受ヲ禁スルニアリトス

第八十九條　密室監禁ハ十日ヲ超過ス可カラス但十日毎ニ其言渡

「コエスギル」ヲ云フ○更改トハ更ラニ改ムルヲ云フ
○訊問トハ取調フルニ同シ
○苦痛トハ苦シキ思ヒヲ爲サシムルナリ
○續行トハ引キ續クヲ云フ
○濫用トハ無暗ト用ヰルナリ
○自白トハ自ラ不利益ナルヲ述フルナリ

ヲ更改スルコトヲ得

言渡ヲ更改スルトキハ其事由ヲ裁判所長ニ報告ス可シ

豫審判事ハ十日間ニ少クトモ二度被告人ヲ訊問ス可シ

○密室監禁ハ非常ノ處分ナルニ依リ被告人ニ於テモ亦非常ノ苦痛ヲ與フルモノナリ故ニ其時間ヲ制限セサル可ラス若シモ然ラサレハ苦痛ノ爲メニ發病ヲナシ又ハ判事ノ怠慢遺忘ニ依リ必要ナキ時モ尚ホ續行スルノ患ヒアリトス之レ十日ヲ限リトシテ更ニ言渡ヲ改ムルニアラサレハ監禁スルヿヲ得サラシム○所長ニ報告スルハ濫用ヲ防キ且怠慢ヲ爲サシメサルニ外ナラス○十日間ニハ少クトモ被告人ヲ二度訊問セサルヘカラサルハ之レ其監禁カ事實發見ノ爲メナレハ之ヲ訊問シ事實ヲ看發セサルヘカラス併セテ判事ノ遲滯ヲ豫防スルニアリトス

第三節　證據

第九十條　被告人ノ自白、官吏ノ檢證調書、證據物件、証人及ヒ鑑定人ノ供述其他諸般ノ徵憑ハ判事ノ判斷ニ任ス

云フ○檢證調書トハ實地ニ就テ取調ヘタル模樣書取書ヲ云フ○證據物件トハ盜賊ノ盜物又ハ合鍵等ノ如シ○徵憑トハ自己ノ主張ヲ推認セシムルカ爲メ助ケトナルモノニ例ヘハ戶口ノ開キアル時泥足ノ付ケアルヿ參考人ノ供述ノ如キ類ナリ
○集取トハ取リ集ムルヲ云フ

○證據ハ刑事上被告人ヲ罰シ又ハ無罪トスルニ必要ナル具ニシテ實ニ有罪無罪ヲ區別スルモノタレハ本法中ニ於テ大ナル價値ヲ有スルモノタリ而シテ民事ト刑事トニ付キ證據方法ハ大ニ異ナルモ先ツ民事上ニ付テハ敢テ問ハス刑事上ニ付テハ只被告事件ノ黑白ヲ判斷スルニハ別ニ民事上ノ如ク公正證書私證書ノ類ナクシテ一ノ心證ヲモノヲ以テ判斷スルニアリ而シテ判事ノ心證ヲ作ルモノハ何ナリヤ之レ本條ニ列記セル所ノ證據又ハ徵憑ニアリ即チ被告ノ自白、檢證調書、證據物件證人ノ供述、鑑定人ノ供述是等ハ之レ證據ニシテ其他多クノ徵憑即チ有罪無罪ノ主張ヲシテ推認スル助ケトナル有形的外觀物等ニアリトス而シテ裁判官ハ何レノ證據徵憑ニモ勾束セラレス取捨自由ニシテ法律ハ有無罪判斷ヲ一任セリ

第九十一條　豫審判事ハ檢事若クハ被告人ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ事實發見ノ爲メ必要ナリトスル證據徵憑ヲ集取ス可シ

○豫審判事ハ檢事若クハ被告人ノ請求アルトキハ勿論自ラ不充分ナリト思料スルトキハ其必要ナリトスル證據徵憑ヲ集取セサルヘカラス而シテ其集取ヤ被告事件ノ前

後ハ勿論其原因情況等ニ被告人ニ關係ヲ及ホスヿ社會ニ利害ノ及フヘキ事ハ一切包含セリト解釋シ有罪無罪及ヒ情狀等逐一集取スルヲ以テ充分ナリト知ルヘシ

第九十二條　豫審判事臨檢、搜索、物件差押又ハ被告人、證人ノ訊問ヲ爲スニハ裁判所書記ノ立會ヲ必要トス書記ハ調書ヲ作リ豫審判事ト共ニ署名捺印ス可シ

裁判所外ニ於テ急遽ノ際書記ノ立會ヲ得ルコト能ハサルトキハ立會人二名アルヲ要ス但監獄署ニ就テ被告人ヲ訊問スルトキハ其監獄署ノ官吏一名ヲシテ立會ハシム可シ

前項ノ場合ニ於テハ豫審判事自ラ調書ヲ作リ之ヲ讀聞カセ立會人ト共ニ署名捺印ス可シ

書記又ハ立會人ナクシテ爲シタル處分ハ其効ナカル可シ

○第一項列記ノ所爲ヲ爲スハ證據徵憑ヲ集取スルニ就テ最モ重要ナル處分ナリ故

○急遽トハ急キ「ニワカ」ノ場合ヲ云フ○就テトハ監獄署ニ判事カ出張シテト云フ意ナリ

○重要トハ大切ナルコトナリ

○對質トハ被告人ト他ノ人々ト相對シテ取調フルヲ云フ○急遽トハ急ノトキヲ云フ

ニ苟モ不正不公平ノ所爲アルヘカラス判事ハ裁判官ナリト雖モ決シテ油斷スヘカラス一時ノ利慾ヨリシテ不正不公平ノ處置ヲ施スヤ敢テ知ルヘカラス之レ書記ノ立會ヲ必要トスル所以ニシテ又第二項ノ如キ場合ニ在テハ立會人ヲ必要トスル所以ナリ若シモ立會ナクシテ爲シタル處分ハ第四項ノ如ク總テ無効トシ公平ヲ維持シ不正ノ所爲ヲ防クニアリトス○署名捺印スルハ書記又ハ立會人ノ立會アリタルコトヲ證明スルカ爲メナリ

第四節　被告人ノ訊問及ヒ對質

第九十三條　豫審判事ハ先ツ被告人ヲ訊問ス可シ但檢證ヲ爲シ又ハ證人ヲ訊問スルニ付キ急速ヲ要スルトキハ此限ニ在ラス

○被告人ヲ先ツ訊問スヘシト規定シタルハ起訴事件ト被告人トハ人違ヒニアラサルカ又ハ起訴ノ如キ事實ナリシカヲ確ムルカ爲メニシテ訊問セシカ爲メ他ニ集取スヘキ證據徵憑ヲ見出スヿアレハ先ツ事件ニ着手スル端緒トシテ被告人ヲ訊問スルニアリ尤モ急速ノ場合例ヘハ降雨又ハ積雪等ノ爲メニ地上ニアリシ跡ヲ失ヒ

○自白トハ自ラ申立ツヲ云フ○恐嚇トハ「オドス」ヲ云フ○詐言トハ「ダマス」ヲ云フ○恐嚇ヲ爲ストハ例ヘハ自白セハ放免スヘシ然ラサレハ死刑ニ處スヘシト云フカ如シ○詐言トハ共犯ノ一人ハ已ニ自白セリト詐ルカ如シ

○錄取トハ書キ取ルナリ

又ハ被害者ニ一言セサレハ最早死スル等ノ場合ハ被告人ノ訊問ヲ跡ニシテ先ツ其痕跡又ハ被害者ニ就テ取調ヲ爲シ置クモノトス之レ證據湮滅ノ恐レアレハナリ

第九十四條　豫審判事ハ被告人ヲシテ其罪ヲ自白セシムル爲メ恐嚇又ハ詐言ヲ用ユ可カラス

○古來我國ニ在テモ行ハレタル拷問ハ文明ノ風ト共ニ散失シ少シモ其跡ヲ留メサル實ニ今日ニ於テ賞スヘキ事ナリ拷問ハ實ニ身体ニ苦痛ヲ加ヘ無理ニ自白ヲ爲サシムルヲ以テ目的トシ決シテ他ノ證據ヲ集取セスシテ獨リ自白ヲ以テ罪ヲ斷スルニ至レリ野蠻國風見ルヘキノミ而シテ其身体ニ苦痛ヲ加ヘサルモ或ハ恐嚇シ或ハ詐言ヲ加ヘ以テ自白セシムルモ亦一ノ拷問ニハアラサルカ被告人ハ心中大ニ恐レヲ懷キ又ハ詐言ニ瞞着セラレ終ニ事實ナキヲ吐露セシメ罪ヲ斷スルニ至ルヘシ實ニ恐レサル可ラス刑事ハ自白ノミヲ以テ有罪視セス他ノ證據徵憑ヲ以テ心證ヲ起スニアレハ斯ノ如キ害ヲ用ユルヲ許サヽルニアリトス

第九十五條　裁判所書記ハ訊問及ヒ供述ヲ錄取シ被告人ニ之ヲ讀聞カス可シ

豫審判事ハ被告人ニ其供述ノ相違ナキヤ否ヤヲ問ヒ署名捺印セシム可シ若シ署名捺印スルコト能ハサル片ハ其旨ヲ附記ス可シ

○訊問及ヒ供述ヲ錄取スルハ判事ハ如何ナル問ヲ發シテ被告人ハ如何ニ答ヘシタルヤ又被告人ハ一旦口外セシヿヲ後日變更スルヿナキヲ保セサレハ之ヲ確ムルカ爲メナルトノ必要上ヨリスルナリ其讀聞カスハ問答ニ付キ相違ナキヤ否ヲ供述セシムルカ爲メナリ而シテ何レニモセヨ署名捺印セシメ認メシム若シ能ハサルトキハ其旨ヲ附記スヘシ

第九十六條　被告人其供述ニ付キ變更增減ス可キコトヲ申立タルトキハ更ニ訊問ヲ爲シ其訊問及ヒ供述ヲ錄取シ之ヲ讀聞カセ署名捺印ス可シ

○前條ニ於テ供述ニ付キ相違ノ件アリテ之ヲ變更シ又ハ言ヒ過キ若クハ不足アルトキニ其旨ヲ申立テタルトキハ更ニ其廉々ヲ訊問シテ供述セシメ之ヲ錄取スルモ

○變更トハカユルヿヲ云フ○增減トハ前ニ言ヒシコトニ付テ之ヲ增シ又ハ減スヿヲ云フ

ノトス其更ニ錄取ヲナサル前ノ分ニ訂正ヲ加ヘサルハ前後供述ノ模樣ヲ知ラシメンカ爲メトス其讀聞カセ署名捺印スルヿハ前條ノ如シ其第二項ニ依ルモノトス

第九十七條　被告人ハ供述書ノ謄本ヲ求ムルコトヲ得

○供述ノ謄本ヲ求メシムルハ辯護ノ材料ヲ作ルニアリ卽チ一度供述セシコトアルモ忘ルヽコトアレハ之レカ謄本ヲ求ムルコトヲ得セシメ須臾ニモ寃罪ニ陷ラサラシヿヲ欲スルニアルノミ

第九十八條　豫審判事ハ被告人ノ共犯ナルコトノ人違ナキヿ其他事實ヲ發見ス可キ一切ノ模樣ヲ證スル爲メ必要ナリトスルトキハ被告人ト他ノ被告人、證人又ハ其他ノ者ト對質セシムルヿヲ得

○對質卽チ對決ヲ爲サシムルハ實ニ豫審上利益多シ其重モナルモノハ共犯ナルヿ人違ナキヿニシテ其他事實上一切ヲ發見スルヿニ必要ナリトス彼ノ犯罪當時ノ模樣及ヒ爲メニ酌量スヘキ事情等ヲ知ルヿアル可シ而シテ對決ハ被告人ト被害者トノミナラス被告人ト他ノ被告人ト又ハ證人ト被告人ト又ハ親族ト被告人ト其他

○階本トハ寫シヲ云フ

○須臾トハ「シバラクモ」ト云フナリ

○共犯トハ共ニ罪ヲ犯シタルヲ云フ○對質トハ相對シテ訊問シ之ニ答辯セシムルヲ云フ

其何人ヲ論セス事實上ノ關係ヲ有スル人々ハ對決セシムルコトヲ得ヘシ

第九十九條　書記ハ對質人ノ供述及ヒ對質ニ因リ生スル一切ノ事件ヲ錄取シ對質人ニ其對質ニ關スル部分ヲ讀聞カス可シ

第九十五條第九十六條ノ規定ハ對質ニ付テモ亦之ヲ適用ス

○豫審訊問ヲ記載シ之ヲ讀ミ聞カスハ第九十五條ノ主意ニ同シ故ニ同條及ヒ第九十六條ヲ適用ストアリテ之ヲ表示スヘキ部分ハ對質ニ關スルモノノミナリトハ蓋シ豫審ハ秘密ニ係ルヲ以テ他ノ部分ヲ讀ムノ必要ナク又之ニ關係ナケレハ讀ミ聞カサストモ敢テ利害ニ關セサレハナリ故ニ其對質ニ係ル部分ノミヲ讀ミ聞カスニアリトス

第百條　被告人又ハ對質人聾ナルトキハ書面ヲ以テ問ヒ啞ナルトキハ書面ヲ以テ答ヘシム若シ聾者、啞者文字ヲ知ラサルトキハ通事ヲ命ス可シ

被告人又ハ對質人國語ニ通セサルトキ亦同シ

○聾トハ「ツンボ」ナリ口ハ言ヘトモ耳カ聽ヘサルモノナリ○啞トハ「ナシ」ニシテ耳ハ聽ク能

ハス口ニテ言フコト能ハサルモノヲ云フ

○聾唖者ハ耳聽ク能ハス口言フ能ハサルモノナレハ書面ヲ以テ問ヒ書面ヲ以テ答ヘサレハ他ノ方法ナシ而シテ其筆問筆答ヲ爲サシムモ文字ヲ知ラサルモノアルヘシ其時ハ通事ヲ命シテ通事セシム其通事タル何人ヲ限ラサレ𪜈多ク常ニ彼等ノ傍ニアリテ交際セルモノヲ以テセサルヘカラス假令ハ夫婦兄弟親子ノ如ク雇人ノ如シ故ニ未成年者其他ノ無能力者タルヲ論セサルナリ又日本國語ヲ通セサルトキ例ヘハ外國人ナルカ又ハ久シク外國ニ在テ日本語ヲ忘レタルモノナル等ノ時モ亦通事ヲ用ユヘシ之レ便且利アルノミナラス到底事實ヲ發見スル「能ハサレハナリ

○正實トハ正直ニ眞實ニト云フ意ナリ○宣誓トハ「チカヒ」ナリ

第百一條　通事ハ正實ニ通譯ス可キ宣誓ヲ爲ス可シ

書記ハ通事ニ調書ヲ讀聞カセ之ニ署名捺印セシム可シ

第百三十六條第百三十七條第百四十一條ノ規定ハ本條ニモ亦之ヲ適用ス

○通事ヲシテ責任アラシメンカ爲メニ宣誓ヲ爲サシメ且調書ニ署名捺印セシムルモノトス尙ホ第百三十六條第百三十七條第百四十一條ノ規定ハ本條ノ通事ニモ適

○犯所トハ其罪ヲ犯シタル場所ニシテ人ヲ殺セハ其人ヲ切リタル所ナリ○其他ノ場所トハ盜賊カ贓物ヲ分配セシ所又ハ被害者カ逃ケテ其所ニ隱レタリト云フ所等ヲ云フ

用シ罰金ノ刑ヲ言渡サレ又出頭セシトキハ旅費日當ヲ求ムル權ヲ有ス

第五節　檢證、搜索及ヒ物件差押

第百二條　豫審判事ハ事實發見ノ爲メ必要ナリトスルトキハ犯所又ハ其他ノ場所ニ臨ミ檢證ヲ爲ス可シ

○臨檢即チ犯所又ハ其他ノ場所ニ臨ミ檢證ヲ爲スハ事實發見上大ニ必要アルモノナリ例ヘハ殺人犯ノ時ニ於ケル殺シタル場所又ハ被害者カ倒レタル場所又ハ血痕ノアル場所ノ如キ又竊盜犯ノ足跡又ハ被害者ノ家宅ノ如キ實ニ其犯罪事實ヲシテ確ムルニ於テ必要ナルモノトス之レ本條事實發見ノ爲メ必要ナルトスルトキハ犯所又ハ其他ノ場所ニ臨ミ檢證スルヿヲ得ヘシ

第百三條　豫審判事ハ犯罪ノ性質、方法、日時、場所及ヒ被告人ノ人違ナキコトヲ證明ス可キ模樣ニ付キ調書ヲ作ル可シ

又被告人ノ利益ト爲ル可キ模樣ヲモ記載ス可シ

○檢證調書ニ記載スル要件ヲ列記シタリ即チ犯罪ノ性質例ヘハ故殺ナリシヤ謀殺

ナリシヤ强盜カ竊盜カノ類又方法例ヘハ刀ヲ以テセシカ棍棒ナリシカ牆壁ヲ踰越セシカ又ハ切破リシカ日時例ヘハ夜カ晝カ場所例ヘハ公開所カ人家カ社祠寺院カ其他被告人ノ人迹ナキカ等一ニ犯罪上必要ナル諸般ノ據樣ヲ記載スヘシ又之ヲ記載スルト同時ニ被告人ノ利益トナルヘキ據樣ヲモ記スヘシ例ヘハ殺シタルハ正當防衛カ又ハ過失殺カ其他酌量スヘキ事情アルカ等是レナリ

第百四條　豫審判事ハ被告人ノ住居又ハ事實ヲ證明スヘキ物件ヲ藏匿スル疑アル者ノ住居ニ臨檢シ搜索ヲ爲スコトヲ得

被告人又ハ物件ヲ藏匿スル者其住居ニ在ラサルトキハ同居ノ親屬若シ其在ラサルトキハ市町村長ノ立會アルヲ要ス

第七十八條第三項ノ規定ハ本條ニモ亦之ヲ適用ス

○人ノ住居ハ漫リニ侵スヘカラサルハ憲法第二十五條ニ於テ證明セラレタリ而シテ又公益上ノ爲メニハ人民ノ私權ハ屈セサルヘカラス故ニ同條ニ例外ヲ設ケ法律上定メタル場合ハ除クトセリ即チ本條ハ例外ヲ示スヿレ主人ノ許諾ナクシテ住居

○住居トハ「スマヰ」ナリ
○藏匿トハ「カクス」ナリ
○搜索トハ「サガス」ナリ
○許諾トハ「ユルシ」ナリ
○藏匿トハ「カクス」ヲ云フ
○搜索トハ「サガス」ヲ云フ

ヲ搜索ス蓋シ然ラサレハ司法權ヲ實行スルヿ能ハサレハナリ而シテ主人ノ在ラサルトキハ立會人ヲ立テ以テ漫リニ判事カ搜索ヲ爲スヲ防クヿレ一方ニ私權ヲ保護スルニ外ナラス其第七十八條第三項ヲ適用スルハ至當ニシテ搜索上必要ナリトス

第百五條　豫審判事ハ被告人又ハ事實ヲ證明ス可キ物件ヲ藏匿スル疑アル者ノ身体及ヒ之ニ屬スル物件ニ就キ搜索ヲ爲スコトヲ得

○藏匿ヲ爲スハ人家ノミニ限ラス被告人又ハ他人ニ於テモ亦身体及ヒ手荷物カハソ衣服等ニ付キ爲スコトアリ彼ノ盜賊ノ金圓ヲ衣服ノ中ニ藏メ女ノ如キハ陰門中ニ贓物ヲ匿シタル例古來間々アリシヲ耳ニス之レ前條家宅ノミナラス身体及ヒ附屬物ニ付テモ搜索ヲ爲ス權ヲ有スルヿヲ示シ完全タラシム

第百六條　豫審判事ノ臨檢、搜索ニ因リ發見シタル物件其事實ヲ證明スルニ足ル可シト思料シタルトキハ之ヲ差押ヘテ認印ヲ爲シ目錄ヲ作ル可シ但其物件ヲ監護シ又ハ遞送スルハ裁判所書記

○認印トハ或ハ封印ヲ施スノ類ナリ○監護トハ他ヘ移攜シ又ハ消滅

セサルヲ防ク爲メ看守スルヲ云フ○遞送トハ裁判所又ハ警察署等ヘ送付スルヲ云フ

○場所トハ犯所又ハ住居ノ如シ○周圍トハ「メグリ」「グルリ」ナリ○散逸トハ「チラバル」ヲ云フ

之ヲ擔任ス可シ

○第百二條ノ如ク犯所又ハ其他ノ場所ニ檢證ヲナシ第百四條ノ如ク住居ニ監檢搜索シ第百五條ノ如ク搜索ヲ爲シタル時ニ於テ其發見物カ犯罪事實ヲ證明スルニ足ルモノト思料セハ之ヲ差押フヘシ之レ證憑集取スルニアレハナリ其物件ヲ監護シ又ハ遞送スルハ書記之ヲ擔任シ或ハ監守ヲ付シ或ハ人足ヲ傭フ等臨機ノ處分ヲ爲スモノトス

第百七條　豫審判事ハ臨檢、搜索、物件差押ニ付キ其日ニ處分ヲ終フサルトキハ場所ノ周圍ヲ閉鎖シ又ハ看守者ヲ置クコトヲ得

○臨檢搜索又ハ物件差押ニ付キ其日ニ處分ヲ終ラサルトキハ散逸ヲ防カンカ爲メ場所ノ周圍ヲ閉鎖シ又ハ看守者ヲ置キ嚴重ニ爲スニアリ若シ然ラストセハ證據ハ湮滅シ爲メニ事實ヲ發見スルヲ得サルニ至ルヘシ尤トモ臨檢搜索又ハ差押ノ如キハ事急ニ爲シ以テ散逸ヲ防クニアレトモ時ニ其場所ノ廣大ナル又ハ鑑定醫師等ヲ要スルカ爲メ其日ニ取調ヲ終ヘサルヲアルヲ以テ夫レカ爲メニ本條ヲ設ケタル

ニ外ナラサルモノトス

第百八條　被告人ハ臨檢、搜索、物件差押ノ處分ニ立會ヒ又ハ代人ヲシテ立會ハシムルコトヲ得

若シ被告人勾留ヲ受ケタルトキハ自ラ立會フコトヲ得ス但豫審判事本人ノ立會ヲ必要ナリトスルトキハ此限ニ在ラス

○自己ノ權利ヲ保護スル爲メニハ本條第一項ヲ以テ必要ナリトス即チ處分ニ於テハ公益上豫審判事ニ於テ爲スト雖モ其處分ヲ受クルハ私權上ニ立入ラルヽニアレハ己レノ權利ヲ全フシ豫審判事ノ不公平偏頗ノ處置アランヲ見ルニ外ナラス之レ立會フコトヲ得ヘシ尤トモ得ヘシトノ意義ナレハ此權ヲ拋棄シ立會ハサルモ自由ナリ然レトモ立會フヿハ權利ナリトシ何人ニテモ施スコトヲ得ス即チ身拘留セラルルニ於テハ自身自ラ立會フコトヲ許サス之レ勾留ノ主意ニ反スルノミナラス名ヲ托シテ逃走スルノ恐レアリ證據湮滅ノ患ヒアレハナリ故ニ第二項ヲ設ケタリ尤トモ或ヒハ本人ナシテ自己ノ所有者ナリヤ否ヤ又ハ場所ノ相當セルヤ否ヤ又ハ

○自己トハ自身ヲ云フ

事ニ依リ辯明セシムルヿヲ要スルトキ等ハ判事ニ於テ同行スルヿヲ得ヘシ之レ處置上必要ナル例外ナリトス

○辯解トハ其品ハ何故ニ犯所ニアリシヤ又ハ何地ヨリ來リシヤ等ノ類ヲ供述セシムルコトアリ○偏頗トハ片手打ヲヲ爲スヲ云フ

第百九條　豫審判事ハ被告人物件差押ノ處分ニ立會ヒタルト否トヲ問ハス其物件ヲ被告人ニ示シ辯解ヲ爲サシム可シ

其訊問及ヒ供述ハ之ヲ調書ニ記載ス可シ

○辯解セシムルハ被告人ヲシテ辯護權ヲ履行セシムルニ外ナラス若シモ判事ニ於テ一己獨斷別ニ辯解セシムル等ナキトキハ辯護權ヲ壓制スルノミナラス終ニ偏頗ノ處置ヲ施スニ至ルヘケレハナリ

第百十條　豫審判事ハ監檢、搜索ノ場所ニ於テ證人ノ供述ヲ聽クコトヲ必要ナリトスルトキハ第百十五條以下ノ規定ニ從ヒ之ヲ訊問ス可シ

○其場所ニ於テ證人ヲ訊問スルヿノ必要アルヘシ此時ニ於テ判事ヲシテ適用セシムルニアリトス而シテ證人トアルヲ以テ第百二十三條第百二十四條ノ如キ事實參

考人トシテハ訊問スルコトヲ得サルガ如キノ感ナキニアラサルモ本條ニ第百十五條ノ規定ニ從ヒトアルノミナラス證人トシテサヘ訊問スルヿヲ得ヘキニ何ソ事實參考人トシテ訊問スルヿヲ得サルノ理アランヤ故ニ事實參考人トシテモ供述ヲ聽クコトヲ得ヘキモノトス

第百十一條　豫審判事ハ前數條ニ記載シタル處分中何人ニ限ラス允許ヲ得スシテ其場所ニ出入スルコトヲ禁スルヲ得

若シ其禁ヲ犯ス者アルトキハ之ヲ逐斥シ又ハ處分ヲ終ルマテ之ヲ留置スルコトヲ得

○本條ノ制限アルハ犯人ノ逃走ヲ恐レ及ヒ證據湮滅ヲ患フルヨリ生シタルニ外ナラス又一方ヨリ云ヘハ豫審ハ常ニ秘密ナルモ自由ニ出入セシムルトキハ却テ公ニ爲スカ如シ以上何レヨリスルモ本條ノ必要アリトス

第百十二條　豫審判事ハ其管轄地內ト雖モ時宜ニ因リ臨檢、搜索、物件差押ノ事ヲ區裁判所判事ニ囑託スルコトヲ得

○允許トハ許シヲ云フ

○禁スルトハ出入スルヿヲ差止メルヲ云フ○逐斥トハ逐ヒ出スナリ

○時宜トハ其時ト場合トニ依リト云フ意

ナリ○場合トハ假令ハ豫審判事一人ニシテ他出スルヿ出來サル時ノ如キ類ナリ

○諸會社トハ日本郵船會社通運會社又ハ銀行ノ如キモノヲ云フ○豫審事件ニ關係アル者トハ事實參考人證人民事擔當人等ノ如シ○開披トハ開ケ披ラシヲ云フ

○豫審判事ノ管轄ハ地方裁判所ノ管轄ト同一ナレハ其中ニ區裁判所ノアルヿ勿論ナリ而シテ判事ハ管轄内ハ自ラ處分ヲ爲サヽルヘカラサルモ場合ニ依リ支障アリテ自ラ爲スヿヲ得サルヿアリ故ニ其時ハ裁判所構成法第百三十一條ノ意ニ從ヒ區裁判所ニ囑托スルヿヲ得ヘシ

第百十三條　豫審判事ハ事實發見ノ爲メ必要ナリトスルトキハ驛遞、電信、鐵道ノ官署、諸會社ニ其事由ヲ通知シ被告人又ハ豫審事件ニ關係アル者ヨリ發シ若クハ此等ノ者ニ對シ發シタル書類、電報又ハ物件ヲ受取開披スルヿヲ得但受取證書ヲ渡ス可シ

○信書ナリ所有權ハ決シテ侵スヿヲ得サルハ憲法第二十六條第二十七條ノ定ムル所ナレトモ公益ノ爲メ社會ノ秩序ヲ保持スル爲メニハ此私權ハ一歩ヲ讓ラサルヘカラス之レ本條ノ規定アル所以ナリ即チ通謀スル信書又ハ犯罪ニ用サル物件ノ遞送等ヲ差押ユルカ如シ又受取證書ヲ渡スハ官署會社ヲシテ差出入受取人ニ對シ責任ヲ免カシムルカ爲メニ外ナラストス

○證言ヲ拒ムヿヲ得ル者トハ第百二十五條列記ノ人々ナリ○默秘トハ「ダマリカシス」事ヲ云フ

第百十四條　證言ヲ拒ムコトヲ得ル者ノ所持スル物件ニシテ其默秘ス可キ義務アル事情ニ關スルモノハ其承諾アルニ非サレハ之ヲ差押ヘ及ヒ開披スルコトヲ得ス

○證言ヲ拒ムコトヲ得ル者ノ所持スル物件中其默秘スヘキ義務アル事情ニ關スルモノハ承諾ナシシテ差押及ヒ開披スルヿヲ許サヽルハ蓋シ彼等ノ職業又ハ身分ヲシテ他ヨリ私ニ干渉セシメサルニ外ナラス若シモ之ニ反スルトキハ弊害百出シ社會ノ信用ヲ得スシテ世ニ立ツコトナキニ至ルヘシ今日其職業ヲ許シ身分ヲ付與スルモノトセハ其者等ノ行爲ヲシテ漫リニ破ラサルヲ冀シトス右ノ理由ヨリシテ承諾ナク物件ヲ差押ヘ開披スルヿヲ得サラシムルニアリトス

第六節　證人訊問

第百十五條　證人ノ呼出狀ニハ其氏名、住所及ヒ職業ヲ記載ス可シ

又出頭ノ日時、場所及ヒ呼出ニ應セサルトキハ罰金ヲ言渡シ且

勾引スルコトアル可キ旨ヲ記載ス可シ

呼出狀ノ送達ト出頭トノ間少クトモ二十四時ノ猶豫アル可シ

○證人ヲ呼出スハ證人タル人及ヒ住所職業ヲ記シ以テ人違ヒナカラシメ第二項ノ如ク記シ以テ出頭ノ日時場所ヲ知ラシメ又法律ニ依リ罰セラレ勾引セラルヽコトヲ注意セリ第三項ノ猶豫ハ其準備ノ爲メ又ハ一時不在等アルカ爲メニシテ二十四時ハ其送達ヲ受ケタルヨリ起算シテ以テ證人ノ爲メニ利益ヲ與フ尤トモ其起算ニ付テハ明文ナキモ證人ノ爲メ與ヘタル猶豫ナレハ又證人ノ利益ニ解セサルヘカラス若シ然ラサレハ遠方ヨリ呼出スヽキハ途中ニテ時間ノ經過スルヿアレハナリ

○正當ノ事故トハ例ヘハ父母病氣ニシテ他ニ看病スルモノ一人モナキ時ノ如キ又ハ生來不具者ニテ步行シ能ハサルモノヽ如キ又ハ流行病ニテ交通遮斷セラレ居ルカ如キ類ナリ

第百十六條　證人疾病其他正當ノ事故ニ因リ呼出ニ應スル能ハサルコトヲ疏明シタルトキハ豫審判事其所在ニ就テ之ヲ訊問ス可シ

○證人ハ事實見聞シタル事柄ヲ眞實ニ供述スルニ外ナラサレハ他人ナシテ代理ニ出頭セシムル能ハサルモノトス何ントナレハ其場所ニ在ラスシテ出來事ヲ供述スルヿヲ得サルハ勿論假令證人タル本人ヨリ詳悉ニ聞取リ來ルトスルモ其間齟齬ヲ來シ矛盾スル場合アレハ到底眞實ノ供述ヲ得ルヿヲ得ス故ニ疾病其他事故ニ因リ呼出ニ應シ出頭スルヿ能ハサルモノハ豫審判事出張シテ訊問セサルヘカラス

○職務上已ムヲ得サルトキハ行軍演習等ノ類ナリ

第百十七條　證人ト爲ル可キ者豫備、後備ノ軍籍ニ在ラサル軍人、軍屬ナルトキハ其所屬ノ長官又ハ隊長ヲ經由シテ呼出狀ヲ送達ス其長官又ハ隊長ハ即時ニ出頭セシム可キコトヲ認可シ又ハ職務上已ムコトヲ得サル差支アルトキハ其事由ヲ付シテ出頭ノ延期ヲ豫審判事ニ請求ス可シ

○軍人軍屬ハ軍紀ノ下ニ在リテ漫リニ他ヨリ左右セラルルコトナシ之レヲ自由ニセシムルトキハ威嚴ヲ害シ軍隊整頓上ヲ紊亂スルニアレハ其呼出狀ハ長官隊長ヲ經テ送達シ證人タル人モ亦認可ヲ得サルヘカラス若シ已ムヿヲ得サルトキハ長官又ハ隊長ヨリ事由ヲ付シテ判事ニ延期ヲ求メ判事モ之ニ從ヒ相當ノ延期ヲ爲スニアリ

○賠償トハ「アガナヒ」ニシテ假令ハ證人ノ不參セシカ爲メ被告人民事擔當人ノ取調ヲ爲サスシテ空シク退廷セシメタルカ爲メノ日當ノ類ナリ○抗告トハ上訴ノ一ニシテ第二百九十三條以下ニアリ○囑託トハ照會シテ賴ムヲ云フ

第百十八條　豫審判事ハ前二條ニ定メタル差支ノ場合ヲ除ク外證人呼出ニ應セサルトキハ檢事ノ意見ヲ聽キ其不參ニ因リ生シタル費用ノ賠償及ヒ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ言渡ス可シ但其決定ニ對シテハ抗告ヲ爲スコトヲ得此抗告ハ執行ヲ停止スル効力ヲ有ス

豫審判事ハ其證人ニ對シ罰金ノ言渡書ト共ニ再度ノ呼出狀ヲ送達シ又ハ直チニ勾引狀ヲ發スルコトヲ得

若シ證人再度ノ呼出ニ應セサルトキハ費用賠償ノ外二倍ノ罰金ヲ言渡ス可シ又勾引狀ヲ發スルコトヲ得

豫備、後備ノ軍籍ニ在ラサル軍人、軍屬ニ對スル罰金ノ言渡及ヒ執行ハ軍事裁判所又ハ所屬ノ長官又ハ隊長ニ囑託シテ之ヲ爲ス可シ其勾引ニ付テモ亦同シ

○本條ハ證人タル義務ヲ制裁スルモノニシテ義務ヲ盡ササルトキハ本條ノ制裁法ヲ施スニアリ蓋シ證人トシテ供述スルハ國民ノ義務ナリ之ヲ盡ササル何ソ其儘ニ爲シ置ク可ケンヤ然ラストセハ常ニ證人ノ義務ハ之ヲ盡サヽルモ如何トモスル能ハスシテ證人ノ法律ハ徒法ト爲ルニ至ルヘシ○呼出ニ應セサルトキハ更ニ呼出シ又ハ勾引シ尙ホ出頭セサルトキハ其情以前ニ倍スレハ第三項ノアル所以タリ○又第四項ノ如キハ第百十七條ノ主意ト同一ナレハ先方ニ囑託シテ爲スニアリトス

第百十九條　豫審判事ハ證人罰金言渡書ノ送達アリタルヨリ三日內ニ其出頭セサリシコトヲ正當ノ理由ヲ以テ辯解シタルトキハ檢事ノ意見ヲ聽キ其罰金及ヒ賠償ノ決定ヲ取消ス可シ

○他ノ刑罰ハ之ヲ取消スコトヲ得スシテ必ラス上訴ノ方法ニ依ラサルヘカラサレトモ不參ノ罰金ハ之レカ例外ニシテ正當ノ辯解ヲ爲ストキハ取消サルモノトス之レ一ノ取締處分ニ過キサレハナリ而シテ其辯解ノ正當ト否トハ豫審判事ノ意見ニアレハ豫メ解說スルヿヲ得ス

第百二十條　證人呼出狀ニ因リ出頭シタルトキハ其呼出狀ヲ差出

○辯解シトハ言ヒ譯ケヲ爲スナリ

○遺失トハ失ヒ又ハ落シ又ハ忘レタル等ヲ云フ○疏明トハ眞實ナリト思料セシムル方法ヲ云フ

ス可シ若シ之ヲ遺失シタルトキハ其人違ナキコトヲ疏明ス可シ

○呼出狀ヲ差出スハ其人違ヒニアラサルヤヲ證明スルコアリ故ニ呼出狀ナキトキハ證人トシテ呼出サレタル者ナリトノ疏明ヲ爲ササルヘカラス

第百二十一條　豫審判事ハ證人トシテ呼出シタル者ニ對シ其氏名、年齡、職業、住所及ヒ第百二十三條ニ記載シタル者ナリヤ否ヤヲ問フ可シ

○徒勞トハ「ムダ」ト云フコナリ

○本條モ亦人違ヒコアラサルヤヲ確ムルカ爲メノ手續ナリ而シテ第百二十三條ノ各號ヲ問フハ證人トシテ訊問スルヿヲ許サヽルモノナレハナリ若シ然ラサレハ後ニ至リ發見シ訊問セシ事捫カ終ニ徒勞トナルノ恐レアレハ豫メ訊問スルコアリ其

第百二十四條ノ各號ノ如キハ別ニ訊問ヲ要セスシテ自ラ發見スルモノナレハ本條別ニ其事ヲ揭クルノ要ナシトス

第百二十二條　豫審判事ハ證人ヲシテ良心ニ從ヒ眞實ヲ述ヘ何事ヲモ默秘セス又何事ヲモ附加セサル旨ヲ宣誓セシム可シ

○眞實トハ眞正實直卽チ「マツスグ」ニ有体ヲ云フヲ云フ○默祕トハ「カクス」「ダマル」ヲ云フ○附加トハ餘計ニ「シヤベル」ヲ云フ○宣誓トハ「チカヒ」「ヤクソク」ナリ○虛言トハ「ウソ」ナリ

○供述トハ申立ニシテ陳述ト云フモ同シ○姻族トハ嫁入先キノ親族ナリ卽チ妻ノ父母兄弟姉妹ノ如シ○解除トハ夫婦ノ關係カ解ケタルモノニシテ離婚又ハ死亡ノ如シ

裁判所書記ハ證人ニ宣誓書ヲ讀聞カセ之ニ署名捺印セシム若シ署名捺印スルコト能ハサルトキハ其旨ヲ附記ス可シ

○證人ヲシテ宣誓セシムルハ供述ヲシテ鄭重ナルコトヲ知ラシメ且虛言及ヒ默秘ヲ防クコアリ故ニ之レカ制裁ヲ設ケ第百二十六條ノ如ク罰ス之レ宣誓ナシテ徒法ナラシメサルニ外ナラス而シテ宣誓書ハ之ヲ讀聞カセ署名捺印セシメ又ハ附記シテ承諾シタルヿヲ證ス可シ之レ後日ニ於ケル證左ト爲スニアリ

第百二十三條　左ニ記載シタル者ハ證人ト爲ルコトヲ許サス但宣誓ヲ爲サシメスシテ事實參考ノ爲メ其供述ヲ聽クコトヲ得

第一　民事原告人

第二　民事原告人及ヒ被告人ノ親屬但姻族ニ付テハ婚姻ノ解除シタルトキト雖モ亦同シ

第三　民事原告人及ヒ被告人ノ後見人又ハ此等ノ者ノ後見ヲ受クル者

第四　民事原告人及ヒ被告人ノ雇人又ハ同居人

○本條ハ證人ト事實參考人トノ區別ヲ載セタリ即チ一ハ宣誓ヲ爲サシメ一ハ宣誓ヲ爲サシメサルニアリトス而シテ此區別アルハ只判事ノ心證ヲ動スニ强弱アルノミ蓋シ事實參考人トシテ訊問セシ供述ハ被告人民事原告人ニ緣故アルモノナレハ爲メニ判事ノ心證ヲ動カスヿ弱ク一ハ別ニ緣故ナケレハ從テ虛言ヲ搆ヘ眞實ヲ隱蔽スヘキ理ナシ之レ自己ニ利害ノ及ホサヽル点ヨリスルモ明瞭ナレハ判事ノ心證ヲ動カスヿ强キモノトス以上此兩差異ノ生スル要點タリ○第一ハ自己ノミ利益ヲ得ント謀ルヲ以テナリ第二乃至第四ノ如キ皆緣故アリテ利害ノ爲メニ眞實ヲ曲クルノ恐レアレハ以テ證人トスル價値ナケレハナリ

第百二十四條　左ニ記載シタル者亦前條ニ同シ

第一　十六歲未滿ノ幼者

第二　知覺精神ノ不十分ナル者

第三　瘖啞者

○知覺精神ノ不十分ナル者トハ馬鹿カ氣狂ヒノ類ナリ

第四　公權ヲ剝奪セラレ又ハ公權ヲ停止セラレタル者

第五　重罪事件又ハ重禁錮ノ刑ニ該ル可キ輕罪事件ニ付キ公判ニ付セラレタル者

第六　現ニ供述ヲ爲ス可キ事件ニ付キ曾テ訴ヲ受ケ其證憑十分ナラサルニ因リ免訴ノ言渡ヲ受ケタル者

○證人ノ證言ハ判事ノ心證ヲ左右シ被告事件ニ利害ヲ及ホスモノナレハ證人タルモノ其責任ノ大ナルヿヲ知ラサルヘカラス從テ之レカ責任ノ重大ナルヿヲ覺知シ且ツ詐僞ノ供述ヲシテ被告ニ害ヲ加フルヲ恬トシテ顧ミサルカ如キ廉耻ヲ知ラサル徒ヲシテ公義務ヲ負ハシムルニ忍ヒサルナリ本條第一號乃至第二號ノ未タ智識ノ十分ナラス從テ責任ノ如何ヲ知ラス依テ證人トシテ訊問スルコトヲ得ス又第四第五號ハ社會ニ信用ヲ失ヒタル人々ナレハ詐僞ノ供述ヲ爲スモ耻ヲ知ラサル徒ナリ第六號ハ再ヒ訴ヲ受クルヲ防クカ爲メ眞實ヲ供述セサルモノナリ以上六號ハ被告事件ニ付キ利害ノ及ホス大ナル人々ナレハ證人トシテ訊問セサルモノトス

○詐僞トハ「イツハリ」ナリ○廉耻トハ「ハヂ」ナリ

○公吏トハ市町村吏又ハ執達吏ノ如シ

○委託トハ頼ミナリ

第百二十五條　左ニ記載シタル場合ニ於テハ證言ヲ拒ムコトヲ得

第一　官吏、公吏又ハ官吏、公吏タリシ者其職務上默秘ス可キ義務アル事情ニ關スルトキ

第二　醫師、藥商、穩婆、辯護士、辯護人、公證人、神職、僧侶其身分、職業ノ爲メ委託ヲ受ケタルニ因テ知リタル事實ニシテ默秘スヘキモノニ關スルトキ

證言ヲ拒ム者ハ拒絶ノ原因タル事實ヲ開示シ且之ヲ疏明ス可シ

○本條ハ證人トシテ供述スヘキノ義務ヲ有スル人々ナレトモ其事柄ニ依リテ證言ヲ拒ム權利ヲ有セシム蓋シ其第一號ノ如キハ現在官吏公吏タルト否トヲ問ハス官吏公吏ヲ一旦務メタルモノハ其職務上默秘スヘキ義務アル事情例ヘハ外交官ノ外交事件ノ如キ電信官吏ノ符號暗號ノ如キ執達吏ノ委託セラレタル秘密事件等ハ之ヲ證言スル限リニアラサルヘシ之レ其職務上信用ヨリシテ此權ヲ與ヘタリ其第二號ノ如キハ職業上委託事件ニ因リ默秘スヘキ事實モ亦之ヲ供述スヘカラス之レ信

○認許トハ「ユルス」ヲ云フ

○濫用トハ無暗ニ申出ルヲ云フ

○肯セストハ宣誓スルヲ承知セヌト云フ意ナリ○執行トハ罰金ヲ取立ツルヲ云フ○軍事裁判所トハ軍法會議ヲ云フ

用シテ委託ナキニ至ルヘシ然レハ政府カ彼等ノ職業ヲ認許スルノ理ニ反セリ故ニ之レカ證言ヲ拒ムヿヲ許セリ然レトモ之レヲ濫用ノ弊ヲ防クカ爲メ原因タル事實ヲ開示シ且疏明セサルヘカラス然ラサレハ名ヲ假リテ以テ被告事件ニ利害ヲ及ホスコトアレハナリ

第百二十六條　證人宣誓ヲ肯セス又ハ宣誓シテ供述ヲ肯セサルトキハ豫審判事檢事ノ意見ヲ聽キ刑法第百八十條ニ從ヒ罰金ヲ言渡ス可シ但其決定ニ對シテハ抗告ヲ爲スコトヲ得此抗告ハ執行ヲ停止スル効力ヲ有ス

豫備、後備ノ軍籍ニ在ラサル軍人、軍屬ニ對スル罰金ノ言渡及ヒ執行ハ軍事裁判所ニ嘱託シテ之ヲ爲ス可シ

○證人ハ出頭スルノミナラス公ノ義務ハ足レリト云フヲ得ス必ラス宣誓ヲ爲シ事實ヲ証言セサルヘカラス故ニ其一方ヲ欠クトキハ之レカ制裁ヲ加ヘサレハ證人タルモノ皆證言ヲ避ケ公ノ義務ヲ盡サヽルニ至ルヘケレハ刑法第百八十條ヲ適用シ

處罰スルニアリトス此言渡ニ對シテハ抗告ヲ爲スヲ得セシムルハ一ノ手續ニ違背シタルカ爲メナレハ本案裁判上不服ノ如キ控訴上告ヲ爲スヲ得サルモノトス又抗告中ハ執行ヲ停止スルモノナリ蓋シ抗告ハ手續上ノ上訴ナレハ常ニ執行スルヲ以テ原則トセルカ故ニ故サラニ此文ヲ加ヘタリ○第二項ハ第百十七條及ヒ第百十八條末項ノ精神ヨリシテ規定シタルモノトス而シテ一ハ隊長長官ニ是ハ裁判所ニ囑託シ大ニ區別アルカ如キモ之レ一ハ手續上取締ニ屬シ一ハ刑法上ニ屬スルヲ以テ刑法ハ裁判所トアラサレハ科スルヿヲ得サルカ故ニ外ナラス

○證人トハ宣誓シタルモノヲ謂フ事實參考人モ亦ノミナラス包含スルモノトス

第百二十七條　証人ハ他ノ證人及ヒ被告人ト各別ニ之ヲ訊問ス可シ但事實發見ノ爲メ必要ナリトスルトキ證人ト他ノ證人又ハ被告人ト對質セシムルコトヲ得

○證人ヲ各別ニ訊問スルハ證人互ヒニ雷同シ又ハ互ヒニ相通シ又ハ多數ハ少數ノ人ヲ壓シ終ニ眞正ノ事實ヲ得ルヿヲ得サルヲ以テナリ殊ニ被告人ノ如キハ後日ノ怨ヲ恐レ又ハ愛ヲ加ヘ事實ヲ曲庇シ又ハ附加スルヿアルヤ知ルヘカラス然レトモ事實上發見ノ爲メ必要ナル片例ヘハ證人互ヒノ供述カ齟齬シ被告人ノ供述ニ違背セル等ノ場合ニ於テハ第九十八條ノ精神ヲ如ク對質ヲ試ムルヿアルヘキ勿論トス

○齟齬トハ互ヒニ申立カ異ナルヲ云フ

第百二十八條　豫審判事ハ證人ノ供述ヲ確實ナラシムル爲メ必要ナリトスルトキハ犯所又ハ其他ノ場所ニ同行スルコトヲ得若シ證人同行スルコトヲ肯セサルトキハ第百十八條ノ規定ニ從フ

○本條ハ事實ヲ確ムルカ爲メニ必要ナル規定トス即チ口頭上ニテ判然セサル場合甚タ多ケレハナリ判事ハ第百二條以下ノ規定ニ從ヒ訊問ヲナス可シ○證人ノ同行ヲ爲サヽルハ恰モ呼出ニ應セサルト一般ナレハ第百十八條ノ不參者ト同一ノ處置ヲ爲スモノトス

第百二十九條　第百條第百一條ノ規定ハ證人ニ付テモ亦之ヲ適用ス

○別ニ解スル所ナシ只第百條第百一條ヲ再讀セヨ

○就中トハ判事カ出張シテ訊問ヲ爲シ決シテ裁判所ニ召喚スルヿヲ得サルヿヲ云フ
○地ニ於テトハ判事ハ出張セスシテ所在地ノ裁判所ニ呼出シ訊問シ只事件ノアル裁判所ヘ召喚セサルルノミナリ

第百三十條　皇族證人ナルトキハ豫審判事其所在ニ就キ訊問ヲ爲ス可シ

各大臣ニ付テハ其官廳ノ所在地ニ於テ之ヲ訊問ス若シ其所在地外ニ滯在スルトキハ其現在地ニ於テ之ヲ訊問ス可シ

帝國議會ノ議員ニ付テハ開會期間ニ其議會ノ所在地ニ滯在中ハ其所在地ニ於テ之ヲ訊問ス可シ

○證人訊問ハ必ラス裁判所ニ呼出シテ爲スヿヲ原則トスルモ本條ハ之カ特例ヲ示シタリ元來皇族ハ　天皇陛下ノ御監督遊ハサルル所ニシテ普通臣民トハ異ナルモノナリ即チ天皇陛下ノ御近親タリ故ニ敬禮ヲ表サヽルヘカラス況ンヤ憲法上皇族ハ漫リニ裁判所ニ召喚スルヿヲ得サルハ原則タレハナリ斯ク如キ御身柄ナレハ判事ハ其御邸ニ伺候シ御訊問申上奉ルモノトス○各大臣ハ國家ノ政事ヲ預リ居ルモノナレハ大政ノ地ヲ一日モ距ルヿヲ得ス故ニ其所在地即チ東京裁判所ニ於テ召喚シテ訊問シ若シ東京ニ在ラスシテ大阪又ハ西京ヘ出張中ナレハ大阪又ハ京都ノ裁

判所ニ召喚シテ訊問スルニアリトス○議員ニ於テハ人民ノ代議士ト爲リテ立法ノ大權ニ參與シ重要ノ職タリ故ニ一日モ之ヲ奪フヘカラス是亦大臣ト同シク所在地ニ於テ訊問スルモノトス然レトモ議員ノ參政ハ開會期間ノミナレハ本項ノ特例モ亦議會開期間ノミナリトス尤トモ假令期間中ニシテ東京ニ滯在セス賜暇又ハ其他事故ニ依リテ他ノ地ニアル片ハ普通證人ト同一ナレハ此特例ヲ受クルヿヲ得ス

第百三十一條　豫審判事ハ證人ニ其供述ノ相違ナキヤ否ヤヲ知ラシムル爲メ裁判所書記ヲシテ調書ヲ讀聞カセシム可シ

證人ハ其供述ヲ變更增減センコトヲ請求スルヲ得書記ハ其請求アリタルコト及ヒ變更增減ノ條件ヲ調書ニ記載ス可シ

調書ニハ豫審判事、書記及ヒ證人共ニ署名捺印ス可シ若シ證人署名捺印スルコト能ハサルトキハ其旨ヲ附記ス可シ

○證人ノ供述ヲ錄取シ之ヲ讀聞カスハ供述ト相違ナキカ否ヲ確ムル爲メナリ證人ニ於テハ供述セシ所ト相違アル片又ハ洩レタル所アル片ハ變更增減ヲ求ムヘク此

○供述トハ證人ノ述ヘタル事ヲ云フ
○條件トハ厳々ナリ

事モ亦調書ニ記載スルニアリ○以上調書ヲ確ムルカ爲メ後日ノ異議ヲ防ク爲メ訊問ニ關カリタル人々署名捺印スルニアリトス本條ハ第九十五條第九十六條ト同一ノ意ニ出テタレハ尙ホ參考ノ爲メ同條ヲ再讀ス可シ

○囑託トハ依頼スルニ外ナラス

第百三十二條　豫審判事ハ證人裁判所所在ノ地ニ住セサルトキハ其住居ノ地ノ區裁判所判事ニ訊問ノ事ヲ囑託スルコトヲ得若シ證人管轄地外ニ在ルトキハ其所在ノ地ノ豫審判事又ハ區裁判所判事ニ訊問ノ事ヲ囑託スルコトヲ得

○共助トハ互ヒニ事務ヲ助ケ合フモノニテ同法第百二十一條以下ニアリ

○證人ハ證言ヲ爲ス義務アルモ遠ク旅行シテ裁判所ニ出頭セシムルハ實ニ迷惑ニシテ甚タ不便ナリトス故ニ便法ヲ設ケ裁判所構成法共助ノ主旨ヲ以テ互ヒニ囑託スル手續ヲ定メタリ第一項ハ管轄内ニシテ假令ハ大坂地方裁判所ニ於テ池田ノモノヽ訊問ヲ要スルトキノ如キハ之ヲ池田區裁判所判事ニ之ヲ囑託スルカ如シ第二項ハ管轄外ニシテ假令ハ東京地方裁判所ニ於テ横濱ノモノヲ訊問セントスルトキノ如キハ之ヲ横濱地方裁判所ノ豫審判事ニ囑託スルノ類ナリトス

第百三十三條　第百十八條第百十九條及ヒ第百二十六條ニ掲ケタル證人ニ對スル豫審判事ノ權ハ受託判事ニモ屬ス

○前條ノ管轄地ノ内外ヲ問ハス受託判事ハ依託判事ト同一ノ職務ヲ行フニアレハ權利上別ニ異ナルヿナシ依テ本條ヲ設ケ權限ノ同一ナルヿヲ示セリ

第百三十四條　證人ハ出頭ニ付テノ旅費、日當ヲ要ムルコトヲ得

○旅費ハ一里金十錢八里以外ヨリ來レハ五十錢ノ止宿料アリ○日當ハ一度五十錢止宿料アルトキハ之ヲ給セス

○證人ハ出頭スルノ義務アルヲ以テ此義務ニ應シタレハ其爲メニ費ヤス所ノ費用ハ之ヲ拂ハサルヘカラス證人ハ公義務ノ外尙ホ費用負擔ノ義務アルヿナシ故ニ法律上定メタル旅費日當ヲ求ムルノ權利ヲ與ヘタルモノトス

第七節　鑑定

第百三十五條　豫審判事ハ犯罪ノ性質、方法及ヒ結果ヲ分明ナラシムル爲メ鑑定ヲ必要ナリトスルトキハ學術、職業ニ因リ鑑定スルコトヲ得ヘキ者一名又ハ數名ヲシテ鑑定ヲ爲サシム可シ

○性質トハ毒殺毆打故殺ノ如キモノヲ云フ○方法トハ殺スニ藥品又ハ刀劍又ハ棍棒ノ如キヲ用サタルカ如シ

鑑定ノ爲メ必要ナリトスルトキハ死体ノ解剖ヲ命シ又ハ既ニ埋

○鑑定

○結果トハ死シタルハ毒藥ノ爲メカ果タ他ノ原因カト云フ類ナリ○學術トハ化學醫學鑛物學ノ如シ○職業トハ醫師藥劑師ノ如シ○解剖トハ死体ヲ割キテ内部ヲ檢スルヲ云フ○檢視トハ掘出シテ視改ムルヲ云フ○墳墓トハ「ハカ」所ナリ○發掘トハ掘リ出スヲ云フ

葬シタル死体ヲ解剖シ若クハ檢視スル爲メ墳墓ノ發掘ヲ命スルコトヲ得

○豫審判事ハ學識經驗諸般ニ渉リテ敢テ劣ラサルニハアラサルモ專門ノ學術技藝ニ至リテハ亦一歩ヲ讓ラサルノミナラス敢テ見聞セサル事モアルヘシ然ルトキハ心證ヲ確ムル方法ヲ設ケサルトキハ徒ラニ法網ヲ免カレシムルヿモアルヘク又冤罪ニ陷ラシムルヿヲモアルヘシ之レ鑑定ヲ爲スノ必要ヲ生シタル所以ナルカ○以上ノ場合ニ於テハ其鑑定スヘキ性質ニ從ヒ夫々ノ學術職業ニ因リ一名又ハ數名ニ命シテ鑑定ヲ爲サシムルモノトス例ヘハ死人アリ果シテ病死カ又ハ毆打死カ毒殺死カヲ醫師ヲシテ鑑定セシメ又汚穢ノ衣類ヲ示シ血痕アルヤ否ヤ化學師ヲシテ鑑定セシムルカ如シ○最モ多クノ場合ハ其物カ眼前アル時ニ於テ必要ナルモ亦已ニ埋葬シタル死体ヲモ檢スルノ必要アル可シ又外形上ノミナラス毒殺ノ如キ死亡ノ原由ヲ搜索スルニ於テ死体解剖ノ必要アルヘシ之レ第二項ノアル所以ナリ

第百三十六條　鑑定ニ付テハ第百十五條乃至第百十八條ノ規定ヲ準用ス但鑑定人ニ對シテハ勾引狀ヲ發スルコトヲ得ス

○鑑定人ヲ呼出シ及ヒ之ニ應セサルトキノ制裁幷ニ其取消其他訊問手續鑑定人ト爲シ得ベキヤ否ヤノ關係等ハ證人ト同一ニシテ別ニ異ナルヿナシ但其異ナルハ勾引ヲ爲ス能ハサルノ一點ノミ蓋シ鑑定ハ其學術職業上學識經驗ニ依レル結果ニ從ヒ或物ヲ鑑査スルニアレハ其人ノ心ニ反スル場合又ハ其學術技能ノ及ハサルニ當リテモ强テ鑑定セシムルヿハ之レ爲シ能ハサルヿニシテ若シ强ユルカ時キ場合ニ在リテハ終ニ好結果ヲ得ルヿナキニ至ルヘシ殊ニ證人ト異ナリ人ヲ要スルニナクシテ學術技能ヲ要スルニアレハ他ノ人ヲシテ代ラシムル決シテ爲シ能ハサルモノニアラス依テ勾引狀ヲ發シ强テ出頭セシムルニ及ハサルモノト規定シタル所以ナリ

○强テトハ無理ニト云フ意ナリ

第百三十七條　鑑定人ハ公平且正實ニ鑑定ス可キ宣誓ヲ爲ス可シ

其宣誓ハ第百二十二條ノ式ニ從フ

○鑑定モ亦一ニ證據ト爲ルニアレハ證人ノ證言ト少シモ異ナルナシ依テ宣誓ヲ爲

○公平且正實トハ偏頗ナク私心ナク眞實正直ニト云フ意味ナリ

サシムルニアリ然ラサレハ鑑定人ハ無責任ト為リ證據トスルニ危險アレハナリ

第百三十八條　鑑定人宣誓ヲ肯セス又ハ宣誓シテ鑑定ヲ肯セサルトキハ豫審判事檢事ノ意見ヲ聽キ刑法第百七十九條ニ從ヒ罰金ヲ言渡ス可シ但其決定ニ對シテハ抗告ヲ為スコトヲ得此抗告ハ執行ヲ停止スル効力ヲ有ス

○第百二十六條ト同一ノ旨趣ニシテ鑑定人ヲ罰スルニ外ナラス只證人ニ對シテハ刑法第百八十條ヲ適用シ鑑定人ニ對シテハ刑法第百七十九條ヲ適用スルニアリ蓋シ其責任ハ同一ナレトモ刑法上明文ヲ二ケ條ニ分載セシヲ以テノ故ニシテ性質ニ於テハ共ニ公務ヲ行フヲ拒ム罪ニシテ即チ不行犯ニアリトス

第百三十九條　豫審判事ハ鑑定人ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ鑑定人ヲ增加シ又ハ別人ヲシテ鑑定セシムルコトヲ得

○鑑定人自ラ鑑定ノ困難ナルカ又ハ危ブムトキハ鑑定人ノ增加ヲ求メ又ハ自分ハ鑑定ヲ斷ハリ別人ニ鑑定セシメラレンコトヲ求ムルヲ得ヘシ之レ强テ鑑定ヲナシ

○肯セストハ宣誓ヲ爲サヌヲ云フ

○公務トハ公ケノ義務ナリ

○職權トハ判事ノ量見ナリ

為メニ危險ナル結果ヲ生スルトキハ反テ困難ヲ來スコトアレハナリ豫審判事ハ別ニ請求ナキモ自ラ困難ナリト察知セハ本條ノ處分ヲ為スコトヲ得ヘシ之レ勿論タリ

第百四十條　鑑定人ハ鑑定書ヲ作リ其手續、結果及ヒ鑑定ヲ為シタル時間ヲ詳記ス可シ

若シ結果ヲ得サルトキハ其推測スル所ヲ記載ス可シ

鑑定人意見ヲ異ニスルトキハ各自鑑定書ヲ作リ又ハ各自ノ意見ヲ一箇ノ鑑定書ニ記載ス可シ

○鑑定人ハ鑑定書ヲ作リ其鑑定ノ手續及ヒ結果其期間ヲ詳記ス之レ判事ナシテ必證ヲ採ルニ必要ナレハナリ其時間ノ如キハ鄭重ト否トニ付キ大ニ關係アルカ故ナリ○若シ結果ヲ得サルトキ例ヘハ死体ヲ解剖セントスルモ腐爛シタルカ如キ分拆スルモ徵候ナキカ如キ總テ被告人ノ利不利ニ關セス鑑定上分明ニ為サルヘカラサルモノヽ分明ナラサルトキハ只推測ノミヲ記載スヘシ之レ鑑定人モ確然記スルヿヲ得サレハナリ○鑑定ハ人々一個ノ意見ニ外ナラサレハ他ノモノヽ多數ニ依リ決

○手續トハ如何ニシテ解剖セシヤ又ハ毒物ヲ分拆セシヤト云フ類ナリ○結果トハ毒殺ノ徵候アリ又ハ毆打殺ノ徵候アリ夫ハ何々ナリト云フカ如シ

○確然トハ「シッカリ」ト云フ意味ナリ

○立替金トハ鑑定上用ヒタル器械藥品人夫等ノ費用ノ如シ

スルヿナシ故ニ意見ノ異ナルモノハ各自ニ鑑定書ヲ作ルカ又ハ別ニ其事ヲ記載スルカ孰レカ之ヲ爲シ以テ鑑定人各人ノ意見ヲ表白スルモノトス

第百四十一條　鑑定人ハ旅費、日當及ヒ立替金ノ辨濟ヲ要ムルコトヲ得

○第百三十四條ト同一ナリ只證人ト異ナルハ學術技能ニ依リ其身分ニ從ヒ日當ノ如キハ證人ヨリ多額ナルヿアルヘシ又立替金ノ如キハ證人ニナキモノトス

第八節　現行犯ノ豫審

第百四十二條　豫審判事ハ檢事ヨリ先ニ重罪又ハ地方裁判所ノ管轄ニ屬スル輕罪ノ現行犯アルコトヲ知リタル場合ニ於テ其事件急速ヲ要スルトキハ檢事ノ請求ヲ待タス直チニ其旨ヲ通知シ豫審ニ取掛ルコトヲ得

豫審判事ハ犯所ニ臨檢シ令狀ヲ發シ其他此章ノ規定ニ從ヒ豫審ノ處分ヲ爲スコトヲ得

○重罪又ハ地方裁判所云々輕罪トアルハ他ノ罪ハ豫審ヲ經サル事件ナレハ假令現行犯ナルモ豫審ヲ爲スノ要ナキヲ以テナリ

○特例トハ別段ノ規則ヲ云フ

○證據集取犯人捕縛トハ證據ヲ集メ罪人ヲ捕ヘルヲ云フ

○急速ヲ要スルトハ現行犯ハ多ク事機急迫一刻モ忽カセニスヘカラサルモノナレ𪜈其中ニモ急速ナラサルモノアリ例ヘハ詐欺取財ノ事件ニテ犯人捕ニ就キ僞造文書官ノ手ニ入リタル時ノ如シ之レ證據湮滅犯人逃走ノ恐ナケレハ急速ナラス

○法律上現行犯ノ處分ナシテ普通手續ニ從ラシメスシテ特例トセシハ證據集取及ヒ犯人捕縛スルニ於テ容易ナラシムルヨリ生シタリ蓋シ現ニ行ヒ在リシモノ又ハ行ヒ終リタル際ノモノナレハ證據ヲ湮滅スルノ患ナク且犯人ヲ逃走セシムルノ恐レナキヲ以テ速ニ着手セシムルニアリ若シモ特例ナキトキハ證據湮滅犯人逃走ノ患アルコト非現行犯ヨリモ甚タシキヿアリ故ニ本節アル所以ナリ○元來判事ハ訴ナケレハ受理セサルカ原則ナレ𪜈前段ノ理由アルヨリシテ直チニ受理シタルモノトシテ豫審ニ取掛ルモノナリ然レ𪜈倘ホ事件ノ急速ナルヿヲ要ス然ラサレハ別ニ特例ヲ用ヰルノ要ナシ本例ハ非常ノ場合ヲ規定シタルモノナレハ成ルヘク本則ニ戻ラシムルヲ以テ本旨トスルニアレハ檢事ニ通知シ且之ニ取掛ルモ急速ナルヿヲ以テ主眼ト爲ス所以ナリ○豫審ニ取掛ルコトヲ得ルトセハ本條第二項ノ規定ヲ必要トス若シ然ラサレハ其取掛ルノ効ナキノミナラス臨檢ノ如キハ次條ニ從ヒ公訴受理ノ原由トナルヲ以テ必ラス臨檢セサレハ能ハサルモノトス

第百四十三條　前條ノ場合ニ於テハ檢事ノ起訴ナシト雖モ豫審判

○起訴トハ公

訴ヲ云フ

○送致トハ書類ヲ回付スルヲ云フ

事検證調書ヲ作ルヲ以テ公訴ヲ受理シタルモノトス其調書ニハ現行ノ重罪又ハ輕罪ナルコトヲ記載ス可シ

豫審判事ハ速ニ書類ヲ検事ニ送致ス可シ但検事ヨリ其豫審手續ヲ繼續ス可キモノニ非サル意見アリト雖モ通常ノ規定ニ從ヒ之ヲ終結ス可シ

○現行犯ノ豫審ハ豫審判事直チニ犯所ニ臨検シテ豫審ニ取掛ルモノナレハ其公訴受理ノ點ハ何レヨリ起算スヘキヤ分明ナラス故ニ本條第一項ノ如ク規定シ以テ區域ヲ判然ナラシム又調書ニ現行ナルヿヲ明記シ以テ變例ナルヿヲ示シ併セテ越權ニアラサルヿヲ後日證スルニ外ナラス○検事ニ書類ヲ送致スルハ變例ナシテ通例ノ規則ニ戻ラシムルニアリ而シテ検事ヨリ此事件ハ引續キ豫審スヘキモノニアラストシ豫審手續ノ續行ヲ爲サヽル意見アルトキト雖モ通常ノ如ク終結セサルヘカラス之レ一旦公訴ノ起リタル以上ハ検事ノ意見ニ從ヒ消滅スルモノニアラス若シ然ラストセハ裁判官ノ獨立ヲ害シ從テ社會公益上ニ戻ルヲ以テナリ

○屬スル處分トハ臨検物件差押證人參考人ノ訊問被告人ノ訊問等總テ豫審判事ノ爲スヘキ手續ヲ云フ

第百四十四條　地方裁判所検事及ヒ區裁判所検事ハ豫審判事ヨリ先ニ重罪又ハ地方裁判所ニ屬スル輕罪ノ現行犯アルコトヲ知リタル場合ニ於テ其事件急速ヲ要スルトキハ豫審判事ヲ待ツコトナク其旨ヲ通知シテ犯所ニ臨検シ豫審判事ニ屬スル處分ヲ爲スコトヲ得但罰金及ヒ費用賠償ノ言渡ヲ爲スコトヲ得ス

證人及ヒ鑑定人ノ供述ハ宣誓ヲ用ユルコトナク之ヲ聽ク可シ

○本條ハ前條々ト同一ノ權衡ヨリ規定シタルモノニシテ検事ナリ豫審處分ヲ爲スヿヲ許スニ在リ之レ規定ニ從ヒ手續ヲ爲スニ於テハ證據ノ湮滅ト犯人ノ逃走ヲ患フルニ至ルヘシ而シテ此場合ヲ急速ヲ要スルトノ條件ヲ具ヘサルヲ得ス蓋シ非常ノ場合ナレハナリ第一項但書及ヒ第二項ハ事急速ヲ要スル場合ニモアラス且言渡及ヒ宣誓ヲ用ヒテ證言ヲ拒ムトキ若クハ宣誓ヲ爲サヽル時ノ如キハ皆一ノ裁判ヲ爲シテ制裁ヲ加ヘサルヘカラサルモノナリ然ルニ検事ハ假リニ處分スルノ權アルモ裁判官ニハアラサレハ假令急速ナルモ裁判ヲ爲スノ權ナシ只手續ヲノミ爲ス權

アルノミ故ニ斯ノ如ク規定シ以テ區別セシ所以トス

第百四十五條　前條ノ場合ニ於テ地方裁判所檢事ハ證憑書類ニ意見書ヲ添ヘ速ニ之ヲ豫審判事ニ送致シ區裁判所檢事ハ之ヲ地方裁判所檢事ニ送致ス可シ

○前條ノ處分ハ非常ナリ檢事ハ自ヲ起訴シ自ラ豫審處分ヲ爲シタリ法律ハ成ル可ク速ニ普通ノ手續ニ復スルヿヲ希ヘリ故ニ本條ノ如ク速ニ豫審判事ニ書類ヲ送致シ又區裁判所檢事ハ地方裁判所檢事ニ送致シ以テ豫審判事ニ回送セシム之レ直接ニアラサレハ地方裁判所檢事ノ手ヲ經ルニ外ナラス

○證憑書類トハ證據物件及ヒ證人ノ訊問調書其他臨檢調書等一切被告事件ニ必要ナル書類ヲ云ヘリ

第百四十六條　區裁判所檢事其裁判所ノ管轄ニ屬スル輕罪ノ現行犯アルコトヲ知リタル場合ニ於テ其事件急速ヲ要スルトキハ第百四十四條ニ規定シタル處分ヲ爲スコトヲ得

若シ被告人ニ對シ勾留狀ヲ發シタルトキハ三日內ニ起訴ノ手續ヲ爲ス可シ

○本條第一項ハ區裁判所檢事ノ權限ヲ定メ第百四十四條ノ如ク自己ノ管轄事件ト雖モ起訴ヲ爲サスシテ先ツ犯所ニ臨檢シ令狀ヲ發スルヿヲ得ヘシ之レ現行犯ニシテ事急速ヲ要スルモノナレハ證據湮滅犯人逃走ノ点ヨリシテ當然ナル處置ナリトス而シテ第二項ノ如ク勾留狀アレハ三日內ニハ公訴ノ手續ヲ爲サシムルハ蓋シ區裁判所管轄ノ事件ハ裁判所構成法第十六條ノ如ク輕微ナルモノナレハ其長ク勾留スルヿハ反テ本刑ノ苦痛ヨリ甚シキ害トナルヲ以テ權衡ヲ保ツタメ且檢事ヲシテ非常ノ手續ヲ普通ニ復サシメ併セテ緩慢ナラシメサルニアリトス之レ第百四十四條ノ場合ト大ニ異ナル所以トス

○緩慢トハ「ユックリ」スルヲ云フ

第百四十七條　第百四十四條第百四十六條ニ於テ檢事ニ許シタル職務ハ司法警察官モ亦假ニ之ヲ行フコトヲ得但勾留狀ヲ發スルコトヲ得ス

司法警察官ハ證憑書類ニ意見書ヲ添ヘ速ニ之ヲ管轄裁判所ノ檢事ニ送致シ且被告人ヲ逮捕シタルトキハ共ニ之ヲ送致スヘシ

○司法警察官ハ檢事ノ補佐タリ故ニ非常ノ場合ハ之ヲ許スモ敢テ妨ゲナク却テ證據湮滅犯人逃走ノ恐レアルヲ豫防スルニ於テ必要タリ然レトモ之ヲ檢事ト同一ニ許ストキハ此間大ニ區畫ナクシテ終ニ權利ノ濫用ヲ招クニ至ルヘシ故ニ之レカ區別判然タル爲メ假ノ字ヲ加ヘタリ左レハ第百四十四條第百四十六條ト同一ノ處分ヲ爲スモ其起訴ノ点ニ於テ差異アリ一ハ自ラ起訴シ自ラ豫審處分ヲ爲スモ一ハ只豫審處分ノミタリ又勾留狀ヲ發スルヿヲ許サヽルハ身体ヲ勾束スルニアレハ弊害ノ來サンヿヲ恐レタル爲メナリ○第二項ニ速ニ檢事ニ送致シ起訴ノ手續ヲ速カナラシムルニアリ司法警察官ハ少シモ手元ニ留メ置クヘカラス之レ緩慢ヲ防クコアリ

○請求書トハ豫審ヲ爲スノ請求書ヲ云フ

第百四十八條 地方裁判所檢事ハ區裁判所檢事又ハ司法警察官ヨリ事件ノ送致ヲ受ケタルトキハ一切ノ書類ニ請求書ヲ添ヘ豫審判事ニ送致ス可シ

若シ同時ニ被告人ヲ受取リタルトキハ二十四時内ニ之ヲ訊問シ勾留狀ヲ發シ又ハ發セスシテ前項ノ手續ヲ爲ス可シ

○何レノ場合トハ第百四十四條ノ自ラ現行犯アルヿヲ知リタルトキ及ヒ第百四十六條及ヒ第百四十七條ノ區裁判所檢事又ハ司法警察官ヨリ送致シタルトキヲ問ハストノ主旨ナリ

○第百四十五條及ヒ第百四十七條ノ手續ハ實ニ假リノ處分ニシテ起訴アリタルモノニアラス故ニ之ヲ正當管轄ノ檢事ニ送致シ檢事ハ本條ノ如ク公訴ヲ提起スルモアリトス○第二項ハ元ト假ノ處分ノミナラス管轄違ヒ及ヒ職權外ノ取扱ヒナルヲ以テ更ニ被告人ヲ訊問スルニアリ其二十四時ト制限セシハ檢事ノ緩慢ヲ防キ被告人ヲシテ長ク未決ニ置カシメサルニアリ其勾留狀ヲ發スルト否トハ事件ニ依リテ定ムルニ在リトス

第百四十九條 地方裁判所檢事ハ何レノ場合ニ於テモ輕罪ノ現行犯ニ係リ豫審ヲ求ムルニ及ハスト思料シタルトキハ勾留狀ヲ發シタルト否トニ拘ハラス直チニ其裁判所ニ訴ヲ爲スコトヲ得

被告事件罪ト爲ラス又ハ公訴受理ス可カラサルモノト思料シタルトキハ起訴ノ手續ヲ爲ス可カラス

○地方裁判所檢事ニ於テ豫審ヲ求メスシテ直チニ公判ニ訴フヘキ場合ヲ示シタリ即チ第百四十四條ノ變体トス夫レ豫審ヲ求ムルハ重罪カ又ハ困難錯雜ナル輕罪ナ

○苦痛トハ「クルシミ」ナリ

○保釋トハ保證ヲ立テ被告人ヲ一時解釋メルヲ云フ即チ一ノ恩典處分ナリ○無能力者トハ未成年者有夫ノ婦白痴瘋癲者禁治産者等ナリ○法律上代理人トハ後見人、夫、管財人管理人等ナリ○具備トハ「ソラフ」ヲ云フ

○擔保トハ受合ナリ

リ故ニ簡單ナル輕罪ニ在テハ別ニ豫審ヲ經サルモ證據充分ナルノミナラス却テ被告人ノ苦痛ヲ減シ處分ノ速カナル利益アリ之レ本條ノ設ケアル所以トス○第二項ハ第六十四條第二項ト同旨趣タリ而シテ何故同文ノ重複セシヤト問フニ前ハ通常ノ場合ニ適用シ後即チ本條ノ場合ハ變例タル現行犯ニ適用スルノミナレハ別ニ奇トスルニ足ラス

第九節　保釋

第百五十條　豫審判事ハ豫審中勾留狀ヲ受ケタル被告人ノ請求ニ因リ檢事ノ意見ヲ聽キ何時ニテモ呼出ニ應シ出頭ス可キ證書ヲ差出シ且保證ヲ立テシメ保釋ヲ許スコトヲ得

被告人無能力ナルトキハ法律上代理人ヨリ保釋ヲ求ムルコトヲ得

○保釋ヲ許スハ蓋シ證據湮滅及ヒ逃走ノ恐レナキニ勾留スルハ徒ラニ人民ニ苦痛ヲ加フルニアルノミナラス未決勾留ハ一時無罪ノ證憑ナキヨリ止ヲ得ス爲ス處分

ナレハ是等ノ憂ナキニ於テハ人身ノ自由ヲ貴ヒ保證ヲ立テ、自由ヲ與フ可シトノ論點ヨリ來リタルモノナリ故ニ本條ノ如ク條件ヲ具備シ許スニアリ○勾留狀ヲ受ケタルモノナラサルヘカラサルハ他ノ者ハ身体ヲ勾束セラレサルニ由ル○請求ヲ要スルハ本人甘受シテ勾束ヲ受ケ敢テ苦情ナケレハナリ○檢事ノ意見ヲ聽クハ檢事ハ原告官ニシテ且公益ノ保護官ナレハ之ヲ許スト否トニ於テ社會ニ害ノ有無ヲ生スレハナリ○出頭スヘキ證書ヲ出サシムルハ被告人ニ於テ彼是故障ヲ申立呼出ニ應セサルノ患ヒアレハナリ○保證ヲ立ツルハ出頭スヘキノ擔保タリ蓋シ人身ニ代ハリ貴キモノハ金錢ナレハ之ヲ以テ保證セシム之レ逃亡セサル豫防タリ○第二項ハ無能力者自ラハ勿論之ニ代ルヘキ法律上代理人モ亦保釋ヲ求ムル權アルヿヲ示シ以テ無能力者ヲ保護スルニアリトス

第百五十一條　保證ノ金額ハ豫審判事之ヲ定メ保釋ヲ許ス言渡書ニ記載ス可シ

○保證ノ金額ハ其事件ノ重輕ト被告人ノ身元トニ依ラサルヘカラス故ニ法律上一

定ノ額ヲ記スルヿヲ得ス故ニ之レカ事件ノ主任タル判事ニ一任シ以テ平衡ヲ保タシムルニアリトス

○有價證券トハ爲替手形公債證書ノ如キモノヲ云フ

第百五十二條　保證ヲ爲スニハ被告人又ハ法律上代理人ヨリ金錢若クハ有價證券ヲ差出ス可シ

○資力アル者トハ金持チヲ云フ

又裁判所ノ管轄地内ニ住シ且十分ナル資力アル者ヨリ金額ニ充ツ可キ保證書ヲ差出スコトヲ得

○保證ハ金錢ヲ以テ便利ナリトス若シ金錢ナキ時ハ有價證券ヲ差出スヘシ有價證券ハ金錢ト同一ナルモノナレハナリ○又第三者タル資力者ヨリ金額ニ充ツヘキ保證書ヲ出シテ第一項ニ代ユルコトヲ得ヘシ之レ亦一ニ便利法タリ人々ハ必ラス常ニ金錢ヲ貯蓄シアルモノト云フヲ得サレハ其出スハ何人ヲ論セサルモノトス只第三者ナルトキハ裁判所ノ管轄内ナルト十分ノ資力アルトノ二條件ヲ要ス若シ被告人出頭セサル場合ニ於テ徵收スルノ便宜ヲ得ル爲メトス

○徵收トハ取立ナリ

第百五十三條　保釋中被告人ヲ呼出ストキハ出頭ヨリ二十四時前

○報告トハ知ラシムルヲ云フ

ニ其報告ヲ爲ス可シ

○本條ノ猶豫ヲ加ヘタルハ被告人出頭ノ用意ヲ爲サシムルニ外ナラス又他行中ナルトキハ突然出頭ヲ命スルモ實際爲シ得ヘカラスシテ官民共ニ不都合ヲ來タスヲ以テ法律上一定ノ餘地ヲ與ヘタリ

第百五十四條　保釋中被告人呼出ヲ受ケ正當ノ事由ナクシテ出頭セサルトキハ保證金ノ全部又ハ一分ヲ沒收ス可シ

○沒收トハ官ノ所有ニ歸セシムル處分ヲ云フ取上ルト同シ

○何時ニテモ出頭スヘシトノ證書ヲ差出シタル以上ハ必ラス呼出ニ應シ出頭セサルヘカラス然ルニ疾病其他止ヲ得サル事由アルトキハ直チニ其旨ヲ屆出テ出頭ニ應セサルヿヲ明ラカニスヘシ然ラスシテ出頭セサルハ之レ約ニ違背スルモノナレハ保證金ヲ沒收セラルルモ如何トモ爲スヿヲ得ス但シ其不出頭ノ情狀ニ依リ全部ト一分トアリ之レヲ判定スルハ事實判官ノ意ニ任セサルヘカラス

○遵背トハ約束ニ「ソムク」ヲ云フ

第百五十五條　保證金ヲ沒收スルニハ檢事ノ意見ヲ聽キ豫審判事其言渡ヲ爲ス可シ

○初メ保證ヲ立ツルトキ檢事ノ意見ヲ聽キ且之ヲ言渡シタレハ之ヲ沒收スルコモ亦檢事ノ意見ヲ聽キ且之ヲ言渡スハ自然ノ順序ナリトス

第百五十六條　豫審判事保證金ヲ沒收シタルトキハ保釋ノ言渡ヲ取消ス可シ

又豫審中保釋ノ言渡ヲ取消スコトヲ必要ナリトスルトキハ檢事ノ意見ヲ聽キ其言渡ヲ取消ス可シ

○保證金ヲ沒收スルトキハ第百五十條ノ保釋ヲ許ス條件ノ一ヲ欠キタレハ保釋其モノハ存セス故ニ取消スニアリ○又保證金ヲ沒收セサルトト雖モ逃亡ヲ企テ證據ノ湮滅ヲ謀リタル等尚モ保釋ヲ許シ置クノ害トナル場合ニ於テモ亦取消スヿヲ得ヘシ否ヲ得ヘキノミナラス事實上取消ササルヘカラサルモノト知ル可シ

○還付トハ返却スルヲ云フ

第百五十七條　豫審判事保證金ヲ沒收シタル後免訴ノ言渡、違警罪又ハ罰金ニ該ル可キトキハ檢事ノ意見ヲ聽キ前ニ沒收シタル金額ヲ還付ス可シ

○入監トハ監獄内ニ勾留スルヲ云フ

○故舊トハ朋友知己ヲ云フ

○保釋ハ勾留ヲ受ケタルモノニ必要ニシテ初メヨリ勾留スヘキ必要ナキモノニハ勾留スヘキ理ナク從テ保釋ヲ約スルノ必要ナシ本條列記ノ場合ハ決シテ入監セシムルノ事件ニアラス左レハ之ニ對シテ保釋ヲ爲サシムルハ蓋シ原因ナキ約ト云ハサルヘカラス原因ナキニ證據金ヲ沒收スルハ之レ不當ナリ故ニ沒收シタル金額ハ還付スルヲ以テ至當ナリトス

第百五十八條　豫審判事免訴ノ言渡、違警罪又ハ罰金ニ該ル可キ輕罪ニ付キ公判ニ付スル言渡ヲ爲シ若クハ保釋ノ言渡ヲ取消シタルトキハ保證金ヲ還付ス可シ

○保釋ノ必要ハ勾留セシ身分ニアレハ勾留ノ必要ナキ身分ナルトキハ保釋ノ必要ナシ從テ保證金ヲ還付スヘキハ當然タリ本條ハ即チ第百五十六條第二項及ヒ前條ノ場合ニ於テ保證金ヲ還付スヘキ事ヲ規定ス蓋シ保釋ヲ取消シタル結果ナリトス

第百五十九條　豫審判事ハ保釋ノ請求アルト否トヲ問ハス檢事ノ意見ヲ聽キ被告人ヲ其親屬又ハ故舊ニ責付スルコトヲ得

責付ヲ爲スニハ親屬又ハ故舊ヨリ何時ニテモ呼出ニ應シ被告人ヲ出頭セシム可キ證書ヲ差出サシム可シ

○責付ハ保釋ヨリ一層進ミシ恩典タリ之レ決シテ證據湮滅及ヒ逃亡ノ患ヒナシト見込ミタル被告人ニ與フルニアリ故ニ保釋ノ如キ條件ヲ要セスシテ判事ハ意見ヲ以テ責付スルモノトス○責付モ亦假リニ身体ノ勾束ヲ解クニアレハ證書ヲ差出サシメ出頭セシムヘキノ約ヲ立ツヘシ然ラサレハ制裁ナクシテ出頭セサルモ如何トモ爲ス能ハスシテ爲メニ事務ヲ滯ラシメ被告人ヲシテ漫リニ自由ヲ弄スルニ至ルヘケレハナリ又親屬故舊ニ於テモ責任ヲ負ハシメサレハ責付ノ効ナキニ至ルヘシ

第百六十條　責付中被告人ヲ呼出ストキハ出頭ヨリ二十四時前ニ其報知ヲ爲ス可シ

被告人正當ノ事由ナクシテ出頭セサルトキハ檢事ノ意見ヲ聽キ責付ノ言渡ヲ取消ス可シ

○本條ハ第百五十三條及ヒ第百五十六條第二項ト同一ノ主旨ナレハ別ニ解セス

○其管轄トハ豫審判事ノ管轄ヲ云フ

○還付トハ返却スルナリ

第十節　豫審終結

第百六十一條　豫審判事ハ被告事件其管轄ニ非ストシ又ハ他ニ取調ヲ要スルコトナシト思料シタルトキハ豫審終結ノ處分ニ付キ檢事ノ意見ヲ求ムル爲メ訴訟記錄ヲ送致ス可シ

檢事ハ訴訟記錄ニ意見ヲ付シ三日内ニ之ヲ還付ス可シ

○豫審ヲシテ終結セシムルハ之レ始終ノ順序ニ從ヘハナリ然ラサレハ起訴アルモ其結局ヲ如何セン而シテ終結ヲ爲スニ二個アリ一ハ被告事件ノ管轄ニ非ストスルヿ二ハ他ニ取調ヲ要スルヿナシトスルコト其第一ノ場合ハ豫審中卽チ取調中ト雖ヒ決シテ終結スルニ差支ナシ第二ノ場合ハ取調ノ後有無罪ノ心證ヲ置キ又ハ疑ハシキモ最早他ニ取調フルノ要ナシト思料スルトコアリ以上何レモ檢事ノ意見ヲ求ムルハ公益上ノ利益ヲ保護スルノミナラス裁判ノ信用ヲ維持シ且檢事ノ起訴ニ係ルカ故ナリ○判事ハ檢事ノ意見ニ從ハサルヘカラサルカ之レ第百六十三條ニ於テ答フヘシ又判事ハ自ラ意見ヲ附シテ送致スヘキカ否別ニ意見ヲ付スルノ要ナク否

付セサルヲ以テ至當トス蓋シ檢事ノ意見ヲ求ムル主意ニ反セハナリ○第二項ハ記錄ヲ檢閲スル猶豫ヲ與ヘタルノミナラス斯ノ制限セサルトキハ豫審處分ニ延滯ヲ生スルノ恐レアレハナリ

○條件トハ兼々ト云フ意ナリ○肯セサルトハ承諾セサルコトアリ

第百六十二條　檢事ハ豫審十分ナラスト思料シタルトキハ其條件ニ付キ更ニ取調ヲ請求スルコトヲ得若シ豫審判事其請求ヲ肯セサルトキハ檢事ハ訴訟記錄ニ意見ヲ付シ二十四時内ニ之ヲ還付ス可シ

○檢事ハ豫審取調上不十分ノ件アルトキハ更ニ取調ヲ求ムル權アリ然レトモ豫審判事ハ之ヲ容ルルト否トハ全ク權内トス之レ判事ハ一ノ裁判官ナレハ獨立ヲ維持スルニ據テ必要ナリトス若シ判事ニ於テ檢事ノ請求ヲ肯セサルトキハ前條第二項ニ立戻リ意見ヲ付シ還付ス其時期ヲ二十四時内トセシハ最早記錄ヲ檢閲スル要ナケレハナリ已ニ檢閲ヲ經テ不十分ノ件發見セシモノナレハ再ヒ檢閲ノ時間ヲ與フル必要ナケレハナリ

○意見如何ナルヲ云々トハ第百六十一條第百六十二條ニ依リ付シタル意見ナリ或ハ有罪又ハ無罪ト云フカ如シ

第百六十三條　豫審判事ハ檢事ノ意見如何ナルヲ問ハス後數條ニ記載シタル決定ヲ以テ豫審ヲ終結ス可シ

○豫審判事モ裁判官ナリ獨立ヲ保持セシメサル可ラス其法タル檢事ノ意見ニ勾束セシメサルニアリ然ラサレハ判事ハ原告ノ地位トナリ裁判官ノ地位トナリテ獨立ヲ維持スルヿ能ハサレハナリ故ニ本條ノ如ク規定シ檢事ト判事トノ職權ヲ判然タラシメタリ

○其旨トハ管轄違ヒト云フ意ナリ○存シトハ生シ置クトノ主旨ナリ○交付トハ引キ渡スヲ云フ○令狀トハ勾留狀ノヿナリ

第百六十四條　豫審判事ハ被告事件其管轄ニ非サルコトヲ認メタルトキハ其旨ヲ言渡ス可シ若シ勾留ヲ要スルモノト認メタルトキハ前ニ發シタル令狀ヲ存シ又ハ新ニ令狀ヲ發シ其事件ヲ檢事ニ交付ス可シ

○豫審判事ハ被告事件カ犯罪ノ種類若クハ場所又ハ身分ニ由リテ管轄ニアラサルモノナルトキハ管轄違ヲ以テ終結ヲ爲スヘシ而シテ勾留ヲ要スルトキハ前ノ令狀ヲ存セシムルカ又ハ新タニ令狀ヲ發スルカ何レニシテモ被告人ヲ勾束シ檢事ニ交

○脱却トハ手離レヲ云フ

付ス蓋シ豫審終結ヲナシタルトキハ被告人ハ自由ノ身トナリ已ニ發セシ令狀ハ消滅シ判事ノ關係ヲ脱却スヘシト雖モ其被告人ニ依リ或ハ逃走シ或ハ證據湮滅ヲ謀ル等ナキヲ保セス而シテ檢事ハ勾留狀ヲ發スル權ナケレハ判事ニ於テ之ヲ發スルモノトス蓋シ正則ヨリ云ヘハ不都合ナルモ一ノ便法トシテ規定セラレタリ

○免訴トハ公訴ヲ受クルヿヲ免ヌカレシムルノ主旨ナリ○放免トハ監獄ヨリ出シ自由ノ身トナラシムルナリ

第百六十五條　豫審判事ハ左ノ場合ニ於テ免訴ノ言渡ヲ爲シ且被告人勾留ヲ受ケタルトキハ放免ノ言渡ヲ爲ス可シ

第一　犯罪ノ證憑十分ナラサルトキ

第二　被告事件罪ト爲ラサルトキ

第三　公訴ノ時効ニ罹リタルトキ

第四　確定判決ヲ經タルトキ

第五　大赦アリタルトキ

第六　法律ニ於テ其罪ヲ全免スルトキ

○免訴ヲ言渡ス場合六アリ○第一ハ犯罪成立ノ證憑十分ナラサルモノ例ヘハ他人

ノ物品ヲ持歸リシモ盗取スル情ナキカ如シ犯罪成立スルモ本犯ノ何人カヲ證スル證憑十分ナラサルモノ例ヘハ甲者ハ犯人ナリトシテ取調シニ甲者ニハアラサル時即チ人違ヒノ場合ノ如シ○第二ハ事件其モノカ罪トナラサルモノナリ例ヘハ刑法上罰スヘキ明文ナキ所爲ノ如シ○第三乃至第五ハ第六條第三第五第六ト同一ニシテ公訴ノ當然消滅スヘキモノ○第六ハ刑法第百五十三條第百九十二條第二項第二百二十六條等ノ如キモノナリ以上ハ免訴トシテ言渡シ無罪トセサルハ如何トノ問題アルモ無罪ハ公判ノミ存ス蓋シ豫審ハ罪ノ有無ヲ斷スル權ナク只證憑ヲ集取スルノミナレハ決シテ有罪無罪ノ言渡ヲ爲スヿヲ得ス○又被告人死亡スルトキハ如何ト死亡スルトキハ別ニ免訴ヲ言渡スノ要シ死亡ニ依リテ當然終結セラレタレハナリ

○釋放トハ被告人ヲシテ身体ヲ自由ナラシムルニアルノミ決シテ訴

第百六十六條　被告事件違警罪ナリト思料シタルトキハ區裁判所ニ移ス言渡ヲ爲シ且被告人勾留ヲ受ケタルトキハ釋放ノ言渡ヲ爲ス可シ

○違警罪ハ原來豫審ニ付スヘキモノニハアラス又勾留スヘキモノニモアラス然ル

訟ヨリ脱却セシムルノ意ニアラスシテ

○區裁判所ニハ輕罪公判ノ文字ナキハ輕罪ノミニ限レルカ故ナリ地方裁判所ノ如ク重罪アヲサレハ間違フヲナシ

誤ル誤審ニ付ナルトキハ區裁判所ニ移スノ言渡ヲ以テ終結セサルヘカラス從テ勾留ヲ釋放セサルヘカラス之レ元來ノ性質ニ復スルニアリ

第百六十七條　被告事件裁判所構成法第十六條第二號ニ記載シタル輕罪ナリト思料シタルトキハ區裁判所ニ移ス言渡ヲ爲シ其他ノ輕罪ナリト思料シタルトキハ其裁判所ノ輕罪公判ニ付スル言渡ヲ爲ス可シ

被告人勾留ヲ受ケタル場合ニ於テ罰金ノ刑ニ該ルモノト思料シタルトキハ釋放ノ言渡ヲ爲ス可シ

禁錮ノ刑ニ該ル可キモノト思料シタルトキハ保釋ヲ許シ又ハ責付ヲ爲スコトヲ得若シ被告人未タ勾留ヲ受ケサルトキハ令狀ヲ發ス可シ

○裁判所構成法第十六條第二號ハ區裁判所ノ管轄ニ屬スルモノナレハ區裁判所ニ移スモノナリ其他ノ輕罪ナルトキハ其裁判所ノ輕罪公判ニ付スルモノナリ移スト付

スルトノ區別ハ裁判所ヲ異ニシ一ハ他所一ハ自家ニ在レハ此區別アリトス○第三項ハ罰金ノ刑ナレハ性質上勾留スヘキモノニ非サレハ釋放ノ言渡ヲ爲ス當然トス即チ前條ト同主旨ナリ○第三項ハ勾留スヘキ性質ノモノナレトモ證據湮滅ノ恐レナシ逃走スルノ患ヒナキモノニシテ身分財産ノ如何ニ依リ保釋ヲ許シ又ハ責付ヲ爲スコトヲ得ヘシ此場合ハ第九節ニ從フモノトス之ニ反シ未タ勾留ヲ受ケサルニシテ禁錮ノ刑ニ該ルモノト思料シタルトキハ勾留狀ヲ發スルヿヲ得ヘシ此場合ニ於テモ前述ノ如キ情狀アルトキハ令狀ヲ發セスシテ其儘身体ヲ自由ニセシメ置クヿヲモ爲シ得ヘキモノトス

第百六十八條　被告事件重罪ナリト思料シタルトキハ其裁判所ヲ重罪公判ニ付スル言渡ヲ爲ス可シ若シ保釋ヲ許シ又ハ責付ヲ爲シタルトキハ其言渡ヲ取消シ被告人未タ勾留ヲ受ケサルトキハ令狀ヲ發ス可シ

○夫レ重罪事件ハ事重大ニシテ社會ニ害ヲ及ホスヿ大ナリ從テ其犯人ハ概シテ奸

○豫審終結

○畏怖トハ恐ルヽニアリ

○明示トハ明瞭ニ示スヲ云フ

惡ナル徒ニアラサレハ無類ノ輩タリ縱シ假リニ然ラサルモ罪其モノカ重ケレハ從テ犯人モ亦畏怖ノ念ヲ懷ク深キヲ以テ證據湮滅シ逃走シ以テ罪ヲ避ケント謀ルコトアリ故ニ本條ノ如ク規定シ何レノ場合ヲ問ハス身体ノ自由ヲ束縛スルニアリトス之レ前段述ヘタル證據湮滅ト逃亡トヲ豫防スルニ於テ然ルモノトス

第百六十九條　豫審終結ノ決定ニハ事實及ヒ法律ニ依リ其理由ヲ付ス可シ

管轄違ノ言渡ヲ爲スニハ其原由ヲ明示シ若シ被告人ヲ勾留ス可キトキハ其原由ヲ明示ス可シ

免訴ノ言渡ヲ爲スニハ被告事件罪ト爲ラサルコト、公訴受理ス可カラサルコト及ヒ其原由又犯罪ノ證憑十分ナラサルトキハ其旨ヲ明示ス可シ

○性質トハ重罪輕罪違警罪ノ如ク又窃盜

區裁判所ニ移ス言渡又ハ公判ニ付スル言渡ヲ爲スニハ犯罪ノ性質、模樣、證憑ノ十分ナルコト及ヒ其罪ヲ罰ス可キ法律ノ正條ヲ

○模樣トハ加重シ又ハ減輕ノ如シ○證憑トハ證據及ヒ懲憑ニシテ調書又ハ證據物件等ノ如シ○正條トハ刑法第何條第何條ト記スルカ如シ

故殺等ノ如シ

明示ス可シ

○本條ハ豫審終結ノ決定記載例ヲ示シタル其一般ノ場合ニ在テハ事實及ヒ法律ニ依リ其理由ヲ付セサルヲハ如何ナル事實ニシテ如何ナル法律ヲ適用セシヤ知ルヘカラサレハナリ而シテ第二項以下ハ其終結ノ性質ニ依リテ各異ナル点アレハ之ヲ變例トシテ區別シタリ○管轄違ノ場合ハ其原由例ヘハ土地ノ場合ニ在テハ犯所ヲ記シテ豫審判事ノ管轄外ナルヿヲ示シ犯罪ノ性質ニ在テハ犯人ガ皇族タルヿヲ示シ大審院ノ管轄ナルヿヲ明ラカニスルカ如シ又勾留スヘキトキハ其原由例ヘハ重罪事件ナルヿ又ハ逃亡ノ恐レアルヿ等ヲ明示スルニアリトス○免訴ノ場合ハ三箇アリテ其被告事件罪ト爲ラサルヲハ其事實及ヒ法律上正條ナキヲ以テ罪トナラサル旨ヲ明示シ又公訴受理ス可カラサルヲハ時効ニ罹レリ若クハ確定裁判ヲ經タリト記シ以テ事實及ヒ法律ノ理由ト爲シ其犯罪ノ證憑十分ナラサルトキハ其原由ヲ明示スルヿナケレハ只證憑不十分トノミ記シ以テ決定ヲ爲スニアリ○區裁判所ニ移シ又ハ公判ニ付スルヲハ犯罪ノ性質其模樣及ヒ證憑ノ十分ナルヿ且法律ノ正條

示シ以テ適用ハ參照ヲラシ蓋シ法律ノ正條ヲ示スハ重罪輕罪及ヒ違警罪ナル

相充知ラシメ併セテ管轄ヲ示スニ於テ必要ナリトス

第百七十條　前條ノ決定ニハ第七十六條ノ規定ニ從ヒ被告人ノ氏名等ヲ明示スヘ可シ

○被告人ノ氏名年齢身分職業ヲ示シ以テ人違ヒナキヿ及ヒ決定ハ他ニ人々ニ及ホ

[illegible]ルヿヲ明瞭ナラシムルニ外ナラス

第百七十一條　豫審終結ノ決定ノ正本ハ速ニ檢事及ヒ被告人ニ送達ス可シ

○豫審ハ密行ナリ故ニ檢事ノ立會ヲ以テ被告人ニ言渡スヿトナシ左レハ正本ヲ送達セサルヿハ決定ノ有無ヲ知ルヿナク又不服ヲ爲メ抗告スル期間ナシトス而シテ正本トハ書記ノ作ルモノニシテ原本ノ如ク謄寫スルニアリ其原本ハ訴訟記錄ニ添付シ置クモノトス其檢事ニ送達スルハ原告官タレハ利害ノ及フ處被告人ニ異ナルヿトナケレハ本條ノ如ク規定シタル所以ナリ

○正本トハ原本ニ基キテ作リ末尾ニ原本ニ依リ此正本ヲ作ル者ナリト付記スルモノナリ

○抗告期ハ不服ノ旨ヲ以テ上級ノ裁判所ヘ覆審ヲ求ムル手續ヲ云フ

第百七十二條　檢事ハ重罪公判ニ付スル決定又ハ免訴若クハ管轄違ノ決定ニ對シ抗告ヲ爲スヿトヲ得

被告人ハ重罪公判ニ付スル決定ニ對シ抗告ヲ爲スヿトヲ得

○檢事被告人ハ重罪ニ係ル豫審終結ノ決定ニ對シ抗告スルヿヲ得セシムルハ其事件ノ重大ナルヲ以テナリ故ニ輕罪ニハ及ホサス而シテ檢事ハ被告人ヨリ抗告ノ範圍ノ擴キハ檢事ハ原告官ナルイミナラス公益上保護官タレハ被告人ノ利益ノミナラス社會ノ利益ノ爲メニモ亦抗告ヲ爲サシメサルヘカラス例ヘハ免訴ノ決定ヲ爲サハ社會ノ害ナリ輕罪ナルニ重罪ノ決定ヲ下サハ被告人ノ害トナルカ如シ

第百七十三條　重罪公判ニ付スル場合ニ於テハ被告人ニ送達ス可キ決定ニハ其決定ニ對シ抗告ヲ爲スヲ得ヘキヿト及ヒ其期間ヲ記載ス可シ其記載ナキトキハ更ニ通常ノ規定ニ從ヒ決定ノ送達アルマテ抗告期間ノ經過ヲ停止ス

○國民ハ其國ノ法律ヲ知ラサルヿトナシ知ラストシテ罪ヲ免カルルヿヲ得ス之レ

○期間トハ第二百九十五條ニ從ヒ三日トス○經過ヲ停止トハ三日ノ期間ハ何時マテモナキモノ

トシ被告人ノ利益タラシムルニアリ

一般ノ推測上ヨリシテ定メタルモノニシテ刑法モ亦第七十七條ノ末項ニ於テ之レカ知ラサルトノ口實ヲ以テ免カレシメサルモノトス然レトモ之レ一般ノ推定ニシテ實際ハ其知ラサルモノ多數ヲ占ム殊ニ犯罪者ノ如キハ最モ然リトス故ニ注意ノ爲メニ之ヲ告知スルニアリ法律ハ斯ノ如ク注意スルヲ以テ若シモ記載セサルトキハ記載スルマテハ抗告期間ハ停止セラルヽモノトス之レ法律ヲ知ラサルモノト看做スヲ以テナリ

第百七十四條　豫審結終ノ決定ハ抗告ノ期間内又抗告アリタルトキハ其決定アルマテ執行ヲ停止ス但保釋責付ノ言渡ヲ取消ス決定ハ其執行ヲ停止セス

○抗告ヲ許シナカラ豫審終結ノ決定通リ執行スルトセハ何故抗告ヲ許シタルヤ知ルヘカラス一面ニハ之ヲ許サヽ一面ニハ之ヲ許サルニ外ナラス殊ニ免訴ノ場合ノ如キハ逃走ノ恐レ證據湮滅ノ患ヒヲ來タスヿアレハナリ故ニ之ヲ停止シ決定ヲ未定ニ置クモノトス而シテ保釋責付ノ言渡取消ス決定ハ之ヲ停止セス蓋シ被告

○停止トハ終結ノ決定ノ通リ爲サスシテ三日内及ヒ抗告セハ其裁判ノアルマテハ執行セサルモノナリ○執行トハ言渡ノ通リ取計フヲ云フ免訴ナレハ監獄ヨリ放チ自由ノ身トナスカ如シ

○罪名ノ變更トハ例ヘハ初メ竊盜ナリト云フヲ後ニ贓物寄藏ト云フカ如シ

○豫審ト公判トノ差異

一、豫審ハ證據集取シ且證據ノ價値ヲ判定シ公判ハ本案ノ裁判ヲ爲ス

二、豫審ハ對審ノ法ニ依ラス公判ハ之ニ反シ對審ノ法ニ依ル

人ハ證據湮滅ヲ爲シ逃走ヲナシ終ニ抗告ヲ名トシテ自由ヲ得以テ決定ノ効力ヲ撫ニスル事アルヲ以テ特ニ之ヲ停止セサルモノトス

第百七十五條　豫審ニ於テ被告人免訴ノ言渡ヲ受ケ其決定確定シタルトキハ罪名ノ變更アルモ同一ノ事件ニ付キ再ヒ訴ヲ受クルコトナカル可シ但新ナル證憑アルトキハ此限ニ在ラス

新ナル證憑アルトキハ檢事ヨリ之ヲ其裁判所ニ差出シ裁判所ニ於テハ其起訴ヲ許ス可キヤ否ヤヲ決定ス可シ

○豫審決定ト雖モ確定セハ事實ノ定ムルモノナレハ同一事件ニ付テハ再ヒ訴ヘラルヽコトナカルヘシ然ラサルトキハ一事再理ノ原則ニ反セハナリ其同一事件中假令罪名ノ變スルモ敢テ異ナルヿナシ例ヘハ初メ强盜ノ公訴ヲ起シ免訴ヲ受ケ再ヒ竊盜事件トシテ公訴スルモ決シテ有効ナルモノニハアラス何ントナレハ其罪ヲ構成スル本質タル證憑ニ付テ一モ變リナケレハナリ然レトモ新ナル證憑アルトキハ之レヲ更ニ審理スル敢テ一事再理ノ原則ニ反セサルヘシ何ントナレハ新ナル證憑ニ依

三、豫審ハ密行ヲ原則トシ公判ハ公行ヲ原則トス

四、豫審ハ辯護人ヲ用ユルヲ許サス公判ハ之ヲ許スノミナラス重罪ニハ必ラス用サシム

五、豫審ノ免訴ハ新タナル證憑アルトキハ同一事件ヲ審理スルモ公判ハ決シテ審理セス

六、豫審終結ノ決定ニ對シテハ抗告ヲ一度ノミ爲スコトヲ許ス公判ハ控訴及ヒ上告ヲモ爲スコトヲ得ヘシ

以上二者ノ大略區別ナリトス

別事件トシテ訴ヲ起スモノト看做セハナリ○新ナル證憑ノ出テタル時ノ手續ハ更ニ起訴スヘキヤ否ヤ即チ新ナル證憑ナリヤ否ヤノ裁判ヲ待テ檢事ハ起訴スヘキモノトス然ラサレハ檢事ハ利益ノ保護ニ汲々トシテ更ニ豫審ヲ求メ豫審判事ニ於テハ之ヲ裁判スルノ權ナキヨリ豫審ノ手續ヲ履行シ終ニ亦免訴ヲ爲スノ煩アレハ夫レヨリ先キニ其新ナル證憑ナリヤ否ヤヲ判定セシメ以テ起訴スヘキヤ否ヤヲ定メシムルモノトス殊ニ之レヲ公判判事ニ廻シテ裁判ヲ求ムルハ豫審判事ハ是等ヲ裁判スルノ權ナキ人ニシテ只豫審判事ハ罪ヲ斷スルニ十分ナリヤ否ヤノ證憑ヲ集取スル權ヲ有スルニ過キサル人ナレハナリ

第四編　公判

第一章　通則

第百七十六條　公判ハ判事、檢事、裁判所書記出廷シテ之ヲ爲スモノトス

○公判ハ罪狀ヲ裁判スル場所ナレハ其裁判役ト公訴ヲ起ス原告官ト公判廷上顯レタル事柄ヲ筆記スル書記ト出廷スルヲ要ス而シテ其裁判所ノ階級ニ依リ判事ノ人員ニ多少アリ區裁判所ニハ一人地方裁判所ニハ三人控訴院ニハ五人大審院ニハ七人ト云フカ如シ又檢事書記ハ人員ニ制限ナケレハ事件ノ繁雜ニ依リ二人三人出廷スルモ敢テ差支ナカルヘシ

第百七十七條　被告人ハ公廷ニ於テ身体ノ拘束ヲ受クルコトナシ但守卒ヲ置クコトアル可シ

○被告人ハ一身上ニ於テ十分ノ辯護權ヲ伸張セシメサルヘカラス其身體ヲ拘束スル時ハ從テ其精神ノ自由ヲ拘束スルニ至リ爲メニ辯護スルハ躊躇ス之レ本條アル所以ナリ然レトモ被告人中逃亡又ハ暴行スルモノアルヲ恐レ公益保護ノ爲メ守卒ヲ公廷内ニ置キ取締ヲ爲スニアリトス巡査看守ノ如シ

第百七十八條　裁判所ニ於テハ何時ニテモ禁錮以上ノ刑ニ該ル可キ被告人ニ對シ勾引狀又ハ勾留狀ヲ發スルコトヲ得

○被告人召喚ニ應セス之ニ應スルモ逃亡若クハ證據湮滅ノ恐レアルトキハ何時ニテ被告人ハ刑事ニ訴ヘラレタル人ナリ

○公廷トハ裁判スル場所ナリ

○拘束トハ手錠及ヒ腰縄ノ如シ

○辯護人トハ本人ニ代リテ有罪無罪ヲ辯スル人ヲ云フ
○辯護士トハ今ノ代言人ト同一ナリ辯護士置カルマテハ代言人ヲ用ユ
○允許トハ裁判所ヨリノ許可ヲ云フ

モ勾引狀又ハ勾留狀ヲ發シ身體自由ヲ拘束スルコトヲ得ヘシ殊ニ其被告人ハ禁錮以上ノ刑ニ該ルヘキモノナレハ必ラス本人出頭ヲ要スルモノニアリ其理探審判事ノ勾引狀又ハ勾留狀ヲ發スルト同一ナレハナリ

第百七十九條　被告人ハ辯論ノ爲メ辯護人ヲ用ユルコトヲ得

辯護人ハ裁判所所屬ノ辯護士中ヨリ之ヲ選任ス可シ但裁判所ノ允許ヲ得タルトキハ辯護士ニ非サル者ト雖モ辯護人ト爲スコトヲ得

○被告人ハ身刑事ノ訴ヲ受ケアルヲ以テ心中大ニ苦痛シ如何ニシテ寃ヲ濯クヘキヤ如何ニシテ言ヒ譯ヲ爲スヘキヤ心、言ハントスルモ口、出ツル能ハサルヘシ殊ニ法律ニ通曉セス道理ニ明ラカナラサル徒ニ在ツテハ實ニ辯護ノ難キヿ思ヒ視ルヘシ果シテ然ランニハ被告人ハ有罪視セラルヽニ至リ不幸ノ極トナル之レ辯護權ヲ伸張セシムル爲メ本條ノ規定アル所以ナリ○辯護人中辯護士ヲ以テスルヲ正則トス之レ現今ノ代言人ナレハ法律ニ通シ事理ヲ明ラカニ知ルモノナレハナリ其他ノ

○法律上代理人トハ未成年者ノ父母、及ヒ後見人、禁治產者ノ後見人、夫ノ如シ

人ヲ用スルニ依テハ裁判所ノ允許ヲ要ス之レ其人ノ品行年齡身分等ニ關係ヲ有スルヲ以テノ故ナリ

第百八十條　辯護人ハ裁判所ニ於テ訴訟記錄ヲ閱讀シ且之ヲ抄寫スルコトヲ得

○辯護人ハ辯論ヲ爲サンニハ事件ノ模樣性質關係ノ人々等ヲ悉ク知ラサル可カラス之ヲ知ラシムルニハ訴訟記錄ニ依ルヲ以テ第一トス之レ本條ヲ設ケテ閱讀セシムルノミナラス必要ナル件々ハ抄寫スルコトヲモ許スヘキモノトス

第百八十一條　被告人ノ法律上代理人ハ其補佐人ト爲リ辯論ニ與カルコトヲ得

○法律上代理人ハ自己ノ責ヲ免カレ又ハ減スルカ爲メニ補佐人トシテ辯論ニ與カラシム蓋シ彼等ハ民事擔當人ナレハ私訴ノ原因タル公訴ニ於テ十分辯明セサル片ハ私訴ニ影響ヲ及ホシ終ニ賠償ヲ免カルルコトヲ得サルニ至ルヘケレハナリ

第百八十二條　被告人出頭シテ辯論スルコトヲ肯セサルトキハ對

○對席トハ被

告人ノ出頭シタルヲ云ヒテ欠席ト相對スル言詞ナリ○審問トハ取調ヲ云フ

席トシテ裁判ヲ爲ス可シ

被告人審問ヲ妨ケ又ハ不當ノ行狀ヲ爲シ裁判長ヨリ退廷又ハ勾留ヲ命セラレタルトキ亦同シ若シ辯論二日ニ渉ルトキハ更ニ被告人ヲ出頭セシム可シ

○被告人ハ辯護權ヲ有スルヲ以テ辯論ヲ爲ス權アリ之レヲ爲ササルハ此辯護權ヲ拋棄シタルモノト看做シ普通辯論ヲ爲シタルモノト同一ニ對席トシテ裁判セラルルナリ此區別ハ對席トセハ上訴ノミヲ許シ欠席トセハ故障及ヒ上訴ヲモ許スノ差アルモノトズ○被告人タルモノハ大概惡奸無賴ノ徒多ケレハ審問ヲ妨又ハ不當ノ行狀ヲナシ傲慢不遜ノ所爲ヲ爲スコアルヘシ之レ或ハ自己ノ不利益ナルヨリ之ヲ妨クニ外ナラス依テ是等ハ退廷又ハ勾留ヲ命シ以テ尙ホ對席トシテ裁判スルニアリ然レトモ成ルヘク正則ヲ貴フヲ以テ辯論二日以上ニ渉ルモノハ其次日ニハ必ラス出頭セシムヘシ之レ其退廷又ハ勾留ハ其爲シタル日ニ對スル所置トシ翌日ハ最早其所爲アルコトナシト看做ス若シモ尙ホ前日ト同シク所爲ヲ爲スニ於テハ矢張

○傲慢不遜トハ我儘氣儘無禮ノモノ等ヲ云フ

對席トシテ裁判スルコト前ニ同シ

第百八十三條　被告人精神錯亂又ハ疾病ニ因リ出頭スルコト能ハサルトキハ痊癒ニ至ルマテ辯論ヲ停止ス但罰金以下ノ刑ニ該ル可キ事件ニ付キ被告人代人ヲ差出シタルトキハ此限ニ在ラス

辯論ニ取掛リタル後被告人精神錯亂シタルトキハ其痊癒ノ後新ニ辯論ヲ爲ス可シ其他ノ疾病ニ罹ルトキハ痊癒ノ後前ニ停止シタルヨリ以後ノ手續ヲ爲ス可シ但五日間辯論ヲ停止シ又ハ檢事其他訴訟關係人ノ請求アリタルトキハ新ニ辯論ヲ爲ス可シ

若シ被告事件及ヒ法律ノ適用ニ付テ既ニ辯論ヲ終リタルトキハ其痊癒ノ後更ニ取調ヲ爲スコトナク裁判ヲ爲ス可シ

○辯護權ヲ貴重スルヨリ出ツル規定ニシテ被告人出頭セサルコトカ精神錯亂又ハ疾病ナルトキハ辯論ヲ爲スヘキ人ナケレハ從テ罪ヲ斷スル所謂ナシ故ニ痊癒スルマテ待ツハ勿論トス然レトモ其罰金科料ノ如キ代人ナシテ出頭セシメ得ヘキ事件ニ

○精神錯亂トハ神經病性ノモノニシテ彼ノ氣狂ヒノ如キヲ云フ

付テハ本人ハ假令病氣ナルモ代人ヲシテ自己ニ代ラシメ辯論スルヿヲ得ヘケレハ本人ノ痊癒ヲ待ツノ必要ナシトス○若シモ辯論ニ取掛リシ後ニ精神錯亂スルトキハ痊癒マテ見合シ其以前ノ辯論ハ取消シ更ニ辯論スルニアリ其他ノ病氣ナルトキハ其以前ノ分ハ存シテ以後ノ手續ニ取掛ルヘシ之レ其病ヒノ性質ニ依リ此區別アリトス一ハ即チ述ヘタルコトヲ忘ルルニアレトモ一ハ必ラス然ルニアラス故ニ五日間辯論ヲ停シ又ハ請求アルトキハ新ニ辯論ヲ爲サシム且ツ裁判官ト雖モ必要アルトキハ新ニ辯論ヲ命スルモ敢テ差支ヒナシ只法律ハ重復センヿヲ慮ハカルノミ○若シモ法律ノ適用マテ終リ只裁判言渡ノ一段ニ到リテ精神錯亂其他疾病ニ罹ルトキハ別段再調ノ必要ナケレハ只裁判ノミヲ言渡スニアリトス

○訴ヲ受ケサルトハ公訴及ヒ私訴ヲ爲ササルヲ云フ○附帶ノ犯罪トハ一人又ハ數人ニテ數罪ヲ犯シ其數罪相牽連スルモノヲ云フ第百八十五條列記ノ場合ノ如シ

第百八十四條　裁判所ニ於テハ訴ヲ受ケサル事件ニ付キ裁判ヲ爲ス可カラス但辯論ニ因リ發見シタル附帶ノ犯罪ニ付テハ此限ニ在ラス

若シ附帶ノ犯罪ニ付キ豫審ヲ必要ナリトスルトキハ本案ノ辯論ヲ停止スルコトヲ得

○不告不理ノ原則ハ貴トシ故ニ裁判所ハ訴出ヲナケレハ取調フル權ナシトス若シモ之ヲ爲シ得ヘシトセハ裁判官ハ檢事ト同一トナリ犯罪ヲ搜査シテ自ラ其犯罪ヲ裁判スルニ至ルヘケレハナリ然レトモ附帶犯罪ニ付テハ之ヲ例外ニ置ク蓋シ現ニ訴ヘタル事件ト密着ノ關係ヲ有シアレハ事實發見上大ニ便益アルヲ以テナリ而シテ此附帶犯罪モ自己ノ管轄權限內ノ事件ニアラサレハ裁判スヘカラス例ヘハ區裁判所ニ於テ附帶犯罪トシテ重罪ノ發ハルルトキノ如キハ必ラス管轄違ノ裁判ヲ爲ササルヘカラス○附帶犯罪ハ事實常ニ明瞭ナルヲ以テ別ニ他ノ手續ヲ以テ取調ヲ要スルニモ及ハサルヘシト雖モ其事件ニ依リ必要ナリトスルトキハ豫審ニ送付シ本案ノ辯論ヲ停ムヘシ彼ノ重罪事件ノ附帶シテ發見シタル時ノ如シ

第百八十五條　左ノ場合ニ於テハ附帶ノ犯罪ナリトス

第一　同一ノ場所ニ於テ同時ニ一人又ハ數人ニテ數罪ヲ犯シタルトキ

○通謀トハ申合セ卽チシメシ云ヒ合ス
○容易トハ「シヤスキ」ヲ云フ

第二　數人通謀シテ日時又ハ場所ヲ異ニシ數罪ヲ犯シタルトキ

第三　自己又ハ他人ノ犯罪ヲ容易ニスル爲メ又ハ其罪ヲ免カルル爲メ他ノ罪ヲ犯シタルトキ

○偶然トハ前ヨリ仕組マスシテ風ト出來合フヲ云フ

○本條ハ附帶犯罪ト稱スル場合ヲ示シタリ○第一ハ只數罪カ時ト場所トノ牽連セルヤ否ヤヲ必要トシ人數ト其犯罪ノ目的トニハ關係ナシ○第二ハ數人ノ通謀セシヤ否ヤヲ必要トシ時ト場所ノ牽連ニハ關係ナシ○第三ハ一犯罪カ他ノ犯罪ノ原因タルヤ否ヤヲ求ムルヲ必要トス而シテ此原因ニモ二ノ區別アリテ故意ト偶然トニ分カル以上ノ諸例ハ余ノ本法釋義下卷二百九十ページヲ一讀スヘシ偖テ附帶犯罪トシテ起訴ナキモ何故裁判所ハ裁判スル權アルヤト云フニ相牽連セルモノナルヲ以テ事實ノ全豹ヲ知ルコトヲ得ヘキノミナラス情狀ヲ酌量スルヲ知ルコトヲ得ヘクシテ其一部分ニ於テ起訴アルヲ以テ其全部ニ對スルモ共ニ起訴アリシモノト看做シテ裁判ヲ爲スニアリトス

○管轄違トハ犯罪ノ種類、場所、身分等ヲ包含ス○公訴受理スヘカラサルハ第六條ノ各項ノ如シ

○冗費トハ無駄ナ事ヲ云フ

第百八十六條　檢事及ヒ被告人ハ第一審第二審ヲ問ハス本案ノ判決アルマテ何時ニテモ管轄違又ハ公訴受理ス可カラサル申立ヲ爲スコトヲ得

裁判所ニ於テハ職權ヲ以テ管轄違又ハ公訴受理ス可カラサル言渡ヲ爲スコトヲ得

○公訴ヲ受理シ又ハ裁判ノ管轄ヲ定ムルハ之レ法律ノ威嚴ト信用トヲ維持スルニ於テ必要ニシテ然ラスシテ漫リニ爲ストキハ法律上裁判管轄ヲ定メ公訴ノ受理不受理ノ條項ヲ定ムルモ徒法トナルヘシ且ツ申立ヲ許ササルトキハ其裁判所カ行ヒタル手續ハ無効トナリ消費シタル日子ト費用ハ冗費トナリ被告人ニモ困難ヲ感セシムルニ至ルヘシ之レ本條アル所以ナリ而シテ管轄違公訴受理スヘカラサル場合ハ其審理中ノ裁判所ノミナラス第一審ノ裁判所ノ誤リアル場合モ申立ツルヿヲ得ヘシ第一審ノ言渡シニ對シ第二審ニ於テ第一審裁判所ノ言渡ハ管轄違ヒナリト云フカ如シ之レ第一審第二審ヲ問ハスト明記アル所以トス

第百八十七條　裁判所ニ於テ前條ノ申立ヲ却下シタルトキハ本案ノ判決ヲ待タス直チニ控訴又ハ上告ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ本案ノ辯論ヲ停止ス

○管轄違又ハ公訴受理スヘカラサルノ申立アリテ裁判所ニ於テ之ヲ不當トシ却下シタル時ハ本案ノ判決ヲ得タス上訴ヲ爲スヿヲ得セシムルハ蓋シ本案ニ大關係ヲ及ホスヲ以テナリ若シ然ラストセハ此却下カ不當ナルトキハ本條ノ判決ノ手續カ總テ無効トナルヲ以テ無益ノ手數ヲ爲サシメサルニアリ又此場合ニ本案ノ辯論ヲ停止スルハ上訴セシカ爲メニアリトス

○不確的トハ慥カナラサルヲ云フ

第百八十八條　調書ヲ作リタル司法警察官ハ檢事其他訴訟關係人ノ請求ニ因リ又ハ裁判所ノ職權ヲ以テ證人トシテ之ヲ呼出スコトヲ得

○司法警察官ニ於テ第百四十七條ノ場合ニ於テ假ニ豫審判事ノ職務ヲ行ヒ爲メニ作リタル調書ニシテ不明瞭ナリ又ハ不確的ナル個所アルトキハ訴訟關係人ノ請求ニ因リ又ハ裁判所ノ職權上之レカ説明ノ爲メ呼出スヿヲ得ヘシ蓋シ調書ヲ作リタルハ假リニ爲シタルモノニシテ豫審判事ノ爲シタルカ如クナラス故ニ呼出スモノトス而シテ此警察官ニ證人トスルモ直接ノ證言ヲ爲スニアラスシテ間接ノ證言即チ證人被告人ノ供述ニ付テノ證言ヲ爲スニ外ナラサルモノトス

○比較トハ豫審ノ供述鑑定ト公判ノ供述鑑定トヲ一クヲ云フ

第百八十九條　豫審ニ於テ訊問シタル證人又ハ鑑定ヲ爲シタル鑑定人ハ更ニ之ヲ呼出スコトヲ得

豫審ニ於ケル證人ノ供述書又ハ鑑定人ノ鑑定書ハ更ニ其證人、鑑定人ヲ呼出ササルトキ、證人、鑑定人呼出ヲ受ケ出頭セサルトキ又ハ豫審及ヒ公判ニ於ケル供述、鑑定ヲ比較ス可キトキハ檢事其他訴訟關係人ノ請求ニ因リ又ハ裁判長ノ職權ヲ以テ之ヲ朗讀セシムルコトヲ得

○朗讀トハ分カル樣ニ讀ミ

○豫審ニ於テ已ニ訊問シタル證人又ハ鑑定人ヲ公判廷ニ再ヒ呼出スハ蓋シ豫審ニ於ケル不備又ハ矛盾ヲ發見シ正誤スルカ爲メニ外ナラス而シテ供述書又ハ鑑定書

上ケルナリ

ヲ朗讀スルハ下ノ場合ニ於テス○第一證人鑑定人ヲ呼出ササルトキ○第二證人鑑定人ヲ呼出スモ出頭セサルトキ○第三證人鑑定人出頭シテ供述シ又ハ鑑定シタルトキ豫審ニテノ供述又ハ鑑定ト比較スルトキニアリ而シテ第一第二ハ證人ノ供述鑑定人ノ鑑定シタルト同一ノ効力アリトス

○部員トハ刑事部ノ裁判官ヲ云フ

第百九十條　第百十五條以下ノ規定ハ公判ノ鑑定人ニモ亦之ヲ準用ス

○別ニ説明スル点ナシ其準用トハ適用ト異ニシテ準據シテ用サテ差支ナキモノノミヲ用スルトノ意ナリ

第百九十一條　證人疾病其他正當ノ事故ニ因リ出頭スル能ハサルコトヲ疏明シタルトキハ裁判所ハ其部員一名ニ命シ又ハ區裁判所判事ニ囑託シ其所在ニ就テ之ヲ訊問セシムルコトヲ得

○本案ハ第百十六條ト同一ニシテ彼ハ豫審判事自ラ所在ニ就キテ訊問シ此ハ部員一名又ハ區裁判所判事ニ囑託スルニアリ此區別タル豫審ハ密行ナレハ他ニ之ヲ漏

スヲ厭ヒ公判ニ裁判官數人アルヲ以テ殘ラス出張スルカ如キハ煩ナルノミナラス事務モ多端ナレハ夫レ等ノ点ヨリシテ一名又ハ區裁判所判事ニ囑託スルニアリ

○氏名目錄トハ證人ノ名前付ケナリ

第百九十二條　檢事、被告人及ヒ民事原告人ノ請求ニ因リ呼出ス證人ノ氏名目錄ハ開廷ヨリ一日前之ヲ各相手方ニ送達ス可シ

○其證人ヲ通知スルハ相手方ニ於テ之レカ相當ノ防禦ヲ準備セシムルカ爲メナリ然ラサレハ不意ニ不利益ナル證人ノ出廷シテ爲メニ之ヲ禦クニ苦シマシムルヲ以テナリ又一日前トシテ餘地ヲ多ク與ヘサルハ奸策ヲ防クカ爲メナリトス

○防禦ヲ準備ストハ不利益トナルヲ以テ之ヲ防ク用意ヲ爲スナリ

第百九十三條　證人ハ互ニ言語ヲ接ス可カラス又供述前辯論ニ立會フ可カラス既ニ供述ヲ爲シタル後ハ公廷ニ留ル可シ但裁判所ヨリ退去ノ允許ヲ得タルトキハ此限ニ在ラス

○互ニトハ證人ノ二人以上アル場合ヲ云フ

○證人互ニ言語ヲ接シ又ハ辯論ニ立會フトキハ互ヒニ雷同シ又ハ一致シ假令證人多クナキモ被告人又ハ被害者ノ利不利ヲ謀リ以テ供述ヲナシ終ニ事實ノ眞箇ヲ得ルヿナシ又供述後退去セシムルトキハ次ニ供述セシムル證人ト申合セヲ爲スノ恐レア

○雷同トハ人ノ云フ通リニ從フヲ云フ○一致トハ互ヒニ相談シテ同

服トナルヲ云フ

○矛盾重復トハ互ニ齟齬即チ行キ違ヒト二重トヲ云フ

ルヲ以テ公廷ニ留マラシム尤トモ以上ノ恐レナク又ハ證人一名ノ時ノ如キハ公廷ニ留マルノ必要ナケレハ裁判所ヨリ出廷ヲ允許スルヿアルモノトス

第百九十四條　證人及ヒ被告人ノ訊問ハ裁判長之ヲ爲スモノトス」陪席判事及ヒ檢事ハ裁判長ニ告ケ證人及ヒ被告人ヲ訊問スルコトヲ得

訴訟關係人ハ辯論ニ必要ナリトスル事項ヲ分明ナラシムル爲メ證人ヲ訊問ス可キコトヲ裁判長ニ求ムルヲ得

○公廷ノ錯雜ト訊問ノ矛盾重復トヲ避ケンカ爲メ訊問ハ裁判長之ヲ爲スモノトス然レトモ未タ盡ササル所アリトセハ陪席判事及ヒ檢事ト雖モ訊問スル權ヲ有ス而シテ訴訟關係人ハ直接ニ證人ヲ訊問スル權ナキモ必要アル場合ハ裁判長ニ訊問ノ事ヲ求ムルコトヲ得ヘシ尤トモ此請求ハ裁判長ニ於テ不必要ナルトキハ之ヲ拒ム權アリ之レ故ナク訊問ヲ求メ訴訟ヲ延滯スル恐レアルヲ以テナリ末項ニ證人ノミニ付テ規定アルモ被告人ニ對シテ訊問ヲ求ムルハ勿論ナリトス

○不實トハ眞實デナキヲ云フ○故意トハ態トナリ

○錄取トハ書キ取ルヲ云フ

○具備トハ「ソロウ」ナリ

第百九十五條　證人又ハ鑑定人ノ供述不實ニシテ故意ニ出テ禁錮以上ノ刑ニ該ル可キ者ト思料シタルトキハ裁判所ニ於テ檢事其他訴訟關係人ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ之ヲ取押ヘ勾引狀ヲ發シ豫審判事ニ送致ス可シ

其證人又ハ鑑定人ノ供述ハ裁判所書記之ヲ錄取シ豫審判事ニ送致ス可シ

本條ノ場合ニ於テハ裁判所ニテ檢事其他訴訟關係人ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ本案ノ辯論ヲ停止スルコトヲ得

○證人又ハ鑑定人ニシテ(第一)供述ノ不實ナルヿ(第二)故意ニ出テタルヿ(第三)禁錮以上ノ刑ニ該ルトキノ三條件具備スルトキハ之ヲ取押ヘ勾引狀ヲ發シテ豫審判事ニ送致スルモノトス若シモ禁錮以上ノ刑ニ該ラサルモノ即チ罰金又ハ違警罪ノ刑ニ該ルモノナルトキハ別ニ勾引狀ヲ發シ豫審判事ニ送致スルノ要ナク直チニ公判ヲ開キ裁判スルニアリトス而シテ錄取スルハ僞證罪アリヤ否ヤヲ取調フルニ材料

トスルノミナラス僞證罪ノ原因トモナルヘキモノナリ又本案ノ辯論ヲ停止スルハ僞證トナルト否ヤニ付キ本案ノ裁判ニ影響ヲ及ホスヲ以テノ故ナリ

○面前トハ眼ノ前ヲ云フ

○退廷トハ公廷ヨリ一時退ソカスヲ云フ

第百九十六條 被告人聾者、啞者又ハ國語ニ通セサル者ナルトキハ第百條第百一條ノ規定ニ從フ

○第百條第百一條ヲ一見セヨ十分了解スヘシ

○共同被告人トハ同事件ノ連累ヲ云フ

第百九十七條 裁判所ニ於テハ證人被告人ノ面前ニ於テ十分ナル供述ヲ爲スコトヲ得サル可シト思料シタルトキハ其證人ノ供述中被告人ヲ退廷セシムルコトヲ得但裁判長ハ證人供述ヲ終リタル後被告人ヲ入廷セシメ其供述シタル事項ヲ告知ス可シ

本條ノ規定ハ共同被告人ニモ亦之ヲ適用ス

○被告人ヲ退廷セシムルハ證人ノ或ハ愛憐ノ情ヨリ或ハ憤怒ヨリ或ハ畏懼スルヨリ眞實ヲ陳述スルコトナシト思料シタルトキニ爲ス手續トス之レ事實ノ眞實ヲ得ンカ爲メナリ其後ヨリ告知スルハ被告人ニ辯護ヲ爲サシムル爲ナリ○共同被告人ノ

○證憑トハ證據ト徵憑トヲ云フ

○辯解トハ言ヒ譯ケ解キ明カシヲ爲サシムルヲ云フ

○公判手續トハ無効ノ記載アル規則モ遵背シタルトキハ勿論假令制裁ナキトキト雖モ手續ハ手續ナリ

問ニ於テモ亦同一ナリトス蓋シ何レモ常ニ被告人ニ不利益ナル事アルカ故トスアリヤ否ヤヲ問ヒ且其利益ト爲ル可キ証憑ヲ差出スヲ得ヘキコトヲ告知ス可シ

又証憑物件ハ被告人ニ示シテ辯解ヲ爲サシムヘシ

○被告人ヲシテ辯護權ヲ伸張セシムル方法タリ斯ノ如ク注意ヲ加ヘ以テ公平ニ裁判ヲ爲スニヨリ被告人モ亦法律ヲ知ラサルヨリ証憑アルニモ拘ハラス之ヲ差出スヲ知ラスシテ寃罪ヲ被ムルコトアレハナリ又證據物件ヲ示シテ辯解セシムルハ事實ヲ發見スルニ於テ必要ニシテ一ハ亦被告人ノ無罪ヲモ感スル利益アレハナリ

第百九十九條 辯論中公判ノ手續ニ付異議ノ申立アリタルトキハ裁判所ニ於テ檢事ノ意見ヲ聽キ直チニ之ヲ裁判ス可シ

○公判手續ハ總テ社會ノ利益ト被告人ノ利益トヲ謀ラサルモノナシ然ニ裁判所ニ於テハ其規則ニ遵背シタル手續ナナシタルトキハ正當ニ復サシメサルヘカラス此權

ヤ訴訟關係人ニアリテ何時ニテモ異議ノ申立ヲ爲スコトトス裁判所ハ檢事ノ意見ヲ聽キ直チニ裁判スルモノトス而シテ此裁判ニ棄却ノ言渡アルトキハ如何舊治罪法ニ在テハ上訴ヲ爲スヿヲ許ス明文アルモ今之ヲ刪除シタレハ別ニ上訴ヲ爲スヿヲ許ササルカ余ハ明記ナキヲ以テ上訴ヲ許ササルカ如シト雖モ一方ヨリ考フルトキハ上訴ヲ許ササルトキハ異議申立ヲ許スモ其効ナキカ如シ然レトモ第二百五十條第二百六十七條ニ明記ナキヲ以テ先ツ上訴ヲ許サスト云フ方穩當ナラン乎余ハ只疑ヒヲ存ス但シ本案ノ判決後本案ト共ニ上訴ヲ爲スヲ以テ事足ルトセシヤ知ルヘカラス

第二百條　裁判所ニ於テハ公訴ノ判決ト同時ニ私訴ノ判決ヲ爲ス可シ

私訴ニ付キ取調未タ十分ナラサルトキハ公訴ノ判決アリタル後其判決ヲ爲スコトヲ得

○公訴私訴ハ一ニ同事件ナルヲ以テ同時ニ判決スルヲ以テ原則トス然レトモ私訴ハ取調ノ都合上後日ニ廻スヿ多キヲ以テ公訴ノ裁判後私訴ノ判決ヲ爲スヿヲ得ヘシ而シテ私訴ヲ先キニシ公訴ヲ後ニ廻スハ法律ハ之ヲ禁ス之レ私訴ハ其原因ハ公訴ナリ然ルニ其原因ヲ後ニスルカ如キハ前後順序ニ於テ不當ナルノミナラス私訴裁判ノ影響公訴ノ裁判ニ及フノ恐レアルヲ以テ必ラス私訴ハ公訴ニ先ツヘカラサルナリ

第二百一條　被告人有罪ト爲リタルトキハ裁判所ノ職權ヲ以テ公訴ニ關スル訴訟費用ノ全部又ハ一分ヲ負擔ス可キ言渡ヲ爲ス可シ

免訴又ハ無罪ノ言渡アリタル場合ニ於テ公訴ニ關スル訴訟費用ハ國庫之ヲ負擔ス

私訴ニ關スル訴訟費用ノ負擔ハ民事訴訟法ノ規定ニ從フ

○公訴ノ訴訟費用ハ被告人有罪即チ曲者トナリタルトキハ其全部又ハ一分ヲ被告人ニ於テ負擔セサルヘカラス其一分ノ場合ハ假令被告曲者ナルモ檢事又ハ判事ニ於

○國庫トハ國ノ負擔トナルヲ云フ大藏省ヨリ拂ヒ出スナリ

テ無益ノ證人又ハ鑑定人ヲ呼出スヿナシトセス其場合ニ於テハ幾分カ官ノ曲者ナルヘケレハ一分ノミヲ負ハシム次ニ被告人免訴又ハ無罪即チ直者ナルトキハ從テ國庫ノ負擔トス之レ公訴ヲ起スヘカラサルニ起シタル爲メナリ○私訴ノ訴訟費用ハ民事訴訟法ノ費用ト同一ノ規定ヲ適用ス其詳細ハ余カ著ス民事訴訟法釋義上卷ヲ一讀スヘシ結局曲者ヨリ償却スルニ外ナラストス

○還付トハ返却ノ意ナリ

第二百二條　被告人有罪ト爲リタルト否トヲ問ハス沒收ニ係ラサル差押物ハ所有者ノ請求ナシト雖モ之ヲ還付スル言渡ヲ爲ス可シ

○占有ト所持ト同シ

○差押物ハ被告人有罪ト否トニハ少シモ關係ナク其犯罪ノ用ニ供シタルモノ又ハ犯罪ニ因リテ得タル物(所有主ノ知レサルトキ)又ハ法律上禁制シタル物等苟クモ官ニ沒收セサルモノハ總テ其所有主ニ還付スル言渡ヲ爲スヘシ○此所有主トハ所有權ヲ有スル人ト狹ク見ルヘカラス彼ノ他人ヨリ借受ケタル物ヲ窃取セラレタルトキノ如キハ其物ハ必ラス借用主ニ還付スヘシ故ニ所有者ノ中ニハ正當ニ占有セシ人ヲモ包含スト知ルヘシ

○事實ノ理由トハ年月日時何所ニ於テ何々ノ手段ヲ以テ誰ノ物ヲ盜取スト云フカ如シ○法律ノ理由トハ刑法第何條ト云フカ如シ

第二百三條　刑ノ言渡ヲ爲スニハ事實及ヒ法律ニ依リ其理由ヲ明示シ且犯罪ノ證憑ヲ明示ス可シ

無罪又ハ免訴ノ言渡ヲ爲スニ付テモ亦其理由ヲ明示ス可シ

○刑ノ言渡ヲ爲スニハ事實及ヒ此事實ノ證憑且ツ法律ヲ示ササルヘカラス何ントナレハ法律ヲ適用センニハ事實ナカラサルヘカラス事實ハ刑ノ言渡ヲ爲ス原因トナルモノナリ又犯罪ヲ認定スルニハ其證憑ナカラサルヘカラス然ラサレハ何ニ依テ犯罪アリト認メタルヤ知ルヘカラス次ニ法律ノ正條ヲ明示セサレハ刑ノ言渡ハ何ニ因テ爲シタルヤ知ルヘカラス例ヘハ窃盜アリト云フモ事實ヲ示ササレハ如何ナル窃盜ヤ知ルヘカラス又二月ノ重禁錮ニ處スト云フモ法律ノ正條ヲ示ササレハ刑法第何條ニ依リタルヤ知ルヘカラス又事實ヲ認ムルモ何ニ依リテ認メタルヤ知ル可ラス故ニ何々ノ證據アリト示スヘシ○無罪又ハ免訴ノ言渡ニ付テモ亦事實ト法律トノ理由ヲ明示セサルヘカラス例ヘハ何々ノ事實アルモ刑事訴訟法第二百二

十四條ニ依リ無罪ヲ言渡ストカ又ハ免訴ヲ言渡ストカ云フカ如シ而シテ此場合ハ別ニ證憑ヲ明示スルニ及ハス單ニ被告事件ノ模樣ト法律ニ定メタル免訴無罪ノ性質トヲ示セハ事足ルヘシ故ニ本條第二項ニハ別ニ證憑ヲ示スヘシト明記セス

○即日トハ其ノ日ナリ○判決主文トハ被告人何某ヲ何年ノ重禁錮ニ處シ六ケ月ノ監視ニ付スト云フ類ヲ云フ

第二百四條　判決ノ言渡ハ辯論ヲ終リタル後即日又ハ次ノ開廷日ニ之ヲ爲ス可シ

判決ノ言渡ハ判決主文ノ朗讀ニ因リ之ヲ爲ス其判決ノ理由ハ判決ノ言渡ト同時ニ之ヲ朗讀シ又ハ口頭ニテ其要領ヲ告ク可シ

○判決ハ辯論ヲ終ラサレハ爲スヿヲ得サルハ辯論ノ結局ニ依テ有罪無罪ノ認定ヲ爲スニアレハナリ而シテ其言渡ハ即日又ハ次日ノ開廷日ニ於テスルハ判事ノ怠慢ヲ防キ且事務ノ繁簡等アルニ依リ必ラス即日ト爲ササルナリ其言渡ノ方法ハ判決主文ノ朗讀ニ因リテ爲シ且同時ニ理由ヲ言渡ス之レ主文ノ原因ヲ知ラシムルニアリ其理由ニ至テハ朗讀ト口頭告知ノ二種アルハ一丁字ヲ知ラサルモノヽ爲メニ信用上ヲ慮ハカリ爲スニアリトス

○理由トハ事實ト法律ノ二個ノ理由ナリ○要領トハ其大要主旨トスルヿヲ云フ

○朗讀トハ讀ミ上ルヿヲ云フ

○正確トハ確シカナルヿヲ云フ

○抄本トハ拔キ書ト同一ナリ

○對席トハ被告人ノ出廷シタルモノヲ云フ

第二百五條　判決ノ原本ニハ其裁判ヲ爲シタル裁判所、年月日、其事件ニ干與シタル檢事ノ官氏名ヲ記載シ判事、裁判所書記共ニ署名捺印ス可シ

○原本ニハ皆正確ナルカ爲メニシテ正當ノ掛リ官ナルヿ正當ノ管轄裁判所ナルヿト及ヒ年月日ノ如キハ上訴期間時効刑起計算上ニ必要アルカ爲メニ記載スルナリ

第二百六條　訴訟關係人ハ其費用ヲ以テ判決ノ正本、謄本又ハ抄本ヲ求ムルコトヲ得但上訴ノ爲メ其求ヲ爲シタルトキハ書記ヨリ二十四時内ニ之ヲ下付ス可シ

○公廷ニテ言渡セハ以テ足ルナレトモ尚ホ了知セントセハ自己ノ費用ヲ以テ正本謄本又ハ抄本ヲ求ムルヿヲ得ヘシ尤モ上訴ノ爲メナルトキハ二十四時内ニ下付スルハ上訴ニ期間アリテ爲メニ時機ヲ失ハシメサルニアリトス

第二百七條　對席判決ニ因リ刑ノ言渡アリタルトキハ裁判長ヨリ其言渡ヲ受ケタル者ニ前條ノ請求及ヒ其判決ニ對シ上訴ヲ爲ス

ヲ得ヘキコト及ヒ其期間ヲ告知シ又欠席判決ニ因リ刑ノ言渡アリタルトキハ其判決ニ對シ故障ヲ爲スヲ得ヘキコト及ヒ其期間ヲ記載ス可シ

若シ其告知又ハ記載ナキトキハ更ニ其通知アルマテ上訴及ヒ故障期間ノ經過ヲ停止ス

○對席者ニ對シテ裁判書ノ正本謄本又ハ抄本ヲ求メ其言渡ニ對シテハ上訴ヲ爲シ得ヘキヿ及ヒ其期間ヲ告知シ欠席者ニ對シテハ故障ヲ爲スヿ及ヒ其期間ヲ言渡書ニ記載スルハ蓋シ被告人ヲシテ法律アルニ拘ハラス注意ヲ爲シ遺憾ナカラシム被告人ハ常ニ斯ノ如キ手續アルヿヲ知ラサルモノ多ケレハ保護ヲ與フルニアリ故ニ若シモ其告知ヲ爲サス記載ナキトキハ更ニ告知スルマテ上訴及ヒ故障ノ期間ハ停止セラルヽモノトス之レ恩典ノ結果ナリトス而シテ此告知及ヒ記載ハ刑ノ言渡アリタルモノニ限ルハ蓋シ被告人ノ不利益ナル地位ニ立チタルヲ以テナリ若シモ之レカ免訴無罪ノ言渡ナルトキハ別ニ上訴スヘキモノナリ故障ヲ起スヘキモノナケレ

ハ從テ告知又ハ記載スルノ必要ナケレハナリ

第二百八條　裁判所書記ハ公判始末書ヲ作リ左ノ事項其他一切ノ訴訟手續ヲ記載ス可シ

第一　公ニ辯論ヲ爲シタルコト又ハ公開ヲ禁シタルコト及ヒ其事由

第二　被告人ノ訊問及ヒ其供述

第三　證人、鑑定人ノ供述及ヒ宣誓ニ爲シタルコト若シ宣誓ヲ爲ササルトキハ其事由

第四　證據物件

第五　辯論中異議ノ申立アリタルコト、其申立ニ付キ檢事其他訴訟關係人ノ意見及ヒ裁判所ノ裁判

第六　辯論ノ順序及ヒ被告人ヲシテ最終ニ供述セシメタルコト

○公判始末書ハ一件ノ公廷上生シタル事柄ヲ一切記載シタルモノニシテ後日ノ證左トナルヘキモノタリ若シモ上訴ヲナシタルトキハ上訴裁判所ハ始末書ニ據テ上訴ノ當否ヲ判定スヘシ又公廷上ノ整不整ニ依リ被告人其他民事原告人ハ上訴ヲ爲スコトヲ得ヘシ例ヘハ公判ハ必ラス公開ス然ルニ公開ヲ爲ス其言渡ヲモ爲ササルトキハ之ヲ上訴スルヿヲ得ヘシ之レヲ證スルハ公判始末書ニ據ラサレハ別ニ證據ナシ其他被告人證人鑑定人等ノ供述ノ如キ別ニ豫審ノ如ク調書ヲ作ラサルヲ以テ始末書ニ詳細記載セサレハ前後情狀ヲ知ルヿ難シトス

第二百九條　公判始末書ニハ前條ニ記載シタル本項ノ外裁判ニ爲シタル裁判所、年月日、裁判長、陪席判事、檢事及ヒ裁判所書記ノ官氏名ヲ記載ス可シ

辯論數日ニ渉ルトキハ其旨及ヒ同一ノ判事出席シタルコトヲ記載ス可シ

辯論中補充判事ヲシテ代ラシメタルトキハ其旨ヲ記載ス可シ

○本條ノ數事項ヲ記載スルハ裁判所ヲ構成セシヤ否ヤニ付キ判定スルニ必要ヲ生シ補充判事ノ代ルカ如キハ裁判所構成法ニ違背シタルヤ否ヤヲ判定スルニ必要タリ裁判所ノ如キハ管轄ヲ判定スルニ必要ナルヲ以テナリトス

○整頓トハ始末書ヲ作リ上ケルヲ云フ

第二百十條　公判始末書ハ判決言渡ヨリ三日内ニ之ヲ整頓シ裁判長及ヒ裁判所書記署名捺印ス可シ

裁判長ハ署名捺印セサル以前ニ公判始末書ヲ檢閲シ若シ意見アルトキハ其紙尾ニ記載ス可シ

○公判始末書ハ三日内ニ整頓スルハ餘リ永クスルニ於テハ事項ヲ忘却スルノミナラス上訴スルトキハ相當期間内ニ一件記錄ヲ送致セサルヘカラサルヲ以テナリ其署名捺印ハ之ヲ證明スル爲メ又書記ト雖モ閑誤リ等アルヲ以テ判事ハ其聽キシヿヲ記載スルノミ而シテ之ヲ終尾ニ記載スルハ互ヒノ職權ヲ侵ササルニアリ書記ハ聽キタル儘之ヲ筆記シ判事ノ威ヲ以テ之ヲ訂正セシムルノ權アラサルナリ

第二百十一條　判決及ヒ公判始末書ノ原本ハ訴訟記錄ニ添付シ其

○保存トハ永ク殘シ置クニアリ

裁判所ニ保存ス可シ若シ上訴アリタルトキハ之ヲ上訴裁判所ニ送付ス可シ

○之ヲ保存スルハ後日ノ爲メナリトス上訴アルトキハ上訴裁判所ニ於テ判定ノ材料トシテ之ヲ送付スルモノトス

第二章　區裁判所公判

第二百十二條　區裁判所ハ左ノ場合ニ於テ其管轄ニ屬スル違警罪及ヒ輕罪ノ公訴ヲ受理ス

第一　檢事ノ起訴アリタルトキ

第二　豫審判事又ハ上級裁判所ヨリ事件ヲ移ス裁判アリタルトキ

○受理トハ受ケ付クルニアリ○起訴トハ公訴ヲ起スヲ云フ○上級裁判所トハ地方裁判所以上ノ裁判所ヲ總稱ス

○區裁判所ノ受理シテ裁判シ得ヘキ件ハ第一第二ノ場合ニアリトス即チ第一ハ第六十三條ノ如ク檢事ヨリ直チニ起訴シ第二ハ第百六十六條又ハ第二百六十二條第三百九十條ニ依リ上級裁判所ヨリ區裁判所ニ於テ裁判スルカ爲メ移シ或ハ第三十

一條ノ如ク管轄ヲ指定シテ其管轄ナリトスル時ニ受理シ裁判スルモノトス而シテ區裁判所ニハ重罪事件ヲ裁判スル權ナキニ依リ特ニ違警罪及ヒ輕罪ノ公訴ヲ受理スト明記シタルニアリトス

第二百十三條　檢事ハ何レノ場合ニ於テモ被告人ニ對シ呼出狀ヲ發ス可キコトヲ裁判所ニ請求ス可シ

裁判所ハ裁判所書記ヲシテ被告人ニ對シ呼出狀ヲ發セシム可シ

○裁判スルニハ被告人ノ出頭ヲ第一必要トス故ニ檢事ヨリ呼出狀ヲ發スルヿヲ裁判所ニ求ム裁判所ハ書記ヲシテ呼出狀ヲ發セシムルモノトス

第二百十四條　呼出狀ニハ呼出ヲ受ク可キ者ノ氏名、職業、住所、出頭ノ日時、場所及ヒ被告事件ヲ記載シ且被告事件違警罪又ハ罰金ニ該ル可キ輕罪ナルトキハ代人ヲシテ出頭セシムルコトヲ得ヘキ旨ヲ記載ス可シ

若シ被告事件ノ記載ナキ場合ニ於テ被告人未タ其事件ニ付キ取

○何レノ場合トハ前條ノ第一及ヒ第二ノ場合ヲ云フ

○準備トハ用意ヲ爲スニアリ

調ヲ受ケサリシトキハ辯護準備ノ爲メ二日ノ猶豫ヲ求ムルコトヲ得

○呼出狀ノ書式ヲ記載ス而シテ其代人ノ出頭ヲ許スハ本件カ微罪且勾留ヲ爲サザルモノニシテ身体ノ刑ニ當ラザルモノナレハナリ○又被告事件ノ記載ナキトキハ如キハ被告人ヲシテ何等ノ事件ナルヤ知ル能ハス從テ辯護ノ準備ヲ爲ス能ハサラシムルカ故ニ出頭シテ猶豫ヲ求ムルヿヲ得ヘキモ其取調ヲ受ケタルトキハ最早之レカ甘ンシテ受ケタルニアレハ猶豫ヲ求ムルヿヲ許サザルモノトス之レ當然タリ

第二百十五條　呼出狀ノ送達ト出頭トノ間少クトモ二日ノ猶豫アル可シ

○整理トハ家内ノ事ヲ取片付ケルヲ云フ

○本條ノ猶豫ハ辯論ノ準備ト家事ノ整理ト若シモ他出中ナルトキハ呼戻ス等ノ事アルヨリ與ヘタルニアリトス

第二百十六條　判事ハ豫審ヲ經サル被告事件急速ヲ要スルトキハ公判ニ取掛ル前檢證處分ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ檢事其他訴訟關係人ノ立會ヲ要セス

○豫審ヲ經サル事件ハ未タ檢証處分ヲ爲サザルモノナレハ證據湮滅ノ恐レアルモノニ付テハ公判ヲ開カザル前ト雖モ檢證處分ヲ爲スヿヲ得其場合ハ急速ヲ要スルヲ以テ別ニ檢事其他訴訟關係人ノ立會ヲ要セストス之レ時機ヲ失シテ被告人ノ不利益ト爲リ社會ノ損害トナルコトアルヲ以テナリ

第二百十七條　證人ハ呼出狀ノ送達ト出頭トノ間少クトモ二十四時ノ猶豫ヲ以テ之ヲ呼出ス可シ

又呼出ヲ受ケスシテ出頭シタル者ト雖モ異議ノ申立ナキトキハ裁判所ニ於テ證人トシテ其供述ヲ聽クコトヲ得

○異議トハ二十四時以上ノ猶豫ナシト云フ故障ナリ

○證人ノ猶豫ハ被告人ノ猶豫ヨリ短キハ別ニ準備ヲ爲ス要ナク且長ク與フルトキハ被告人ト相通謀シテ事實ヲ曲ケ又ハ證人モ見聞スルコトヲ忘却スルノ恐レアレハナリ○證人ニシテ呼出ヲ受ケスシテ出頭シタル者アルトキハ別ニ異議ノ申立ヲ爲サザルニ於テハ直チニ證人トシテ供述ヲ聽クヿヲ得之レ便利ナルヲ以テナリ

○通謀トハ相談ヲ爲スナリ

第三百十八條　判事ニ先ツ被告人ノ氏名、年齢、身分、職業、住所、出生ノ地ヲ問フ可シ

檢事ハ被告事件ヲ陳述ス可シ

○判事ハ先ツ公判ニ取掛ルニ當リ被告人ノ人違ヒニアラサルヤ否ヲ確ムルカ爲メ第一項ノ如ク問ヲ起シ一々答ヘシム○檢事ハ公訴ノ原告人ナリ故ニ先ツ其事件ヲ陳述スルモノトス之レ訴訟法ノ原則ニシテ訴ヘタルモノ先ツ訴ヘタル旨趣ヲ述フルニアリトス

第二百十九條　判事ハ被告事件ニ付キ被告人ヲ訊問ス可シ

必要ナル調書其他證憑書類ハ書記ヲシテ朗讀セシメ又證人ノ供述ヲ聽キ其他證憑ノ取調ヲ爲ス可シ

若シ被告人ノ自白アリタル場合ニ於テ檢事、民事原告人ノ異議ナキトキハ他ノ證憑ヲ取調フルニ及ハス

○判事ハ原告官ノ陳述ノ如ク相違ナキヤ否ヤヲ被告人ニ訊問シ其事件ヲ明確ナラシメ又其事實ノ證據トナリシモノハ必要ナル調書例ヘハ司法警察官ノ作リタル訊問調書證人鑑定人ノ供述調書ノ如キ其他檢證調書又ハ自首書等總テ之ヲ書記ニ朗讀セシム之レ證憑トシテ採用スルカ爲メ又被告ヲシテ辯解セシムルカ爲メナリ

又證人アルトキハ之ヲ呼入レテ供述ヲ聽キ證據物件アルトキハ之ヲ示シテ辯解セシムル等總テ犯罪事件ノ證憑ヲ取調フニアリ○被告人白白セシトキハ他ノ證憑ノ取調ヲ爲スニ及ハスト爲シタリ之レ輕微ナルヲ以テナリ原來自白ハ危險ニシテ虛僞ノ自白ナナシ入獄ヲ望ムモノアリ又ハ他ノ罪ヲ己レニ引受クル等ノ弊害アレハ自白ハ決シテ信スヘカラサルモノナリ左レハ區裁判所ノ事件ハ輕微ナレハ以テ此弊害ナシト看做セハナリ

第二百二十條　證憑調濟ノ後檢事ハ事實及ヒ法律適用ニ付キ意見ヲ陳述ス可シ

被告人及ヒ其辯護人ハ答辯ヲ爲スコトヲ得

檢事、被告人及ヒ辯護人ハ迭ヒニ辯論ヲ爲スコトヲ得但辯論ノ

○自白トハ自分ヨリ犯罪アリト服從スルモノヲ云フ

○法律適用トハ刑法第何條ニ該ルト云フノミナラス免訴無罪ノ場合ハ刑事訴訟法第二百廿四條

ニ依ル云々トモ亦同シ云フ
○最終トハ辯論ノ一番終リヲ云フ

最終ニハ被告人又ハ辯護人ヲシテ供述セシム可シ
○證憑取調濟ノ後ハ事實及ヒ法律ノ適用ニ付キ意見ヲ述ヘ被告人及ヒ其辯護人ハ之レカ相手方ノ地位ニアレハ答辯ヲ爲スコトヲ得又辯論アレハ互ヒニ辯スヘキモ必ラス辯論ヲ爲スヘシト命セス夫レ辯論ハ事實ト法律トニ渉リ檢事ハ有罪ノ事實ニシテ此ノ刑ニ比適スヘキ旨ヲ辯論シ被告人及其辯護人ハ罪トナルヘキ事實ニアラス又刑ノ解釋ヲ異ニスト辯スルカ如シ之レ大ニ必要ナルモノニシテ裁判官ヲシテ心證ヲ動カス力アルヘシ尤トモ還憾ナカラシメンカ爲メニ被告人又ハ辯護人ヲシテ供述セシムルモノトス

第三百二十一條　公訴ニ付キ辯論終リタル後民事原告人ハ被害ノ事實ヲ證明シ且私訴ニ付キ其請求スル所ヲ陳述ス可シ
被告人、辯護人及ヒ民事擔當人ハ答辯ヲ爲スコトヲ得
○私訴ハ公訴ヲ終リタル後ニ取調ヲ爲スニアリ故ニ原告人ハ先ツ被告ノ事實例ヘハ壁ヲ四方一尺計リ毀タレタリ又ハ脇ニ傷ヲ負ハサレタリト云フカ如ク事實ヲ詳

細ニ陳述シ且之レヲ證明シ例ヘハ臨檢調書ヲ以テシ又ハ醫師ノ診斷書ヲ以テスルカ如シ而シテ其損害ハ云々ヲ賠償アランコトヲ求ムト陳述スルヲ云フ○被告人辯護人及ヒ民事擔當人ハ之レカ相手方ニアレハ之ニ對シ答辯ヲ爲スニアリ而シテ必ラス答辯ヲ命セス原告ノ請求ニ甘諾スルモ敢テ差支ナク又答辯セサルモ可ナリ

第三百二十二條　被告事件其裁判所ノ管轄ニ屬セサルトキハ判決ヲ以テ管轄違ノ言渡ヲ爲ス可シ若シ被告人勾留ヲ受ケタルトキハ放免ノ言渡ヲ爲ス可シ
本條ノ場合ニ於テ勾留ヲ要スルモノト認メタルトキハ前勾留狀ヲ存シ又ハ新ニ勾留狀ヲ發シ其事件ヲ檢事ニ交付ス可シ
○本條以下ハ判決ヲ爲ス手續ナリ區裁判所自己ノ管轄ニアラストセハ管轄違ノ言渡ヲナシ勾留セラレタルモノナレハ放免ノ言渡ヲナスヘク而シテ放免セハ逃走ノ恐レアリ又ハ左ナクモ重罪犯或ハ禁錮以上ノ刑ニ該ルモノニシテ未タ勾留狀ヲ受サルモノニシテ危險ナリトセハ勾留狀ヲ發シテ勾束シ其事件ヲ檢事ニ交付スヘシ

交付トハ引

キ渡スヲ云フ

○法律ハ刑法其他其罪ヲ罰スヘキ法律規則ヲ云フ

之レ區裁判所ニ於テ便宜ノ法ヲ執ラシメ罪人ヲシテ法網ヲ免カレシメサルニアリ

第二百二十三條　被告事件其裁判所ノ管轄ニ屬シ且犯罪ノ證憑十分ナルトキハ判決ヲ以テ法律ニ從ヒ刑ノ言渡ヲ爲ス可シ

○判決ヲ以テトハ豫審ノ如ク決定トシテ被告人ニ送達スルカ如キ類ニアラスシテ被告人ニ對シ對席又ハ欠席ノ上ニテ公廷ニ於テ檢事立會ヒ言渡ス裁判ナリトス其決定ト區別センカ爲メニ判決ト爲セシナリ

第二百二十四條　犯罪ノ證憑十分ナラス又ハ被告事件罪ト爲ラサルトキハ判決ヲ以テ無罪ノ言渡ヲ爲シ又第百六十五條第三號以下ノ場合ニ於テハ判決ヲ以テ免訴ノ言渡ヲ爲ス可シ

○無罪又ハ免訴ノ言渡ヲ爲ス場合ニシテ其人遊ヒナルトキモ亦證憑十分ナラサル部分ニ包含セシメ以テ無罪ノ言渡ヲ爲スニアリトス

○價額トハ金高ヲ云フ

第二百二十五條　前二條ノ場合ニ於テハ私訴ニ付キ其請求價額ノ多寡ニ拘ハラス判決ヲ爲ス可シ

○私訴ハ便宜上刑事ニ附帶シテ裁判スルニアレハ總テ此便宜ヲシテ十分貫徹セシメサルヘカラス故ニ假令區裁判所ハ請求金額百圓以下ノ權限ナリト雖モ私訴ニ付テハ其金額ニ拘ハラス百圓以下ハ勿論百圓以上ト雖モ第一審ノ判決ヲ爲スモノトス又私訴ハ有罪ノ時ノミナラス免訴無罪トナルモ賠償ヲ免カルヘカラサルヿハ第五條ノ原則アリ故ニ前二條ト明記シ以テ場合ヲ明ラカニスルモノトス

○欠席判決トハ初メヨリ出頭セサルマヽ判決ヲ爲スヲ云フ○私訴關係人トハ民事擔當人及ヒ被告人又ハ其代人ヲ云フ

第二百二十六條　呼出ヲ受ケタル被告人又ハ罰金以下ノ刑ニ該ル可キ事件ニ付キ其代人公判ノ期日ニ出頭セサルトキハ檢事ノ請求スル所ヲ聽キ欠席判決ヲ爲ス可シ

私訴關係人出頭セサルトキハ民事訴訟法ノ規定ニ從ヒ欠席判決ヲ爲ス可シ

○刑事ニ在テハ必ラス被告人又ハ其代人ノ出頭シタル上ナラテハ判決ヲ與フヘカラスト爲スヲ得ス然スルトキハ奸惡ノ徒ハ故サラニ欠席ヲ爲シテ刑事ノ判決ヲ免カルヘシ之レ民事ト同シク欠席判決ノ方法ヲ設クル所以ナリ而シテ檢事ハ原告ニ

シテ裁判所檢事局ニ出勸シアレハ欠席ノ患ヒナシ故ニ之レカ請求ヲ聽キ裁判ヲ下スモノトス其出勸セサルトキ欠席判決ヲ爲ス場合ハ次條ニ明ラカナリ○私訴ハ民事ノ性質ナリ故ニ民事訴訟法ニ從ヒ出頭セシモノヨリ欠席判決アランヿヲ申立テタル後判決ヲ爲スモノトス尙ホ余カ著ス民事訴訟法釋義ヲ一讀セヨ

第二百二十七條　禁錮ノ刑ニ該ル可キ事件ニ付キ被告人出頭セスト雖モ豫審終結ノ言渡書又ハ公判ノ呼出狀ヲ本人ニ送達シタル證アルニ非サレハ闕席判決ヲ爲ス可カラス

豫審終結ノ言渡書又ハ公判ノ呼出狀ヲ本人ニ送達スルコト能ハサル場合ニ於テハ裁判所ニテ猶豫ノ期間ヲ定メ其期間ニ被告人出頭セサルトキハ欠席判決ヲ爲ス可キ告知書ヲ其親屬又ハ其本籍若クハ最後ノ住所ノ地ノ市町村長ニ送達ス可シ若シ其本籍若クハ最後ノ住所ノ地分明ナラサルトキハ同上ノ告知書ヲ少クトモ一月間裁判所ノ掲示板ニ貼付シテ公示ス可シ

○貼付トハ張リ付ケルヲ云フ

○欠席判決ハ只呼出シタル日ニ出頭セサルノ故ヲ以テ爲スヘカラス必ラス本人ニ

況テ公判アルコト呼出アルヿヲ知リタル證アラサルヘカラス然ラサレハ知ラサル間ニ裁判スルノ恐レアルカ故ナリ之レ第一項アル所以ナリ○豫審決定書又ハ呼出狀ノ本人ニ送達スルヿ能ハサル時ハ告知書ヲ發シテ之ヲ知ラシム其告知書ヲ送達スヘキ場所ナキトキハ其告知書ヲ公示ス之レ尙ホ本人ニ知ラシメントスル方法ニ外ナラス以上ノ規定ハ皆被告人ヲシテ可成的出頭セシメ辯護權ヲ伸張セシメントスル保護ニ出テタルニアリトス

第二百二十八條　欠席判決ハ檢事其他訴訟關係人ノ請求ニ因リ欠席者ニ送達ス可シ

欠席判決ヲ受ケタル者ハ其判決ニ對シ故障ヲ申立ルコトヲ得

○欠席判決ヲ利用セントスルモノハ其判決ノ送達ヲ求ムヘシ例ヘハ檢事ノ此判決ヲ以テ執行セントスル時民事原告人ノ此判決ニ依テ賠償ノ執行ヲ要求セントスルトキノ如シ○欠席判決ハ片言ヲ以テ爲ス故ニ事實ノ眞實ニ適シタルヤ否ヤ未定ナリ故ニ之レカ故障ヲ爲スヿヲ許シ被告人ヲシテ可成寃罪及ヒ無原因ノ賠償ヲ受ケサ

○片言トハ一方ノミノ言葉ヲ聽クヲ云フ

ラシムルニアリトス蓋シ判決ノ公平ヲ維持スルニ於テ亦欠クヘカラサルモノナリ

第二百二十九條　故障申立ノ期間ハ三日トス此期間ハ罰金以下ノ刑ヲ言渡シタル判決及ヒ私訴ノ判決ニ付テハ欠席判決ノ送達ヲ以テ始マリ禁錮ノ刑ヲ言渡シタル判決ニ付テハ被告人自ラ其送達ヲ受ケ又ハ判決執行ニ因リ刑ノ言渡アリタルコトヲ知リタル日ヲ以テ始マル

○故障申立ノ期間ヲ定メタルハ判決ノ終了ノ際限ナキヲ憂ヒテナリ又其申立ノ期間ヲ起算スル點ニ於テ禁錮ノ刑ノ判決ト他ノ判決トノ區別アルハ蓋シ身体自由ヲ勾束スルニアルト否トニ外ナラス從テ被告人ノ身ニ取リ大小ノ關係ヲ有スルヲ以テ鄭重ニ爲スト否トニアリ又判決執行ニ因リトハ即チ逮捕セラレタルトキノ如キ場合ヲ云フ

第二百三十條　故障ヲ申立テントスル者ハ欠席判決ヲ爲シタル裁判所ニ其申立書ヲ差出ス可シ

○故障ヲ爲スハ原裁判所ニ申立書ヲ出ストセハ一事再理或ハ上訴ヲ受クルト同一ノ不都合ノ權衡ナルカ如キモ決シテ然ラス故障ハ一方ノ言ヲ聽キテ以テ裁判セシモノナレハ十分審理ヲ盡シタルモノニアラス左レハ正則ニ裁判ヲ受ケントセハ更ニ其裁判所ニ於テ爲ス事決シテ不都合ナルヿナシ之レ上訴等ト異ナル點トス

第二百三十一條　裁判所ニ於テハ故障ノ申立アリタルコトヲ相手方ニ通知シ且其事件ヲ公判ニ付ス可キ期日ヲ定メ訴訟關係人ヲ呼出ス可シ

○本條ハ故障ノアリタルコトヲ一方ニ知ラシメ且公判ノアルヿヲ知ラシム更ニ審理スルヿヲ覺悟セシムルニアリトス

第二百三十二條　裁判所ニ於テハ職權ヲ以テ故障ヲ許ス可キヤ否ヤ又故障ノ期間ニ於テ申立ヲ爲シタルヤ否ヤヲ調査シ此要件ノ一ヲ缺クトキハ判決ヲ以テ故障ヲ棄却ス可シ

○故障ノ申立ヲ採用スルハ故障ノ有効ナル場合ニアリ故ニ本案ノ如ク要件ノ一ヲ

欠クニ於テハ其故障ヲ棄却スル當然タリ蓋シ故障ノ効ナキニ公判ニ付スルカ如キハ之レ無益ノ手數ヲ加ヘ且ツ裁判ノ信用ヲ害スレハナリ

○受理トハ受付スルヲ云フ

第二百三十三條　故障ノ申立ヲ受理シタル場合ニ於テハ更ニ通常ノ規定ニ從ヒ裁判ヲ爲ス可シ

前項ノ場合ニ於テ故障申立人欠席シタルトキハ更ニ故障ヲ申立ルコトヲ得ス

○要件トハ故障ヲ許スヘキモノナルヿ故障ノ期間内ニ申立アリタルヿノ二個ヲ云フ

○故障カ正當ニシテ要件具備セシヿハ之ヲ受理シ更ニ公判ヲ爲シ欠席裁判ヲ爲ササル以前ニ復ス故ニ通常ノ規定ニ從ヒ裁判スルニアリ○若シモ此公判ニ欠席シタルヿハ更ニ其欠席判決ニ對シテハ故障ヲ爲スヲ許サス蓋シ斯ノ如クスルヿハ結局ヲ見ルヿヲ得スシテ一方ニ在テハ名ヲ故障ニ借リテ刑罰ヲ免カレントスル徒アルヲ以テ之ヲ防クカ爲メニ再度ノ故障ヲ許ササルニ外ナラストス

第二百三十四條　第二百四十七條第二百四十八條ノ規定ハ關席判決ニ對スル故障ニモ亦之ヲ準用ス

○第二百四十七條第二百四十八條ハ天災其他避ク可カラサル事變ノ爲メ經過セシ上訴期間ヲ回復スル手續タリ欠席判決ニ於テモ之ヲ準用スルトノ法條ナルヲ以テ天災其他避クヘカラサル事變ノ爲メ法定ノ期間内ニ故障ノ申立ヲ爲ス能ハサルヿハ其理由ヲ申立テ以テ已ニ經過セル期間ヲ回復スルヿヲ得セシムルモノトス其詳細ハ同條ニ因テ知ルヘシ

第三章　地方裁判所公判

第二百三十五條　地方裁判所ニ於テハ豫審判事又ハ上級裁判所ヨリ事件ヲ移ス裁判ニ因リ其管轄ニ屬スル輕罪及ヒ重罪ノ公訴ヲ受理ス

又輕罪ニ付テハ檢事ノ起訴ニ因リ其公訴ヲ受理ス

○本條ハ地方裁判所カ事件ヲ受理スル場合ヲ示シタルモノニシテ第二百十二條ト同一ナリトス只區裁判所ニ在テハ違警罪ト輕罪ノ二種ニシテ地方裁判所ハ輕罪ト重罪トノ二種ニアリトス

第二百三十六條　前章ノ規定ハ此章ニ別段ノ定メナキモノニ限リ地方裁判所ノ輕罪、重罪ノ公判ニ準用ス

○同シ手續ハ重復ヲ厭ヒテ以テ別ニ此章ニ明記スルコトナク前章ヨリ準用ス其條々ハ第二百十三條乃至第二百三十四條ニシテ而シテ第二百十九條ノ第三項ハ第二百三十九條ニ依テ用ヒサルノミトス

第二百三十七條　重罪事件ニ付テハ開廷前裁判長又ハ受命判事ハ裁判所書記ノ立會ニ依リ一應被告人ヲ訊問シ且辯護人ヲ選任シタルヤ否ヤヲ問フ可シ

若シ辯護人ヲ選任セサルトキハ裁判長ノ職權ヲ以テ其裁判所所屬ノ辯護士中ヨリ之ヲ選任ス可シ被告人及ヒ辯護士ニ異議ナキトキハ辯護士一名ヲシテ被告人數名ノ辯護ヲ爲サシムルコトヲ得

書記ハ本條ノ訊問ニ付キ特ニ調書ヲ作ル可シ

○辯護人ハ未タナキヲ以テ夫マテハ代言人ヲ以テスルモノトス

○鄭重トハ大切叮嚀ニ爲スヲ云フ

○重罪事件ハ重大ニシテ實ニ鄭重ニ爲ササレハ身体自由及ヒ財產名譽等ニ大ナル損害ヲ來タシ不利益ヲ招クモノナレハ開廷前一應訊問シ被告事件ヲ十分知リ又被告人ノ主張スル要点及ヒ證據方法ヲ知リ且其人ト爲リヲモ知リテ公判上大ナル便利ヲ與フルニアリ又辯護人ヲ選任スルコトヲ問フハ被告人ニ選定權アルヿヲ知ラシメ且之レカ選任セサルトキハ裁判長ヨリ命スルハ辯護權ヲ重ンスルニ外ナラス○書記ハ特ニ調書ヲ作リ以テ被告人ヲシテ辯護權アルヿヲ知ラシメタルヤ否ヤ又鄭重ナル手續ヲ盡シタルヤ否ヤ後日ノ爲メニ爲スニアリトス

第二百三十八條　裁判所ニ於テ事實發見ノ爲メ必要ナリトスルトキハ檢事其他訴訟關係人ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ受命判事ヲシテ臨檢ノ處分ヲ爲シ報告ヲ爲サシムルコトヲ得

○犯罪ノ有無及ヒ損害ノ多寡等事實上必要ナリトスルトキハ實地ニ臨檢ヲ爲シ其報告ヲ爲サシムヘシ而シテ裁判官總テ出張セサルハ費用ノ嵩ムノミナラス一部全員出張スルニ於テハ他ノ事務ニ差支ヲ生スルヲ以テ受命判事一名ヲシテ臨檢セシム

ルニアリトス

○自白トハ自ラ罪ヲ犯シタリト云ヒ出ツルヲ云フ

第二百三十九條　裁判所ニ於テハ被告人其罪ヲ自白シタルトキト雖モ仍ホ證憑ヲ取調ヘサル可カラス

○人ハ自己ノ不利益ナルコトヲ自ラ云ヒ出スハ全ク人情ニ反スルモノナリ況ンヤ犯罪ヲヤ故ニ自ラ其罪ヲ犯シタリト云フカ如キハ實ニ危險ニシテ信スルニ足ラス從來ノ實驗スル處ニ依レハ衣食住ニ窮スルヨリ入獄ヲ希ヒ又ハ他人ノ罪ヲ自己ニ受ケテ其他人ヲ免カレシメ又ハ恩人等ノ爲メニ身ヲ犧牲ニ供スルナシトセス之レ只自白ノミヲ以テ十分ナリトセス仍ホ他ノ證憑ヲ取調フルノ必要ヲ生ス第二百十九條第三項ノ場合ト全ク反對ナルハ其事件ノ微罪ナルカ爲メ別ニ虛僞ノ自白ヲ爲スモノモアラサルヘク又好シアリトスルモ大ナル弊害アルコトナシ之レ其差異アル所ナリトス

○虛僞トハ「ウソ」「イツワリ」ナリ

第二百四十條　裁判所ニ於テハ被告事件區裁判所ノ管轄ニ屬スルモノト認メタルトキト雖モ第一審ノ判決ヲ爲ス可シ

私訴ニ付キ其請求ノ價額通常民事上區裁判所ノ管轄ニ屬スルトキ亦同シ

○正則上ヨリ云ヘハ地方裁判所ニ於テ區裁判所ノ管轄スル事件アルトキハ之ヲ區裁判所ニ移スハ當然ナリ然ルトキハ其時日ト費用トヲ消スルノミナラス地方裁判所ハ其區裁判所ヲ管轄シ且區裁判所ヨリ地方裁判所ノ方鄭重ニシテ被告ノ身ニ取リテモ決シテ不利益ナルヿナシ依テ變則ヲ設ケ第一審ノ判決ヲ爲スモノトス○私訴ニ付テモ金額百圓以下ハ管轄違ノ裁判ヲ爲スヘキハ當然ナルモ公訴ノ理由ト同シク便利上タリ地方裁判所ニ於テ第一審ノ判決ヲナスニアリ殊ニ私訴ハ附帶スルナルニ依リ公訴ヲシテ第一項ノ如ク規定セハ從テ私訴ヲ第二項ノ如ク規定スルハ當然ノ理由ナリトス

○動產トハ合議制ニテ裁判セラレ單獨判事ヨリ諸手續カ精密ナルヲ云フ

第二百四十一條　裁判所ニ於テ輕罪トシテ受理シタル事件ヲ重罪ナリトスルトキ又ハ檢事ヨリ更ニ其事件ヲ重罪トシテ訴追スルコトヲ申立タルトキハ豫審判事ニ送付スル決定ヲ爲ス可シ但被

○訴追トハ訴ヲ爲スト云フニ同シ

告人勾留ヲ受ケサルトキハ勾留狀ヲ發ス可シ

其被告事件豫審ヲ經タルトキハ公判ヲ止メ更ニ重罪事件トシテ裁判ス可キ旨ノ決定ヲ爲シ受命判事ヲシテ其事件ノ取調ヲ爲シ報告ヲ爲サシム可シ

受命判事ハ豫審判事ニ屬スル處分ヲ爲スコトヲ得

○檢事ヨリ初メ輕罪トシテ公訴ヲ起シタルモ重罪ナリトシテ更ニ訴追ヲナシ又ハ裁判官ニ於テ重罪事件ナリトスルトキハ其事件ノ豫審ヲ經タルト否トニ從ヒ左ノ手續ヲ爲スモノトス

豫審ヲ經サル事件　此場合ハ豫審判事ニ送付スルノ決定ヲ爲ス之レ重罪ハ必ラス豫審ヲ經ヘキ原則ナレハナリ而シテ重罪事件ナルヲ以テ被告人ヲ勾留スルヿ之レ勿論ナリトス

豫審ヲ經タル事件　此場合ハ已ニ豫審ヲ經タルモノナレハ再ヒ豫審ニ送付スレハ手數ヲ掛ルノ煩アルノミニシテ別ニ利益ナケレハ其無用ノ手數ヲ避ケ只受命判事

ヲシテ足ラサル處ヲ補フニアリ而シテ其事件ノ取調ヲ報告ス其判事ハ豫審判事ニ屬スル處分ヲ爲スヿヲ得ヘキハ事實ヲ明瞭ニシテ證憑ヲ集取スルニ大ニ必要ヲ感スレハナリ而シテ其處分トハ證人鑑定人ノ供述ヲ聽キ臨檢ヲ爲シ搜索ヲ爲ス類ナリトス

第五編　上訴

第一章　通則

○法律ニ許シタル上訴トハ法律ニ於テ上訴ヲ許サストノ明文ナキモノヲ云フ○上訴トハ控訴、上告、抗告ヲ包含ス

第二百四十二條　檢事其他訴訟關係人ハ法律ニ許シタル上訴ヲ爲スコトヲ得

檢事ハ被告人ノ利益ノ爲メニモ亦上訴ヲ爲スコトヲ得

○判事ハ神ニアラス必ラス其裁判ハ正當ニシテ人々ノ心服シ能フヘシト云フヲ得ス人々各其意見アリ必ラスヤ假令事實ニ誤アルモ法律ノ適用ニ間違ヒアルモ之ニ服從スヘシト强ユルヿハ條理ニ反シ自由ヲ害スルノ恐レアリ之レ上訴ノ道アリテ而シテ十分ニ伸張セシメ滿足ヲ與ヘサルヘカラス之レ上訴ノ道ヲ設ケ以テ自由ノ

權ヲ伸張セシムル所以ナリ而シテ本條ハ上訴權ヲ行用スル人々ニシテ皆裁判ニ直接ノ關係アルモノナリ其關係人トハ公訴ニ在テハ被告人法律上代理人ノ如ク私訴ニ在テハ民事原告人被告人法律上代理人(民事擔當人ヲ包含ス)等ヲ總稱ス○上訴ハ自己ノ利益ノ爲メ爲スニアリテ若シモ無罪ノ言渡ヲ受ケタル被告人ノ如キハ決シテ上訴ヲ爲ササルヘシ而シテ檢事ハ社會ノ代表者ナレハ被告人モ亦社會ノ一人ナレハ若シモ不利益ナル裁判ヲ受ケタル時被告ニ於テ上訴ヲ爲ササルニ於テハ檢事之レカ上訴ヲ爲スコトヲ得ヘシ

第二百四十三條　辯護人ハ被告人ニ代リ上訴ヲ爲スコトヲ得但被告人ノ明言シタル意思ニ反スルコトヲ得ス

○辯護人ハ被告人ヲ代表スルモノナリ被告人ノ利益ヲ謀ルモノナリ恰モ社會ニ代リテ爲ス檢事ト同一ナルヘキ乎左ハナク被告人ノ爲メニ辯論ヲナシタルモノナレハ被告人ヲ保護スルモ辯護人ヨリ外ナシト云フヘシ故ニ被告人ニ代リ上訴ヲ爲スヿヲ許ス然レ𪜈被告人ニ於テ自ラ判決ニ服シタリト云フニ尙ホ之ニ拘ハラス辯護人ニ於テ上訴ヲ爲スモノトセハ却テ公益ヲ害シ被告人ニ害ヲ加フルニアレハ之レヲ制限シ漫リニ上訴ヲ爲サシメサルニアリ其明言セサル𪜈ハ上訴ヲ爲スヿヲモ明言セサルモノナレハ之レヲ默過シタリト看做スヿヲ得ヘシ之レ但書ノ明記アル所以ナリトス

○法律上代理人トハ子ノ父母、後見人ニ於ケル白痴瘋癲ノ後見人管財人ニ於ケルカ如シ

第二百四十四條　被告人ノ法律上代理人ハ獨立シテ上訴ヲ爲スコトヲ得

○法律上ノ代理人ハ被告人ノ身体財産名譽等ニ至大至重ノ關係ヲ有シ被告人ノ自由勾束ハ法律上代理人モ亦勾束ヲ受ケタルノ感アリ其財産ニ付テハ實際上大ニ其影響ヲ受クルヲ感ス故ニ獨立シテ上訴ヲ爲ス權ヲ與フ其獨立シテハ前條ノ如ク明言ノ意思ノ有無ヲ論セサルニアリテ彼ノ私訴ノ如キ民事原告人ト被告人ト謀リテ法律上代理人ニ損害ヲ及ホスヿアルヲ慮ハカリテナリ

第二百四十五條　勾留ヲ受ケタル被告人上訴ヲ爲スニハ其申立書ヲ監獄署長ニ差出シ署長ハ之ヲ其裁判所ニ送致ス可シ

○取下トハ一旦上訴ヲナシタルヲ之ヲ繼續セサルヲ云フ從來稱ヘ來リシ願下ニ同シ

○勾留ヲ受ケタル被告人ノ上訴ハ其申立書ヲ直接ニ裁判所ニ差出サスシテ監獄署長ニ差出シ送致スルニアリ之レ直接ニ差出スモノトセハ被告人ノ勾留ヲ解カサルヘカラサルヲ以テナリ其裁判所トハ判決ヲナシタル裁判所ニシテ即チ之ヲ原裁判所ト云フ

第二百四十六條　檢事ヲ除ク外上訴ヲ爲シタル者ハ其判決アルマテ何時ニテモ之ヲ取下クルコトヲ得

○一旦上訴ヲ爲シタル件ハ假令中途ニ其判決ニ服スルモ之レカ取下ヲ許サス强テ上訴ヲ維持セシムルトセハ上訴ノ道ヲ開キナカラ上訴ヲ爲サシメサルニ同シ何レトナレハ人々一旦上訴ヲ爲サハ中途ニシテ止ムルヿヲ得スシテ上訴ノ不利益又ハ費用ノ嵩ムモ爲シ遂ケサルヘカラサル覺悟アルカ爲メニ躊躇シ終ニ上訴ヲ爲ササルニ至ルヘケレハナリ又上訴ヲ爲スヲ許スニ於テハ之ヲ取下クルモ亦之ヲ許ササルヘカラス之レ自然ノ道理ナリ又判決アル上ハ決シテ取下ヲ爲スヲ許サス結局後ニ係リ且判決ノ模樣ニ依リ取下ヲ爲スノ弊害アレハナリ又檢事ニ取下ヲ許ササルハ社會ノ代表者ナレハ自由ニ爲スヲ許サス

○天災其他避ク可カラサル事變トハ洪水地震大火戰爭傳染病ノ爲メニ通行遮斷ヲ命セラレタル時ノ如シ○回復トハ取戻スヲ云フ○障礙トハ天災事變ノアル間ヲ云フ

第二百四十七條　訴訟關係人天災其他避ク可カラサル事變ノ爲メ上訴期間ヲ經過シタル場合ニ於テ其旨ヲ疏明シタルトキハ其期間ヲ經過シタルニ因リ失ヒタル權利ヲ回復スルコトヲ得但障礙ノ止ミタル日ヨリ通常ノ期間內ニ其疏明方法ヲ申立書ニ記載シ上訴ヲ爲ス可シ

○上訴期間ヲ經過シタルトキハ上訴ヲ爲スノ權利ヲ失フハ第十七條ノ原則タリ然レトモ其經過スルヤ正當ノ事由ノ爲メ上訴權ヲ行フヲ妨害セラレタル時ノ如キハ其罪決シテ其人ニアラスシテ止ヲ得サル外來ノ爲メニ妨ケラレタルニアレハ此原則ヲ適用スルヿヲ得サルモノトス其事由トハ天災其他避ク可カラサル事變ナリトス而シテ此權利ヲ回復セントセハ其上訴期間ヲ經過セシハ正當ノ事由ナリトノ事ヲ疏明セサルヘカラス之レ自己ノ爲メニ利益ヲ得ントスル場合ナレハナリ又其回復ヲ爲スハ障礙ノ止ミタル日ヨリ通常ノ期間內即チ控訴ナレハ五日內上告ナレハ

三日内ニ其申立書ヲ差出スモノトス

第二百四十八條　前條ノ申立アリタルトキハ裁判所書記速ニ其申立書ヲ相手方ニ送達ス可シ相手方ハ三日内ニ答辯書ヲ差出スヿヲ得

上訴ヲ裁判ス可キ裁判所ニ於テハ檢事ノ意見ヲ聽キ先ツ其申立ヲ許ス可キヤ否ヤヲ決定ス可シ

○前條ノ申立ハ一方相手方ニ不利益ヲ蒙ムルニ依リ答辯セシムルモノトス○裁判所ハ檢事ノ意見ヲ聽キ先ツ權利回復ノ申立ハ之ヲ許スヘキヤ否ヤヲ決定セサルヘカラス然ラサルトキハ上訴ヲシテ有效ナリヤ否ヤヲ認定スルヿ難ケレハナリ

第二百四十九條　上訴完結ノ後其訴訟記錄ハ上訴審ニ於テ爲シタル裁判ノ謄本ト共ニ第一審裁判所ニ之ヲ返還ス可シ

○上訴アルトキハ檢事ヨリ一件記錄ヲ第二審又ハ第三審ノ裁判所ニ送付スルモノトス而シテ上訴裁判所ニ換テ上訴事件ニ付キ判決シタルトキハ之レ完結シタルモノナレハ其記錄ハ必要ナシ依テ第一審裁判所ニ返還スルニアリ其返還スル時上訴審

○上訴完結トハ上訴事件ノ落着トナリシヲ云フ裁判言渡アリタルトキニアリ

ニ換テ爲シタル判決ノ謄本ヲ共ニ返還スルハ之レ第一審裁判所ニ於テ上訴ノ結果ヲ知ラシメンカ爲メトス○第一審ノ判決ニ不服アリテ第二審ニ控訴ヲナシ其控訴ノ判決カ亦不服ニテ第三審即チ上告ヲ爲シタルトキハ其記錄ハ第二審ヨリ第三審ニ送付シ第三審タル上告裁判所ヨリ第一審ノ裁判所ニ返還スルニアリトス

第二章　控訴

第二百五十條　控訴ハ區裁判所又ハ地方裁判所ノ第一審ニ於テ爲シタル本案ノ判決及ヒ第百八十七條ニ規定シタル本案前ノ判決ニ對シ之ヲ爲スコトヲ得

○控訴事件ヲ受理スル裁判所ハ地方裁判所及ヒ控訴院ノ二箇トス而シテ地方裁判所ハ區裁判所ノ第一審ノ判決ニ對シ控訴院ハ地方裁判所ノ第一審ノ判決ニ對シ爲スニアリ而シテ何レモ本案ノ判決ニ對シテ爲スニアリ本案ノ判決トハ被告事件ノ全体ニ對シテ落着スヘキ判決ニシテ例ヘハ刑ノ言渡又ハ無罪免訴ノ言渡或ハ損害賠償ノ言渡ニアリトス○又第百八十七條ノ本案前ノ判決ニ對シテモ控訴ヲ爲スヿ

○控訴トハ第一審ノ裁判ニ服セス第二審裁判所ニ覆審ヲ求ムル訴ヲ云フ